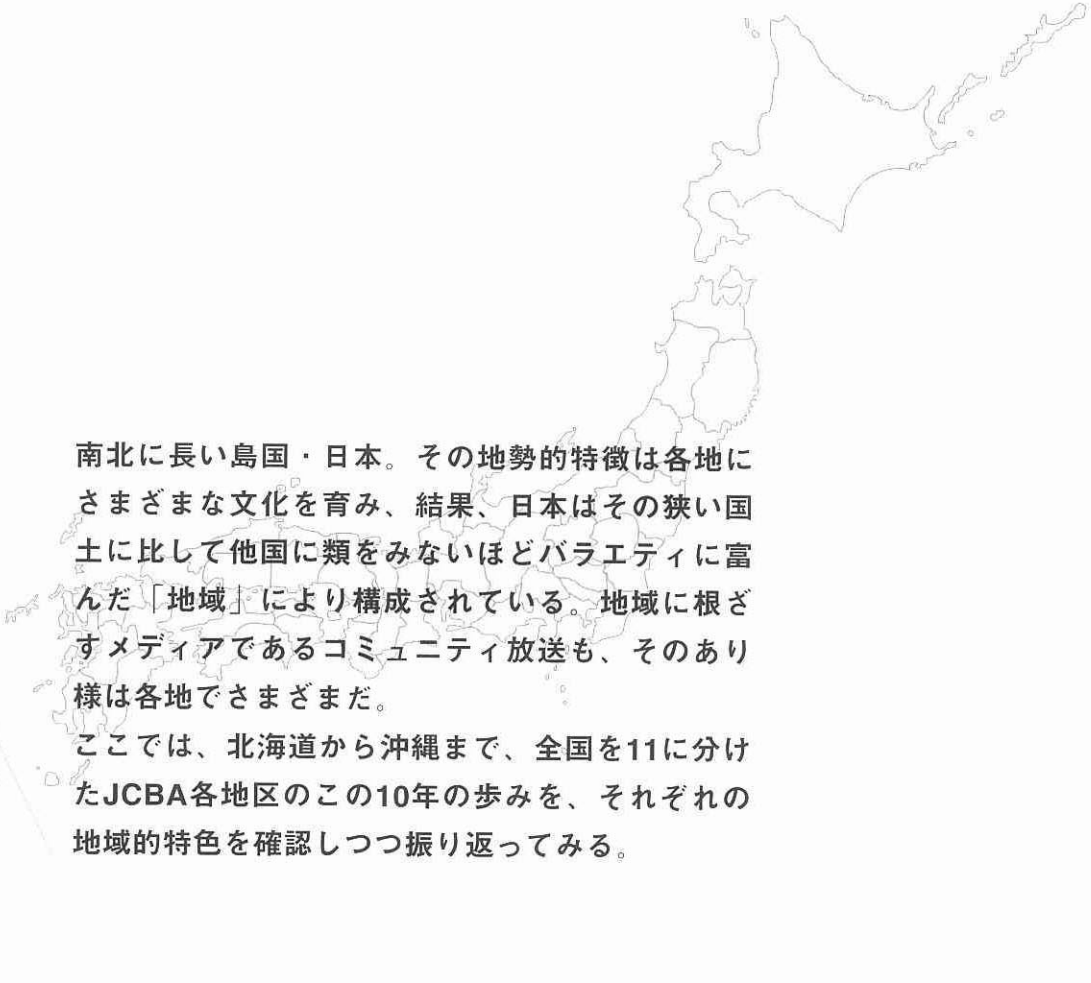


JCBA 各地区の 10年の歩み



南北に長い島国・日本。その地勢的特徴は各地にさまざまな文化を育み、結果、日本はその狭い国土に比して他国に類をみないほどバラエティに富んだ「地域」により構成されている。地域に根ざすメディアであるコミュニティ放送も、そのあり様は各地でさまざま。

ここでは、北海道から沖縄まで、全国を11に分けたJCBA各地区のこの10年の歩みを、それぞれの地域的特色を確認しつつ振り返ってみる。

■ 「北海道」における コミュニティFM放送局の役割と機能

北海道は、日本の最北端に位置し、四方を海に囲まれ、国土の5分の1以上を占める雄大な土地を持ちます。また、市街地の間に山野や平原が広がる場所が多い。言いかえると、街と街の間に広大な空間があり、モノと人とが隔絶されているということです。これらの特徴は、「共通・連続した共感や体験」が成立しにくい状況を生み、生活文化、習慣、商業環境、娯楽機能などにも違いを生じさせています。このことから、北海道はさまざまな分野において独自のエリアマーケティングが意識される地域であり、コミュニティ放送局においても、地域ごとにそのエリアを分けています。

函館の「FMいるか」を第1号として、現在（平成15年度末）北海道内のコミュニティ放送局は16局。都道府県単位でみると、最多開局地域となっています。しかし、誕生以来の時間経過が短い局もあり、局自身も周囲も、その役割と機能を十分に把握できていない状態にあります。

各局のあり様もそれぞれ。全番組を自社制作している局や、地域住民から比較的スムーズに認知された局、また広告収入と周辺事業収入をあげている局、都市部にありながら個性に特化した局など、さまざまです。

■ “第1号局” 開局までの道のり

1992（平成4）年12月24日、日本のコミュニティ放送の記念すべき第1号局「FMいるか」が開局します。

FMいるかは、函館の街の活性化と市民への還元を目的に、函館山ロープウェイ株式会社の新規事業として開局しました。このきっかけは、函館山ロープウェイ株式会社の西野鷹志社長がアメリカへ視察に行ったことに始まります。アメリカには小さなラジオ局がたくさんあり、オリジナリティ豊かに放送していることを知り、ぜひ日本でやりたいと思ったのが発端でした。1990（平成2）年に郵政省（当時）のコミュニティ放送事業構想の情報を察知し、いち早く名乗りをあげて



「FMいるか」開局を記念して市民からプレゼント

います。

そして、開局に向けて、あらゆる面での検討が郵政省との間で始まりました。提出する書類にしても、第1号局という



「FMいるか」実験放送のひとコマ

ことで前例がなく、決められた書式もありません。まずは認可の申請書類の作成からでした。

それから北海道では、コミュニ

ティ放送の普及促進に関する協議・提言を目的として、1991（平3）年11月にNHK・民放を含む62企業団体、14の市町村等で構成する「北海道コミュニティ放送推進協議会」が設立されています（事務局：北海道電気通信監理局）。この推進協議会では、道内各地で実験局を実施、それをもとにコミュニティ放送事業化の指針となるガイドラインを制作しました。

まず、1992（平4）年4月に函館市で「コミュニティ放送局を設立するための実験局のための試験電波」と題した放送が、20日間テストケースとして発信されます。市民には開局に対する期待もあり、好意的に迎えられましたが、0.5Wという微弱な出力だったため、苦情も多いのが実状でした。放送できる範囲が狭く受信状態も良好とはいえず、ごく一部の人しか聴くことができなかったのです。

各地で実施された実験局は、今後予想されるタイプの放送局の電波伝搬実験を目的に実施。さらに函館と旭川では住民に対してのアンケートも行っています。各地の実験局の位置づけは、函館＝観光都市（現・FMいるか）、旭川＝中核都市（現・FMりべる）、帯広＝地方都市（現・FM JAGA）、サホロ＝リゾート地。これらの実験で得たデータをガイドラインにまとめて、全国の自治体や関係機関等に配布、コミュニティ放送局の「ガイドライン」としました。

このような経緯を経て日本初のコミュニティ放送局「FMいるか」が誕生するわけですが、本放送開始は、コミュニティ放送の出力上限1Wに対し、送信所の高さが334mだったことから、出力0.1Wによる開局となりました。

■ 相次ぐ開局

函館市の「FMいるか」に続き、1年後の1993（平5）年12月、旭川市「FMりべる」が開局。その目的は、地域に密着した情報発信拠点となり、豊かな街づくりに貢献することでした。そして、1994（平6）年11月には釧路市「FMくしろ」、12月に帯広市「FM WING」、同じく12月に帯広市「FM JAGA」が相次いで開局。いずれも地域に密着した情報の提供、地域社会への貢献



「FMリベール」大雪山（カムイミンタラ）事業の一環として開催の公開録音イベント
2002（平14）年3月

を目的とした開局でした。このように第1号局開局から約2年の間に、北海道はいち早く開局ラッシュを迎えたのです。

その後は、1995（平7）年の放送電力の規制緩和を受け、

1996（平8）年に岩見沢市「エフエムはまなすジャパン」、稚内市「FMわっぴ〜」、札幌中央区「ラジオカロス サッポロ」、小樽市「FMおたる」が、それぞれ10Wの規模で次々と開局しました。

■よりきめ細かな地域情報を提供

続く1997（平9）年からは、北海道第1の都市・札幌で複数のFM局が生まれています。まず1997（平9）年4月に「FMアップル（豊平区）」が開局。翌1998（平10）年4月には「三角山放送局（西区）」、その後1年おいて2000（平12）年4月に「ラヂオノスタルジア（中央区）」が開局しました。

札幌市内には既に県域のFM局、また先発局「ラジオカロス サッポロ」がある中で開局を試みたこれらの局は、それぞれが個性にあふれています。「FMアップル」は、生活に役立ち、楽しめる放送を目指し、その大胆な番組編成は他メディアからも注目を浴びました。また「三角山放送局」は、局の所在する西区の情報を中心に伝え、地域からの番組参加者も積極的に募る他、コミュニティ放送局としては全国で3番目にインターネット放送も始めています。そして「ラヂオノスタルジア」は、現在聴くべきFM放送を持たない中高年層にターゲットを絞り、放送内容も選曲もこの年代のニーズに応えた“ミドルエイジ御用達”の局を標榜しています。先発の「ラジオカロス サッポロ」も、医療情報を編成の中心に据えるなど明確な特色を打ち出しており、札幌はまさに、個性あふれるコミュニティ放送の密集地帯



「エフエムはまなすジャパン」クリスマス特番を生放送中！

と言えるでしょう。

その他、1999（平11）年12月には日本の最東端・根室市に「FMねむる」、2001（平13）年11月には北広島市に、市木である「楓（メイプル）」の名前を冠した「FMメイプル」、同じく2001年11月には、滝川市民に向けた幅広い情報提供を目的に「FM G'Sky」が、それぞれ開局しています。

そして、いちばんのニューフェイスが、2003（平15）年4月に誕生した札幌市の5番目の局「さっぽろ村ラジオ」です。暗いニュースが続き、人々が“癒し”を求める時勢に合わせ、古き良き時代の「村（Village）」をイメージしたこのラジオ局は、“こころ”本位の放送をモットーとしています。

また、現在開局を検討している局・地域もあり、今後も各地域で独自の特徴を持つコミュニティ放送局が増えていくと考えられます。

■災害時の活動

1993（平5）年7月12日に発生した「北海道南西沖地震」は、マグニチュードが7.8で、震源地の間近に位置した奥尻島を中心として、地震・大津波・火事・山崩れ等により死者230名を数える甚大な被害を及ぼした災害でした。「FMいるか」はこの時、地元への情報提供を迅速に行い、“コミュニティ放送は災害時にも効果的”という評価を得ます。後の阪神・淡路大震災等の大災害への寄与に先がけて、防災面でのコミュニティ放送ならではの役割が公に認知された初めての出来事と言えるでしょう。



「FMくしろ」（コーチャンフォー釧路店内）

身近な話題 地域密着



記者がコミュニティFM出演
リスナーの反応早く
臨機応変に番組構成も

「ラジオカロス サッポロ」に新聞記者が体験出演
1999（平11）年4月26日 北海道新聞



「北ーガラス」に隣接する「FMおたる」局舎外観



「FMアップル」
コープさっぽろ「大豊禊祭り」イベント中継



「三角山放送局（らむれす）」木原くみこ氏
代表取締役にしてDJも務める



「FMねむる」『ヤッコママのパワフルリクエスト』に
根室高校が飛び入り生出演 2002（平14）年10月



「FMメイプル」お祭りイベントにメイプル
スタッフも参加 2002（平14）年7月



「FM G'Sky」局舎外観



「FMレイクトピア」の活動を伝える
新聞記事
2000（平12）年5月21日 北海道新聞

その後、1995（平7）年7月の全日空機ハイジャック事件の際も、「FMいるか」は地元で最新の情報を提供。既存大手メディアの情報発信までの時間差を埋める初期報道に効果を発揮しました。

また、2000（平12）年3月31日、有珠山が22年ぶりに噴火した際には、緊急災害FM放送「FMレイクトピア」が開局。地元住民への情報提供に大きな功績を残すとともに、“地域に資する狭域ラジオ放送の必要性”をアピールすることとなりました。このとき道内コミュニティ放送各局は、ボランティアスタッフを派遣したり、各地でチャリティ番組、イベントを展開しています。また、JCBAとしても、義援金を送り、このFM局の活動を支援しました。（→「防災とコミュニティ放送」40ページを参照）

■地域独自の取り組み

北海道は日本最大の競走馬生産地。また、道営の競馬、ばんえい競馬のレースが開催されるなど、古くから競馬ファンの多い地域でもあります。この事情を鑑み、「FMいるか」が1997（平9）年7月に、JRA中央競馬の実況中継をラジオたんぱの配信を受けスタート。これを皮切りに、「FMアップル」が同10月に、「FMくしろ」が同12月に、それぞれ中央競馬の実況中継をスタートさせました。なお、「FMいるか」では、1998（平10）年4月から、競輪の実況中継も行っています。

また、北海道の基幹産業である農業と連携した事業も積極的に展開しています。「FM JAGA」では2000（平12）年から、独身農業青年と独身女性との交流イベントを実施しています。ラジオで参加者を募り、当日の進行をDJが担当。“新しい出会いの場の提供”と

いう試みです。深刻といわれる農業地域の「お嫁さん探し」。十勝では地元のコミュニティ放送局が地域と協力して、その問題解決に取り組んでいます。

「FMいるか」では、同じく2000（平12）年から、「地域の魅力再発見・体験事業」として、独自でジャガイモ畑や田んぼを地元の農家や関係団体の協力のもと借り上げて、育成から収穫までの一連の農作業を、一般参加者を募り“体験会”として実施しています。

“地域”の枠を超えた活動も積極的に実践しています。一つは、「青函コミュニティFMネットワーク」です。「FMいるか」は、青森県内のコミュニティ放送局全4局「FM AZUR」「Be FM」「FM JAIGO WAVE」「FMアップルウェーブ」と、平成12年度から協同番組の制作と放送を実施しながら連携を深めていきましたが、2001（平13）年3月27日、正式に「青函コミュニティFMネットワーク協議会」を発足します。目的は、都道府県単位ではない、生活・経済圏、文化・歴史的交流圏といった視点での圏域間交流の促進です。同時に、加盟する5局の協同制作番組を、週1回、30分でスタートさせています。また、同3月31日には、上記5局が函館に集合し、協同制作公開生放送を実施。この模様は、コーデック（※）を活用して、5局で同時生放送しました。さらに2002（平14）年9月7日には、津軽海峡をクルーズ中の豪華客船に5局のパーソナリティが乗船し、通信衛星とコーデックを利用して、洋上公開生放送を5局同時で放送しました。

もう一つ、「FMわっぴ〜」の事例があります。日本の最北端・稚内に放送エリアを持つ「FMわっぴ〜」では、“地域”も“県域”をも飛び越え、海を隔てたロシア・サハリン州のFM放送局「ヨーロッパ・プラス・サハリン」との姉妹提携を、2001（平13）年8月に締結します。その2カ月後の10月にはロシア語の放送を開始。同時に、来航したロシア船に携帯ラジオ50台を寄贈しました。

主には、局の所在する“地域”を対象に放送を行なうのがコミュニティ放送ですが、これらの果敢な試みは、コミュニティ放送の新たな可能性を感じさせる事例でしょう。

※コーデック(CODEC)：データを圧縮／伸張するプログラム



「FMわっぴ〜」サハリン州FM局「ヨーロッパ・プラス・サハリン」との姉妹局調印式
2001(平13)年8月5日



「ラヂオノスタルジア」の入居するJRタワー

北海道地区協議会の活動

北海道地区では、過去2回、スタッフセミナーを行ってきました。

一つは、1995(平7)年9月21日に、函館市のいるか807ビルにて開催された「第1回全国コミュニティ放送局『経営者・スタッフセミナー』」(主催:JCBA)。阪神・淡路大震災という、あまりにも大きな災害を経験したこの年に行われた本セミナーには、コミュニティ放送14局(開局予定局含む)、関係企業、郵政関係者を含めた56名が参加し、大いに議論が交わされました。(→「防災とコミュニティ放送」42ページを参照)

もう一つは、JCBA北海道地区協議会主催の「第1回スタッフセミナー」です。1997(平9)年9月19・20日に帯広市で開催。講演会、分科会のほか、コミュニティFM局の見学もプログラムされていました。

またJCBA北海道地区協議会では、1999(平11)年に「北海道STORY21実行委員会」を組織し、「北海道STORY21~21世紀に伝える北海道の新民話~」事業を3年計画でスタートさせました。これは、北海道に伝わる民話の掘り起こしと、それらを21世紀に伝え残していくことを目的に始めた事業で、北海道11局で採取、脚本化し、ラジオドラマに作り上げています。2001(平13)年ギャラクシー賞ラジオ部門ギャラクシー選奨を受賞したこのラジオドラマは、その後CD3枚組としてまとめられ、全道の小中学校・図書館に寄贈されました。

今後の課題

北海道地区は、本州とりわけ関東圏などとは経済や生活文化の面などで環境条件が異なります。このことから、独自の役割と機能の開発が期待されます。今後の北海道コミュニティ放送の課題は「商業性の開発・商業機能の強化」であると考えられますが、局自身の成熟度がいまだ不足していることもあり、“役割と機能”については、今後の大きな課題といえるでしょう。

JCBA北海道地区協議会の10年、及び加盟各局の歩み

1992(平4)年	12月24日	はこだてFM放送局(函館市/愛称:FMいるか、81.7MHz、電力0.1W)開局。日本のコミュニティ放送局の歴史が始まる。
1993(平5)年	7月12日 12月23日	FMいるか「北海道南西沖地震」に対応。旭川シティーネットワーク(旭川市/愛称:FMリバー、83.7MHz、電力1W)開局。
1994(平6)年	11月1日 12月23日 12月24日	エフエムくしろ(釧路市/放送局名:FMくしろ、76.1MHz、電力1W)開局。 おびひろ市民ラジオ(帯広市/愛称:FM WING、76.1MHz、電力1W)開局。 エフエムおびひろ(帯広市/愛称:FM JAGA、77.8MHz、電力1W)開局。
1995(平7)年	4月 6~7月 6月21日 12月24日	FM JAGA、FMいるかが、STV(札幌テレビ放送)への地域情報配信をスタート。 各局で放送電力の増力が相次ぐ。(FMいるか:1W→3W、FMリバー・FMくしろ・FM WING・FM JAGA:1W→10W) FMいるか「全日空機ハイジャック」に対応。初期報道に効果を発揮。 FMいるか、開局3周年記念事業としてCD「函館の音」を制作。
1996(平8)年	4月1日 7月1日 7月20日 7月27日 8月	コミュニティエフエムはまなす(岩見沢市/愛称:エフエムはまなすジャパン、76.1MHz、電力10W)開局。同時に、市民サポーター制度「オニオンネットワーク(現オニオン共和国)」を設立。 エフエムわっかない(稚内市/愛称:エフエムわっぴ〜、76.1MHz、電力10W)開局。 札幌コミュニティ放送局(札幌市中央区/愛称:ラジオカロス サッポロ、78.1MHz、電力10W)開局。 エフエム小樽放送局(小樽市/愛称:FMおたる、76.3MHz、電力10W)開局。 FM JAGA、環境庁「日本の音風景百選」事業の十勝窓口となる。
1997(平9)年	4月7日 7~12月 9月19・20日 12月25日	エフエムとよひら(札幌市豊平区/愛称:FMアップル、76.5MHz、電力10W)開局。 FMいるか(7月)・FMアップル(10月)・FMくしろ(12月)、JRA中央競馬の実況中継を、ラジオたんぱの配信を受けスタート。 北海道地区協議会、帯広にて第1回スタッフセミナーを開催。 FMいるか、開局5周年記念事業としてCD「函館の音II(函館のバイブオルガン)」を制作。
1998(平10)年	4月1日 4月 10月	らむれす(札幌市西区/愛称:三角山放送局、76.2MHz、電力10W)開局。 FMいるか、競輪実況中継をスタート。 北海道地区協議会、岩見沢にて第2回スタッフセミナーを開催。
1999(平11)年	~2001年 10~12月 12月24日	「北海道STORY21~21世紀に伝える北海道の新民話~」スタート。 再び各局で放送電力の増力が相次ぐ。(FMわっぴ〜・三角山放送局・FM JAGA・FMいるか・FMリバー:10W→20W) ねむろ市民ラジオ(根室市/愛称:FMねむろ、76.3MHz、電力20W)開局。
2000(平12)年	1月 4月 4月19日 5月8日 10月	FMおたる、放送電力を10Wから20Wへ増力。 FMアップル、放送電力を10Wから20Wへ増力。 札幌ラヂオ放送(札幌市中央区/愛称:ラヂオノスタルジア、78.6MHz、電力20W)開局。 有珠山噴火復興通信FMレイトトピア計画がスタート。 ラジオカロス サッポロ、放送電力を10Wから20Wへ増力。
2001(平13)年	3月27日 5月 6月25日 8月 10月 10月 11月1日 11月25日 12月	FMいるか、青森県内の4つのコミュニティ放送局と「青函コミュニティFMネットワーク協議会」を発足。同31日には共同制作公開放送を実施。 FMアップル、「太陽光発電システム」による放送機器への電力供給を開始。 FMくしろ、CDレーベル「K-FM ReCORDS」を立ち上げる。同時に、第1弾アーティスト北野志保理がCDデビュー。 FMわっぴ〜、ロシア・サハリン州FM放送局「ヨーロッパ・プラス・サハリン」との姉妹提携を締結。 FMわっぴ〜、ロシア語番組の放送を開始。来航ロシア船に携帯ラジオを50台寄贈。 FMくしろ、放送電力を10Wから20Wへ増力。 北広島エフエム放送(北広島市/愛称:FMメイプル、79.9MHz、電力20W)開局。 エフエムなかせらち(滝川市/愛称:FM G'Sky、77.9MHz、電力20W)開局。 FM JAGA開局7周年を記念して「広告大賞」を創設。
2003(平15)年	4月1日 4月 9月26日	さっぽろ村ラジオ(札幌市東区/愛称:さっぽろ村ラジオ、81.3MHz 出力20W)開局。 FM JAGA自社レーベルCD「音楽紀行十勝野」を制作・発表。 「2003十勝沖地震」発生。十勝沖(北緯42.0度、東経143.9度)の深さ25kmを震源とし、M8.0、最大震度6弱を観測し、多くの被害をもたらした。道内の各局でこれに対応する。
2004(平16)年	3月22日	FMいるか、北海道地域文化選奨特別賞受賞。

■東北地区のコミュニティ放送の特徴

北は津軽海峡から南は白河の関まで、その距離がおおよそ500kmにわたる東北地方。6県の自然環境はその広さゆえにバラエティに富み、各地の気候・風土に合わせて独自の文化や生活様式が育まれてきました。地域密着を目的に開設されたコミュニティ放送にも同じことがあてはまります。現在東北地区協議会に加盟する20局は、それぞれ各地域のニーズに応じたオリジナリティあふれる番組の制作・放送に努めています。

2003（平15）年に連続して発生した三陸南部地震、宮城県北部地震の際には、当該地方の各局がきめ細かな災害情報を24時間体制で伝え、防災面においても地域住民のコミュニティ放送に対する期待度がいっそう高まりました。

また、東北地区協議会としての共同番組の制作にも力を注いでいます。例えば、全局持ち回りで制作を担当し、それぞれの地元の特産品・観光地を紹介する番組『ONE DAY TRIP』（毎週金曜日13：10～）は、3年にわたり全局オンタイムで放送しています。毎年8月には、東北地方の夏祭りを県ごとに紹介する『夏だ！祭りだ！TOUHOKUを遊びつくせ！』を制作。防災の日の9月1日には防災特番『災害！そのときあなたは』を、国土交通省や各県・自治体、東北電力、NTTなどの全面協力の下に制作。いずれの番組でも各局の強い結束が見られ、その成果がリスナーの好反響となって現れました。

そして、2000（平12）年末のジョン・レノン没後20年記念番組『Starting Over ～ここから始めよう』では、ジョンの妻であるオノ・ヨーコ氏のインタビューを実現。ニューヨークから「世界平和は地域から」というメッセージが送られ、話題となりました。



「Be FM」開局2周年記念特別番組を放送 2001（平13）年1月1日

■各局の特色と取り組み

1995（平7）年4月1日の「ラジオ モンスター（山形市）」の開局から今日までに、青森県・4局、岩手県・1局、宮城県・6局、秋田県・3局、山形県・2局、福島県・4局と計20局が開設されています。各局が地域の特性をどのように運営や放送に反映しているか、北の県からそれぞれの局の特色について紹介しましょう。

・青森県

「FM AZUR<アジュール>（むつ市）」は1997（平9）年10月1日の開局。青森県初のコミュニティ放送局です。市民と行政のネットワークの構築、地域文化の向上、流通経済促進を目的として、また災害時の生活情報の砦となるべく開設されました。愛称のAZUR（アジュール）はフランス語で“紺碧”の意味。本州の最北端、三方を海に囲まれた下北半島の中心・むつ市のコミュニティ放送ならではの命名です。

1999（平11）年1月1日開局した「Be FM」は港町・八戸市が拠点。愛称の由来は、Be（動詞）で「FMしよう!」という意味から。市民の発表や交流の場の創造、市民活動との連帯など地域の人たちが楽しく参加できる開かれた放送局を目指し、活気ある生の情報を毎日伝えています。

「FM JAIGO WAVE（南津軽郡田舎館村）」は2000（平12）年1月1日に、全国で始めて村単位で開局したコミュニティ局です。JAIGO（じゃいご）とは地元の方言で“田舎”の意味。スタジオが「道の駅 いなかだて」にあり、多くのリスナーが放送に参加しやすい環境づくりに努めています。

「FMアップルウェーブ（弘前市）」は、地域の活性化・市民情報の共有化・地域の防災をコンセプトに、2000（平12）年3月4日に開局しました。弘前市中心部にあるスタジオ前は、放送の様子をゆっくりと見学できるオープンスペースとして開放され、市民に親しまれています。



「ラジオ モンスター」の活躍を伝える新聞記事 1997（平9）年8月13日 産経新聞



「RADIO A」“出前放送中”の風景



「FMじょんぱ」 「本日のミニステージ」収録中

・岩手県

県庁所在地・盛岡市に1998（平10）年1月18日に開局した「ラジオもりおか」は、岩手県内唯一のコミュニティ局。盛岡広域圏で生活する人の生活を豊かにする情報・音楽を届けることを主旨としています。人気番組がWEB上で聴けるインターネット・ラジオも好評です。

・秋田県

秋田県でのコミュニティFM第1号は、1998（平10）年12月1日に開局した「RADIO A（秋田市）」。「新鮮な情報をより早くより正確に！」をモットーに、新鮮な情報、軽快な音楽、心地良いトークを心がけた都市型の番組作りを進めています。リスナーと触れあえるイベントの中継にも積極的で、幅広い支持を得ています。

1999（平11）年2月20日に開局した「FMゆーとびあ（湯沢市）」は、地元を題材にしたラジオドラマの制作や市内の小学校卒業生全員のインタビューなど、地域に根ざした番組制作に取り組んでいます。

農業で独自の特産品を全国に届ける雄和町に「エフエム椿台」が開局したのは2001（平13）年8月21日のこと。新鮮で活きのいい情報を届けることを目指します。ログハウス風のスタジオや、誰もが番組に出演できる時間枠を設けているのがユニークなところだ。



「FMゆーとびあ」街頭での収録風景

・宮城県

1996（平8）年2月21日に開局した「ラジオ3」は宮城県のコミュニティ放送第1号。100万都市仙台市の中心部・青葉区を放送エリアとして最新のタウン情報を届けています。みちのくプロレスのザ・グレート・サスケさんや浅野史郎宮城県知事など、バラエティーに富んだパーソナリティも魅力の一つです。また、Jリーグのベガルタ仙台の試合を完全実況生中継で放送し、リスナーとともにサポートしています。

仙台駅東部に位置する宮城野区が放送エリアの「FMじょんぱ」は1999（平11）年9月25日の開局。愛称の“じょんぱ”は「情報」の“じょ”と「電波」の“ぱ”を組み合わせた造語です。小さなイベントから大きなフェスティバルまで、どこにでも軽快なフットワークで出かける機動力が最大のセールスポイントです。

人口の平均年齢が35歳という仙台市のベッドタウン・泉区に2000（平12）年3月10日に誕生したのが「エフエムいずみ」。地元スキー場に開設したサテライト・スタジオからの生放送や、ラジオカーでの中継に積極的に取り組んでいます。

「BAY WAVE」が日本一のマグロの水揚げで有名な塩釜市に開局したのは1997（平9）年4月27日のこと。奥州一の宮・鹽竈神社を擁することもあり、大晦日は



「BAY WAVE」局舎外観



「ラジオ モンスター」スタジオ



「SEA WAVE FMいわき」 イベント会場より実況放送



「RADIO A」開局を伝える新聞記事
1998（平10）年11月21日 さきがけスポーツ

夜明かしで生放送を行っています。また、ジャズライブの生中継などにも力を入れています。

同じく港町として名高い石巻市をエリアとするのは、1997（平9）年5月28日開局の「ラジオ石巻」。地域の生

活情報や固有の伝統・文化の話題を、1日12時間の生放送の中できめ細かく伝えています。

四季折々の花々で飾られる“ハナトピアいわぬま”にスタジオを構えるのが、1998（平10）年4月30日開局の「ほほえみ（岩沼市）」。



「ハーバーラジオ」局舎外観

・ 山形県

東北地区のコミュニティ放送第1号は1995（平7）年4月1日開局の「ラジオ モンスター（山形市）」。「街の利便化、快適性を創造する」をコンセプトに、市の中心商店街・七日町から、市民生活に密着した行政・福祉・医療・タウン・文化情報などを提供しています。

米どころとして名高い酒田市で1998（平10）年10月10日に開局したのが「ハーバーラジオ」。「小さくとも迅速で正しい大きな情報」「酒田市民による酒田市民のための放送局」がコンセプトです。

・ 福島県

県庁所在地・福島市に1996（平8）年8月31日に開局したのが「FMポコ」。中継車「POCO号」を活用した番組や小学生の作文朗読コーナー、民話の時間など、地域の生活や文化に根ざした番組が人気です。

市の面積が120万平方メートルとシンガポールの2倍の広さを持ついわき市には、1996（平8）年9月1日に「SEA WAVE FMいわき」が開局しました。イベントと連動したサテライト・スタジオからイベント連動番組を放送するなど、36万人の市民とともに活動することをモットーとしています。

1996（平8）年9月21日に開局した「FM愛'S」は、白虎隊や鶴ヶ城、会津磐梯山でお馴染みの会津若松市が拠点。観光の町の特徴を打ち出しながら、プログラムは市民の手づくり番組を中心に構成されています。『わかまつキッズステーション』や、中学生出演の『わかまつスクールステーション』も好評です。

ラーメンと蔵の街として知られる喜多方市に2003（平15）年8月5日に開局したのが「エフエムきたかた」。東北地区で一番新しいコミュニティ放送局です。温もりある情報を届けるメディアとして、市民や観光客に親んでもらうことを目指しています。



山形で「第2回経営者・スタッフセミナー」開催
1997(平9)年10月15日



■ 東北コミュニティ放送協議会のあゆみ

1997(平9)年2月に当時開局していた5社で立ち上げた東北コミュニティ放送連絡会を前身として、翌1998(平10)年に東北コミュニティ放送協議会が設立されました。毎年、地元の会員社で持ち回りに総会、交流会(年に4回)を開催するほか、営業推進委員会・制作委員会・技術委員会の各委員会でもそれぞれに会合が持たれ、泊りがけの研修会なども行われています。

また、JCBA全体の活動として東北地区で行われたものに、1997(平9)年6月5、6日にいわき市で開催されたシンポジウム「地域のために今羽ばたくコミュニティ放送」があります。

そして、同年10月15日には、山形市の中央公民館と山形グランドホテルにて「JCBA 第2回経営者・スタッフセミナー」(主催:JCBA)が開催されました。(→「防災とコミュニティ放送」の章を参照)

東北地区協議会のもとに集結する20局は、強い結束力を持ってさまざまな局面に臨んでいます。全国の協議会で最初に共同の媒体資料を作成したのも東北地区でした。共同スポット・タイム料金をまとめあげ、営業活動を展開し、「広い地域で同一時間にCMが打てない。対応が面倒」と広告会社が指摘するコミュニティ放送の弱点を補ってきました。

また、冒頭でも紹介したように、積極的に共同番組の制作にも取り組んでいます。

これからも東北コミュニティ放送協議会は個の集合体として、チームワークの良さをネットという考え方に活かし、リスナーに愛される放送を目指して技術の向上、会員社の相互の研鑽に努めていきます。

JCBA東北地区協議会の10年、及び加盟各局の歩み

1995(平7)年	4月1日	山形コミュニティ放送(山形市/愛称:ラジオモンスター、76.2MHz)開局。
1996(平8)年	2月21日	仙台あおばコミュニティ放送(仙台市青葉区/愛称:ラジオ3、76.2MHz)開局。
	8月31日	福島コミュニティ放送(福島市/愛称:FMボコ、76.2MHz)開局。
	9月1日	いわき市民コミュニティ放送(いわき市/愛称:SEA WAVE FMいわき、76.2MHz)開局。
1997(平9)年	9月21日	エフエム会津(会津若松市/愛称:FM愛'S、76.2MHz)開局。
	2月4日	東北コミュニティ放送連絡会設立(仙台市)。
	4月27日	エフエムベイエリア(塩釜市/愛称: BAY WAVE、78.1MHz)開局。
1998(平10)年	5月8日	第2回東北コミュニティ放送連絡会開催(山形市)。
	5月28日	石巻コミュニティ放送(石巻市/愛称:ラジオ石巻、76.4MHz)開局。
	6月5・6日	シンポジウム「地域のために今羽ばたくコミュニティ放送」開催(いわき市)。
	10月1日	エフエムむつ(むつ市/愛称: FM AZUR、76.2MHz)開局。
	10月3日	第3回東北コミュニティ放送連絡会開催(仙台市)。
	10月15日	「JCBA 第2回経営者・スタッフセミナー」開催(山形市)。
1999(平11)年	11月	仙台あおばコミュニティ放送、社名を「仙台シティエフエム」に変更
	1月18日	ラヂオもりおか(盛岡市/愛称:ラヂオもりおか、76.9MHz)開局。
	2月20日	第4回東北コミュニティ放送連絡会開催(福島市)。
	4月30日	エフエムいわぬま(岩沼市/愛称:ほほえみ、77.9MHz)開局。
	5月21日	第5回東北コミュニティ放送連絡会開催(仙台市)。
	5月21日	「東北コミュニティ放送協議会」設立総会開催(仙台市)(会長:山形コミュニティ放送 代表取締役社長 玉井恒)。
2000(平12)年	10月10日	酒田エフエム放送(酒田市/愛称:ハーバーラジオ、76.1MHz)開局。
	12月1日	秋田コミュニティ放送(秋田市/愛称: RADIO A、76.5MHz)開局。
	1月1日	ビーエフエム(八戸市/愛称: Be FM、76.5MHz)開局。
	2月20日	エフエムゆーとびあ(湯沢市/愛称: FMゆーとびあ、76.3MHz)開局。
2001(平13)年	5月24日	平成11年度総会開催(仙台市)。
	9月7日	幹事会開催(仙台市)。
	9月25日	せんだい市民放送(仙台市宮城野区/愛称: FMじょんば、78.8MHz)開局。
	1月1日	エフエムジャイゴウェーブ(青森県田舎館村/愛称: FM JAIGO WAVE、76.3MHz)開局。
	3月1日	営業担当会議開催(仙台市)。
	3月4日	アップルウェーブ(弘前市/愛称: FMアップルウェーブ、78.8MHz)開局。
2002(平14)年	3月10日	せんだい泉エフエム放送(仙台市泉区/愛称: エフエムいずみ、79.7MHz)開局。
	5月2日	平成12年度総会開催(山形市)。
	7月25日	営業推進委員会開催(仙台市)。
	11月22日	営業推進班長会開催(石巻市)。
	12月8日	ジョン・レノン没後20年特別番組『STARTING OVER』放送。(全18局参加)。
	5月8日	平成13年度総会開催(盛岡市)。
2003(平15)年	6月1日	役員会開催(仙台市)。
	8月21日	秋田格台エフエム放送(秋田県雄和町/愛称: エフエム格台、79.6MHz)開局。
	8月28・29日	第1回営業推進委員会開催(湯沢市)。
	9月25日	役員会開催(仙台市)。
	11月16・17日	アナウンサー研修会開催(福島市)。
	11月28日	役員会及び営業推進委員会開催(盛岡市)。
2004(平16)年	2月15・16日	第2回営業推進委員会開催(石巻市)。
	3月21日	「JCBA法人移行に伴う諸事項についての協議」開催(仙台市)。
	5月28日	平成14年度総会開催(弘前市)。
	6月26日	営業推進委員会(盛岡市)。
	9月26日	「地域FM放送と防災機能に関する意見交換会」開催(弘前市)。
	10月21日	役員会開催(仙台市)。
2005(平17)年	5月7日	平成15年度総会開催(山形市)。
	7月23日	インターネットラジオ研修会開催(盛岡市)。
	8月5日	喜多方シティエフエム(喜多方市/愛称: エフエムきたかた、78.2MHz)開局。
	9月3日	営業推進委員会開催(仙台市)。
	9月22日	「レディオパシフィック委員会」開催(仙台市)。
	11月17日	役員会開催(仙台市)。

関東地区には現在29のコミュニティ放送局が開設されています。県別にみると、東京都・10局、神奈川県・10局、千葉県・3局、埼玉県・2局、群馬県・2局、山梨県・1局と、全体の65%を東京・神奈川の2都県が占めています。ここでは、大都市型のコミュニティ放送の特徴が顕著に見られるこの2都県と、その他の4県という2つのグループに分けて、それぞれの活動状況をご紹介します。

関東地区① 東京都・神奈川県

■東京地区のコミュニティ放送の特徴

首都・東京の地域性はビジネスや情報・文化の中心地というだけではありません。JR山手線の西側には「山の手」と呼ばれる閑静な住宅街が広がる一方で、東側はいわゆる「下町」と称される昔ながらの風情が残る地域もあります。東京でもそうした地域性が局の運営や番組制作に反映され、各局が地域と融合する個性豊かなコミュニティ放送を目指しています。

また、人口の密集する東京にあっては、各局ともエリア人口は100万人前後と十分な数を誇っており、そのため、他地区に比べて局の自立度は高く、いわゆる共同企画が、営業・番組制作両面ともに少ないのも特徴の一つと言えるでしょう。

■東京地区各局の活動状況

東京地区の開局第1号は「むさしのFM（武蔵野市）」。

1995年（平7）3月28日に中央線随一の商業地区である吉祥寺に誕生しました。音楽イベントや少年野球大会の中継、介護保険の解説番組、フリーマーケット情報など、地域の人々の幅広い関心に応える番組作りを進めています。また、100名の会員を擁する「むさしのFM市民の会」は、リスナーのネットワーク作り、番組作りなどに大きく貢献しています。

この年の5月には「FM TAMA G-WIND（多摩市）」が開局。可聴エリアに国立市や八王子市なども含まれ

ることから、地域内の大学や文化施設に関する情報提供も手がけます。

JR渋谷駅にほど近い超高層ビル内に局舎を構える「SHIBUYA-FM（渋谷区）」は、1996（平8）年4月28日の開局。都内でも有数の若者に人気の街にふさわしく、いわゆる「渋谷文化」の代表的な楽曲で構成される音楽番組が中心です。放送事業の他にも、“渋谷エリアジャック”や音楽CDのプロデュース、SKY Perfec TV!への配信事業なども展開しています。

1997（平9）年4月5日には「かつエフ（葛飾区）」が開局。300人のボランティアが番組ごとにチームを組み、150あまりの番組を制作・放送しています。スタッフが地域を駆け巡り、昔ながらの下町風情あふれる葛飾の「今」を午後のワイド番組『アフタヌーンボイス』で伝えます。

近年、高層マンションが次々と建設され新住民が急激に増加する江戸川区には、1997（平9）年11月30日に「FMえどがわ」が開局。落ち着いたゆったりと聴ける「大人の放送局」を目指して、パーソナリティもディレクターも第一線で活躍する専門家を起用し、洗練されたイメージの創出に務めています。

「エフエム西東京」は1998年（平10）1月31日に田無市に開局しました。2001（平13）年1月に田無市と保谷市が合併して西東京市となりましたが、合併前後には、市民の意識調査や市長と市民の対談番組などを行い、合併に関する市民の世論を盛り上げました。

1998（平10）年4月17日には住宅都市・調布市に「ちょうふFM」が開局。放送を通じて市民間のコミュニティを築くとともに、地域の商業活動の活性化を図ることを目指します。局のPRも兼ねて、毎月最終土曜日に調布駅前にサテライト・スタジオを開設。また、多摩川の花火大会の中継でも、機動性のあるサテライト・スタジオを積極的に活用しています。

多くの老舗が立ち並ぶ日本橋や銀座を擁する中央区には、1998（平成10）年5月31日に「RADIO CITY」が開局しました。プログラムの中心は、地域内住民だけでなく、在勤者や訪問者も視野に入れた情報&カルチャー番組。中央区とその隣接区に在勤・在住の20歳以



「むさしのFM」ライブ収録風景より

**「葛飾エフエム」と「エフエム江戸川」の連携
異例のスピード、今後のモデルケース**

知事花越えん事件

「葛飾エフエム」と「エフエム江戸川」の連携は、異例のスピードで実現された。これは、両局が、2003年7月9日、電波タイムズ社主催の「知事花越えん事件」に関する緊急生放送を行ったことに起因している。この生放送では、両局のパーソナリティが、知事花越えん事件に関する情報を提供し、市民の安全確保に貢献した。この連携は、今後のモデルケースとして注目されている。

「かつエフ」と「FMえどがわ」が速やかに連携して、行方不明児の情報提供を呼びかけ、無事保護されたことを紹介 1999（平11）年7月9日 電波タイムズ

上の女性を対象とする「OL CLUB」を組織し、番組に参加してもらっています。また、「東京湾大華火祭」の模様をインターネット・ライブ中継する試みも2002年・2003年と連続して行われました。

同年7月30日には「エフエム世田谷（世田谷区）」が開局。可聴エリアには明治大学や駒澤大学、成城学園など大学も数多く、『キャンパスRADIOカンパニー』や『ハイスクールHOTパーティー』など、地域内の大学生や高校生の自主制作番組も放送しています。

そして2003（平15）年7月18日には、「レインボータウンエフエム（江東区）」が開局。周波数の割当の関係から、東京23区での開局は難しいと言われた中で、開局にこぎつきました。東京の臨海副都心を可聴エリアとして、100%生放送を目指しています。

■防災・安全・行政情報に対する取り組み

防災については、「むさしのFM」「かつエフ」「FMえどがわ」「ちょうふFM」「FM TAMA G-WIND」「エフエム西東京」「エフエム世田谷」の7局が、地元行政と防災協定を締結しており、毎年、防災の日前後に特



エフエム西東京一局舎



「ちょうふFM」サテライト・スタジオ放送風景



「エフエムせたがや」キャロットタワー26階にある「スタジオキャロット」



「エフエム多摩G-WIND」いぎぎTAMAふれあいフェスティバルでのDJコンテストの様子



「かつエフ」番組放送風景

別番組を組むなど、行政をはじめとした地元との連携を深めています。

また選挙の際は多くの局が投票の呼びかけを行い、「むさしのFM」「ちょうふFM」「エフエム西東京」は開票速報を実施。この3局では市議会の中継放送も行っています。

安全・防犯情報に関しても、「かつエフ」や「むさしのFM」が灯油の誤販を直ちに放送して回収を呼びかけたり、「エフエム西東京」や「むさしのFM」では不発弾の処理を中継するなど、地域の安全確保に貢献しています。また、「かつエフ」の『安全ニュース』、「むさしのFM」の『武蔵野三鷹セーフティネット』、「FMえどがわ」の『防災アドバイス』、「エフエム西東京」の『まち情報842』など、地元の消防・警察との連携番組が、平時から市民の安全意識の向上を図っています。

また、「むさしのFM」がルーマニアとの2元放送を実施したり、「かつエフ」がスウェーデンの友好放送局と認定されるなど、地元自治体の友好都市との交流を深めている局もあります。

東京地区は、テレビやラジオのキー局や周辺ローカル局の放送をはじめとして、多種多様な電波の密集地帯であるため、「FMえどがわ」のように、事前に十分な調査のうえ割り当てられた周波数にも関わらず、混信を避けるために、開局直前に周波数の変更を余儀なくされるなど、アクシデントも少なくありません。しかし、与えられた免許の意義を大切にして、自局の存在価値を懸命にアピールしつつ日々の運営にあたっています。



「湘南ビーチFM」葉山の海が見えるスタジオの放送風景



「FM湘南ナパサ」ステッカー



「FMブルー湘南」ステッカー

■神奈川地区のコミュニティ放送

神奈川県では、1993（平5）年12月3日の「湘南ビーチFM（逗子市・葉山町）」の開局を皮切りに、これまで10局が開局。単独県としては多数局地域であり、中でも湘南地域はコミュニティ放送制度化からほどない時期に、「湘南ビーチFM」「FM湘南ナパサ（平塚市）」「FMブルー湘南（横須賀市）」「鎌倉FM放送（鎌倉市）」「レディオ湘南（藤沢市）」と開局が相次ぎました。

この5局は、災害時の放送協力協定の締結（後段で詳述）をはじめ、共同営業企画を推進するための「SHONAN WAVES」の結成などの連携を進めています。ちなみに「SHONAN WAVES」では、1998（平成10）年4月放送開始の『ISHII POPS IN THE BOX』、2000（平12）年4月放送開始の『Show Biz News』、2000（平12）年6月・8月にオン・エアされた「ネット・トヨタ神奈川店頭キャンペーン」などの実績を挙げています。

■災害に対する取り組み

神奈川県は東海地震の想定地域に近いことから、各局とも地元自治体との間に「災害時における災害広報活動の協力に関する協定」ないしは「防災協定」を締結して、万に備えています。

1995（平7）年には、「湘南ビーチFM」「FM湘南ナパサ」「FMブルー湘南」「鎌倉FM放送」の4局が「4社

災害放送協力協定」を締結。翌1996（平8）年4月に開局した「レディオ湘南」もこれに加わり、現在は「5社災害放送協力協定」として、被災時には相互に設備の提供を行うことなどが約束されています。

「防災の日」の前後には、防災訓練に取り組む局も少なくありません。「かわさきFM（川崎市）」の場合は、毎月15日を「市民防災デー」として日常的に市民の防災意識を喚起。「レディオ湘南」では、隔月で自治体との共同訓練を実施しています。

近年では、津波注意報・警報や大雨に伴う洪水情報などの自然災害情報ばかりでなく、2000（平12）年3月に発生した「ダイオキシンの河川流出事故」（「レディオ湘南」が放送）のような「環境災害情報」や「光化学スモッグ情報」なども取り上げられています。

「湘南ビーチFM」は地域防災会議で、災害情報の迅速かつ正確な伝達のための移動携帯端末を利用したシステムについて、積極的に提案を行っています。

なお、地震による演奏所・送信所損壊については、「湘南ビーチFM」「FMブルー湘南」「FM湘南ナパサ」が予備放送設備などのバックアップ体制を確保している他、「レディオ湘南」は2002（平14）年度に市防災センター内に放送設備を設置しています。

■神奈川県各局の活動状況

神奈川県初のコミュニティFM局である「湘南ビーチFM」は、逗子・葉山のセンスの良さが伝わるコミュニティ局。「湘南」というブランドにこだわり、湘南らしいライフスタイルを発信しています。



「鎌倉FM放送」局舎外観



「レディオ湘南」片瀬浜海岸特設スタジオ「seaside studio」からの放送風景



「かわさきFM」川崎市綱引き大会生中継で出場者にインタビュー



「エフエムさがみ」相模原納涼花火大会を実況中継したスタッフが集合



「Magic FM」つきみ野サティ内にあるサテライト・スタジオでの放送風景

ここでは、インターネットでの情報提供にも早くから積極的に取り組んでいます。また、同局代表取締役であるジャーナリスト・木村太郎氏は、開局時よりコミュニティ放送のPRも積極的に行い、コミュニティ放送業界の認知度アップに大きく貢献しています。

七夕やプロサッカーチームのホームタウンで知られる平塚市に開局した「FM湘南ナバサ」は、幅広い年齢層の支持を獲得しようと、相模湾での釣り情報や平塚のキーパーソンへのインタビュー、湘南ベルマーレのサポーターズプログラムなど、多彩に番組を構成しています。また災害時には、地域内の各企業の被害状況や従業員の安否情報を家族や関係者に伝える「お勤め先安否情報システム」を整備しています。

基地の街・横須賀に誕生したのは「FMブルー湘南」。湘南地区にはキー局に負けない洗練された放送を志向する局が多い中、それとは一線を画し、市民ボランティアを起用するなど手づくりの良さを活かした番組制作をモットーとしています。

由比が浜にあるスタジオから最新の波情報を送っている「鎌倉FM放送」は、「グリーンマップ」という世界共通の記号を使った環境情報地図の鎌倉版の制作を全面的にサポート。地域活動体と連携して鎌倉の未来と環境を見つめます。

江ノ島や湘南海岸をエリアに擁する「レディオ湘南」は、「LOVE 湘南」をテーマに、湘南サウンド、湘南観光情報、湘南地区の交通情報、サーフ情報など湘南の魅力を多彩なプログラムで伝えます。

川崎市は全国で初めて外国籍の住民が市政に参加する機会を条例によって保障した自治体ですが、「かわ

さきFM」も外国語によるイベント情報番組『アクセスかわさき6カ国語情報』を放送して、エリアの外国籍の人々に便宜を図っています。

都心のベッドタウン相模原市に誕生した「エフエムさがみ」は、市内各所のきめ細かい交通情報をはじめ、エリア内の学校や企業の催事などの決行・中止のお知らせ、捜し物や迷子、行方不明のペットの捜索の呼びかけなど、ミクロの情報提供に徹底しています。

「Magic FM (FMやまと)」の可聴エリアは、神奈川県内トップの広さを誇ります。東西では東名東京ICから秦野中井ICまで、南北では江ノ島から橋本(相模原市)までをカバー。他県のコミュニティ放送局との交流も積極的に行っています。

「プリズムステーション」は、神奈川県ほぼ中央に位置する伊勢原市を中心に、隣接地域の住民に「役に立つ情報」と「誰もが楽しめる番組」の提供を目指す、開局3年のフレッシュな局です。

大都市横浜の住宅地域・青葉区をエリアとするのが「FM Salus(サルース)」。東京急行電鉄グループが運営する生活情報サイト「Salus」と連動して、防災情報や沿線のイベントや暮らしに役立つ情報を発信しています。2003(平15)年12月には、東急田園都市線・たまプラーザ駅前にサテライト・スタジオをオープンさせました。

■神奈川県のコミュニティFMのこれから

神奈川県は、首都圏の一角で日本経済をリードしてきましたが、引き続き不況により経済が停滞、県民の生活にも影響が及びました。しかし、2003(平15)年秋以降、景気回復の傾向が見られつつあり、神奈川県民は今こそ頑張らなければならない時。県内のコミュニ

ティ放送各局は、防災に関してはもちろん、日々の放送においても、湘南地区の緊密なネットワークをはじめ協力体制をとるなどして、県内各地区の人々に役立ち、かつ地区を活性化させる放送をしていこう、努力を続けているところです。



「FM Salus」サテライトスタジオ外観



「プリズムステーション」ステッカー

JCBA関東地区協議会（東京・神奈川）の10年、及び加盟各局の歩み

1993 (平5) 年	12月3日	逗子・葉山コミュニティ放送（逗子市・葉山町/愛称：湘南ビーチFM、78.9MHz、電力1W）開局。	6月	エフエム西東京、保谷市の不発弾処理を生中継。	
1994 (平6) 年	7月1日	湘南平塚コミュニティ放送（平塚市/愛称：FM湘南ナバサ、78.3MHz、電力1W）開局。	7月	FMえどがわ、江戸川区総合防災訓練特番放送開始。	
	8月18日	湘南ビーチFM、「緊急放送設備の使用に関する協定書」を葉山町長との間で調印。	7月20日	湘南ビーチFM・FM湘南ナバサ・FMブルー湘南、鎌倉FM放送・ラジオ湘南、日本短波放送と共同で「海の日」関連特番を放送。	
	10月4日	湘南ビーチFM、「緊急放送設備」によって北海道東方沖の地震発生と「津波注意報」を放送。	7月30日	エフエム世田谷（世田谷区/愛称：エフエム世田谷、83.4MHz、電力10W）開局。	
	12月3日	横須賀エフエム放送（横須賀市/愛称：FMブルー湘南、78.5MHz、電力1W）開局。	8月6日	ちょうふFM、調布市花火大会生中継開始。2000（平12）年からは地元ケーブルテレビと共同制作。	
	12月24日	鎌倉エフエム放送（鎌倉市/愛称：鎌倉FM放送、82.8MHz、電力1W）開局。	9月1日	ちょうふFM、調布市総合防災訓練中継と緊急割り込み放送訓練の実施を開始。	
1995 (平7) 年	2月	FM湘南ナバサ、平塚市と「災害広報活動の協力に関する協定書」締結。	10月1日	かわさきFM、「ラジボラでまちのわ」実行委員会設立とキャンペーン開始。市民のラジオとしての充実を図る。	
	3月28日	エフエムむさしの（武蔵野市/愛称：むさしのFM、78.2MHz、電力1W）開局。	1999 (平11) 年	4月	FM湘南ナバサ、徘徊老人早期発見を目的としたネットワークシステム「はいかいSOS」と協力協定締結。
	4月	FM湘南ナバサ、平塚市消防本部との間で運用される緊急電話放送装置を設置。	4月21日	FM湘南ナバサ、オリンピックシティ湘南にサテライト・スタジオ「ビッグ・ウェーブ783」新設。	
	4月1日	FMブルー湘南、横須賀市と「防災協定」締結。	5月29日	ちょうふFM、サテライトスタジオからの公開生放送「POPNステーション」開始。	
	4月10日	湘南ビーチFM・FM湘南ナバサ・FMブルー湘南・鎌倉FM放送の湘南4局が共同営業活動を開始。（後にラジオ湘南が加わり「SHONAN WAVES」を結成。）	6月	エフエム西東京、田無・保谷市合併に関する市民説明会を放送。	
5月31日	エフエム多摩放送（多摩市/愛称：FM TAMA G-WIND、77.6MHz、電力10W）開局。	7月	むさしのFM、ルーマニア大使出演。		
8月	むさしのFM、少年野球大会実況生中継開始。武蔵野市との協定により防災緊急放送装置設置。武蔵野市の友好姉妹都市・ブラジヨフ市と国際2元中継実施。	7月	かつエフ、スウェーデン大使館から友好コミュニティ放送局と認定される。		
8月1日	湘南ビーチFM、「緊急放送設備の使用に関する協定書」について、葉山町長及び逗子市長との間で調印。	8月	エフエム西東京、保谷市・田無市防災訓練に参加。緊急放送訓練も実施。		
1996 (平8) 年	9月	むさしのFM、放送電力を1Wから10Wに増力。	9月	エフエム世田谷、防災の日に区と連携した特番を放送。	
	4月	湘南ビーチFM・FM湘南ナバサ・FMブルー湘南・鎌倉FM放送・ラジオ湘南、「災害放送協定」締結。	9月1日	Magic FM（FMやまと）、NTT・東京電力・水道局と「災害情報の放送に関する覚書」を取り交わす。	
	4月1日	ラジオ湘南、藤沢市と「防災協定」締結。	11月	エフエム西東京、むさしのFM、航空自衛隊機墜落に伴う緊急放送実施。	
	4月20日	湘南ビーチFM、インターネット放送開始。	2000 (平12) 年	1月	エフエム西東京、東京ボランティアネットワーク主催の「災害とボランティアを考えるつどい」の徒歩参集訓練に参加。
	4月28日	藤沢エフエム放送（藤沢市/愛称：ラジオ湘南、83.1MHz、電力10W）開局。	1月23日	ちょうふFM、コミュニティFM10曲ネット『こちら雪国ふれあい放送局』に参加。	
5月3日	FM湘南ナバサ、サテライト・スタジオ「ミルクィーウェイ」設置。	3月	むさしのFM、『健康ひとくちアドバイス』を冊子化。		
6月3日	湘南ビーチFM、地域防災会議に参加。	3月6日	ちょうふFM、調布市議会定例会の録音放送開始。		
7月1日	かわさき市民放送（川崎市中原区/愛称：かわさきFM、79.1MHz、電力10W）開局。	3月25～6月2日	ラジオ湘南、荏原製作所藤沢工場・目久尻川の一連のダイオキシン汚染情報と対策について報道。		
9月1日	ラジオ湘南、藤沢市総合防災訓練に参加、防災特番の放送開始。	4月3日	湘南ビーチFM・FM湘南ナバサ・FMブルー湘南・ラジオ湘南、インターネット配信によるコマ・ネット番組『ショウビズ・ニュース』スタート。		
9月15日	エフエムさがみ（相模原市/愛称：エフエムさがみ、83.9MHz、電力10W）開局。	6月3日・8月26日	湘南ビーチFM・FM湘南ナバサ・FMブルー湘南・ラジオ湘南・Magic FM（FMやまと）・エフエムさがみ、共同セールスとしてネットトヨタ神奈川店頭キャンペーン公開放送実施。		
9月25日	湘南ビーチFM、地域防災会議において「災害情報伝達方法として開発したPHS及び携帯端末システム」のデモンストレーションを行う。	7月	エフエム西東京、「田無市保谷市合併～こんなまちに住みたい」で田無市長と賛成・反対両派の市民の対談を放送。		
1997 (平9) 年	2月	エフエムさがみ、相模原市と「災害情報等の放送に関する協定」締結。	9月	FMえどがわ、放送電力を10Wから20Wに増力。	
	3月	むさしのFM、市議会録音中継放送開始。	9月	エフエム西東京、田無市総合防災訓練に参加し非常放送設備から放送を実施。	
	3月16日	FMブルー湘南、横須賀市庁舎に非常用の送信アンテナ設置。	9月	むさしのFM、武蔵野市在住のコスタリカ大使が出演。	
	4月5日	葛飾エフエム放送（葛飾区/愛称：かつエフ、78.9MHz、電力10W）開局。	10月	エフエム世田谷、三軒茶屋キャロットタワー26階にサテライト・スタジオ開設。	
	4月12日	かつエフ、防災ノウハウを伝える「かつしか防災研究所」放送開始。	11月	Magic FM（FMやまと）、放送電力を10Wから20Wに増力。送信所を移設。	
5月9日	大和ラジオ放送（大和市/愛称：Magic FM（FMやまと）、77.7MHz、電力10W）開局。	12月22日	Magic FM（FMやまと）、つきみ野サティに常設サテライト・スタジオ開設。		
6月	むさしのFM、不発弾処理について生中継。	2001 (平13) 年	1月28日	イセハラエフエム放送（伊勢原市/愛称：iFM85.7/プリズムステーション、85.7MHz、電力10W）開局。	
7月5日	湘南ビーチFM、障害者世帯に「専用ラジオ」を配布。	3月	むさしのFM、「むさしのFM市民の会」総会実施。		
8月	かつエフ、葛飾納涼花火大会の中継開始。	6月	むさしのFM、局舎を市商工会館に移転。また、放送電力を10Wから20Wに増力。		
9月8日	かつエフ、葛飾区防災訓練の中継開始。	2002 (平14) 年	10月20日	横浜コミュニティ放送（横浜市/愛称：FM Salus（サルース）、84.1MHz、電力20W）開局。	
11月18日	Magic FM（FMやまと）、大和ロータリークラブと連携して、市内独居老人300名にFMラジオを寄贈。	2003 (平15) 年	7月21日	レインボータウンエフエム（江東区/愛称：大江戸放送局、79.2MHz、電力10W）開局。	
11月30日	エフエム江戸川（江戸川区/愛称：FMえどがわ、84.3MHz、電力10W）開局。				
1998 (平10) 年	1月31日	エフエム西東京（西東京市/愛称：エフエム西東京、84.2MHz、電力10W）開局。			
	3月20日	Magic FM（FMやまと）、大和市と「災害情報等の放送に関する協定」締結。			
	4月	かつエフ、区内の警察・消防から安全情報を提供してもらう「安全ニュース」放送開始。			
	4月3日	湘南ビーチFM・FM湘南ナバサ・FMブルー湘南・ラジオ湘南、4局コマ・ネット番組「ISHII POPS IN THE BOX」放送開始。			
	4月17日	調布エフエム放送（調布市/愛称：ちょうふFM、83.8MHz、電力10W）開局。			
5月31日	中央エフエム（中央区/愛称：RADIO CITY、84.0MHz、電力10W）開局。				

関東地区② 千葉県・埼玉県・茨城県・群馬県・山梨県

■地域住民と一体となった手作り感覚の放送

東京都や神奈川県のコミュニティFMでは、キー局に負けない洗練されたコンテンツや質の高い放送技術を提供しようと、専門家を起用しているケースが目立ちますが、関東地区のその他の県では、多くのボランティアの協力を得て、アットホームな手作り感覚の番組制作を重視する局が少なくありません。

その背景には、運営資金や人材が乏しいということももちろんありますが、住民と一体となって番組を作り上げることが、多くのコミュニティ放送局が標榜する「地域密着」のひとつのスタイルと捉えられていることも大きな要因と言えるでしょう。

千葉・埼玉・茨城・群馬・山梨の全11局のうち、ボランティアスタッフが50名に満たないのはわずか2局。その1局である「エフエム甲府（甲府市）」も、自社のWebサイトなどで積極的にボランティアスタッフを募集しています。「FMチャッピー（入間市）」「ラジオ高崎（高崎市）」「FMぱるるん（水戸市）」「FM OZE（沼田市）」「いちかわエフエム（市川市）」では、100名を超えるボランティアが、パーソナリティや情報収集などで協力しています。

「ラジオ高崎」や「FM OZE」は、それぞれ200名に及ぶボランティアを「ラジタカ倶楽部」「OZE倶楽部」として組織化し、彼らの力をより有効に活用するとともに、ボランティア同士の交流も図られています。

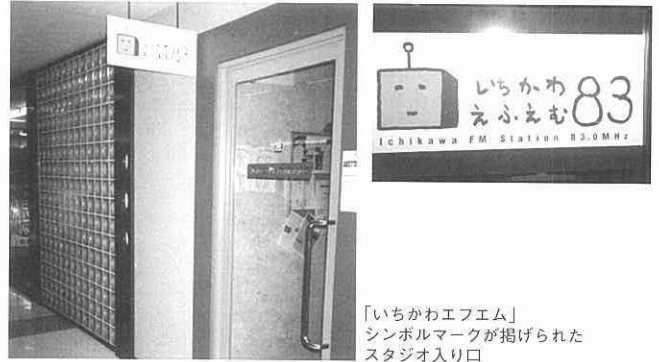
■関東5県各局の活動状況

・千葉県

千葉県での初開局は、東京湾アクアラインの起点となる南房総の中核都市・木更津市に1995（平7）年12月6日に誕生した「FMべる（木更津市）」。「Old&New（温故知新）」を放送コンセプトに、上総地域の歴史ある文化・伝統の話題を伝えるとともに、軽快なフットワークで地域に出かけて最新の情報を収集・提供しています。



「FMべる」スタジオ機材



「いちかわエフエム」シンボルマークが掲げられたスタジオ入り口

1998（平10）年3月22日には「FMうらら（FM U-LaLa・浦安市）」が開局。愛称の「うらら」の由来は「うらやすのラジオ」からですが、年中「うららか」な気分とイメージの放送局を目指す意味も込めて、スタッフの間で協議して命名されました。インターネット・ラジオにも取り組んでおり、現在は、『FMうらやすお笑いWebラジオ』と称し、毎夜放送されているお笑い番組などを24時間いつでもオンデマンドで聴けるサービスを展開しています。

荒川をはさんで東京都に隣接する市川市には、1998（平10）年9月20日に「いちかわエフエム」が開局しました。放送の90%を担っているのは約300名の市民ボランティア。番組のパーソナリティも、主婦や学生、会社員などさまざまな立場の人たちが務め、自分の言葉で身近な話題を発信しています。

・埼玉県

1997（平9）年2月1日に開局した「FMチャッピー」は、公募によって愛称を決定しました。漢字で書くと「茶笛」。その由来は、エリアの入間市や狭山市が狭山茶の産地としても知られていることから。放送はもちろんのこと、イベント事業にも熱心で、入間市をはじめ周辺の狭山市・所沢市でのイベントの企画・運営、音響・アナウンサーやタレントの派遣などを手がけています。



「FMチャッピー」スタジオ風景

翌1998（平10年）4月25日には鴻巣市に「フラワーラジオ」が開局します。ヤマト福祉財団や地元の福祉協議会と連携し、『情報宅急便』や『地域と福祉』などの番組を通じて障害者支援キャンペーンを展開中。「健康」や「福祉」といったテーマに重点がおかれた番組構成を放送コンセプトとしています。鴻巣市の特別養護老人ホームの入居者が口ずさんだ「うめぼしのうた」をもとに制作・販売したCDやビデオ（この歌をBGMに行う高齢者の機能回復用の「元気体操」を収録）は、各地の福祉施設や幼稚園・小学校などで取り入れられるまでになりました。



「フラワーラジオ」【トワイライト アベニュー767】放送中!



「フラワーラジオ」局が入居しているビルの窓にある社名はスコッチプリント事業で作成されたもの

・茨城県

県庁所在地の水戸で1997（平9）年3月2日に開局したのが「FMばるるん」。FMならではの音の良さを重視して、さまざまなジャンルの音楽をたっぷり放送しています。地域内のイベントにも積極的に参加。2003（平15）年8月の「黄門まつり」で放送された高校生DJによる特番『Beat Style』は、同局初のストリーミング放送となりました。『Beat Style』はその後レギュラー番組となり、現在は音声だけでなく、スタジオの様子やDJの表情などが楽しめる映像も同時に配信しています。

鹿嶋臨海工業地帯や鹿島神宮、そしてJリーグ・鹿島アントラーズのホームタウンとして知られる鹿嶋市には、2000（平12）年8月7日に「エフエムかしま」が開局。2002（平14）年のサッカーW杯の前後は、特番などで地元開催を大いに盛り上げると同時に、試合開催時には観戦者たちにきめ細かい交通情報を提供しました。また、関東地区では始めて文字多重放送を実施した局でもあります。

・群馬県

群馬県初のコミュニティFM局は、1997（平9）年4月1日開局の「ラジオ高崎」。群馬県は乗用車保有率全国No.1であり、高崎市は関越自動車道や北関東道のICもあることから、カーラジオで聴取するリスナーがとても多く、きめ細かい交通情報や市街地駐車場情報がドライバーに好評です。放送の他にも、地元の学校や音楽サークルのコンサート、市民シンポジウムなどを熱心に後援しています。

自然の宝庫・尾瀬への玄関口として、年間1,100万人の観光客を迎える沼田市には、1997（平9）年11月1日「FM OZE」が開局しました。他局との番組交流や情報交換に積極的で、例えば、同じ日本ロマンチック街道沿いということで「FM軽井沢（長野県北佐久郡）」と、また、自社が山に囲まれていることから海に囲まれた「FMなぎさステーション（静岡県伊東市）」と生放送番組内でお互いの情報を発信しています。そして、沼田市と姉妹都市のドイツ・フュッセン市のオースアルゴイ放送局とは、1998（平10）年10月に姉妹放送局として提携しました。

群馬県東毛地域の中核工業都市の太田市に「エフエム太郎」が誕生したのは1998（平10）年10月10日。この愛称は、最も一般的で誰からも親しまれる名前であり、エリア内に利根川（坂東太郎）が流れていること



「FM OZE」スタジオ放送風景



「FM OZE」開局5周年を記念して作られた「FM OZE 5年のあゆみ」





「エフエム太郎」
「FM HANAKO」との姉妹局締結調印式

から、設立準備委員会によって命名されました。

2000（平12）年10月には、愛称にちなんで「FM HANAKO（大阪府守口市）」と姉妹局となっています。この地域には外国籍の住民が多いことから、開局当初より、外国人スタッフによるポルトガル語番組『ラジオ・エクスプレッソ』を放送しています。



「エフエム太郎」
地域のイベントにてインタビュー

・山梨県

山梨県で唯一のコミュニティ放送局「エフエム甲府」が開局したのは1997（平9）年3月20日。開局以来、毎年防災訓練の特番を放送していますが、1999（平11）年3月18日には、地震災害訓練実験番組『地震だ！あなたはどおする』を放送しました。これまでの放送や電話に加えて、移動体通信（携帯電話・i mode）やインターネットを活用して、被災者支援情報の伝達・収集を補完する目的で構成された番組には、リスナーや防災関係者からの反響も数多く寄せられ、その成果は大きいものがあつたようです。

■関東地区コミュニティFMの展望

人口密集地区の多い関東地区では、防災面において各局がそれぞれに努力を重ねています。これと共に、無数のメディアが混在する地区でもあることから、放送局として存続するためには、それぞれが特色を打ち出し、各地域と結びついていくことが必要です。今後の各局の活動が期待されるようです。

JCBA関東地区協議会（千葉・埼玉・茨城・群馬・山梨）の10年、及び加盟各局の歩み

1995（平7）年	12月6日	木更津コミュニティ放送（木更津市／愛称：FMべる、83.4MHz、電力10W）開局。
1996（平8）年	8月14日	FMべる、木更津みなとまつりの「やっさいもっさい踊り」で司会進行を担当しその様子を中継。
1997（平9）年	2月1日	エフエム入間放送（入間市／愛称：FMチャッピー、77.7MHz、電力10W）開局。
	3月2日	水戸コミュニティ放送（水戸市／愛称：FMばるるん、76.2MHz、電力10W）開局。
	3月20日	エフエム甲府（甲府市／愛称：エフエム甲府、76.3MHz、電力10W）開局。
	4月1日	ラジオ高崎（高崎市／愛称：ラジオ高崎、76.2MHz、電力10W）開局。
	7月31日	エフエム太郎、太田市を含む1市4町、消防組合、東京電力、NTT、都市ガス等と災害緊急放送協定を調印。
1998（平10）年	9月1日	FMべる、木更津市防災訓練参加。
	11月1日	沼田エフエム放送（沼田市／愛称：FM OZE、76.5MHz、電力10W）開局。
	3月22日	エフエム浦安（浦安市／愛称：FMうらら、83.6MHz、電力5W）開局。
1999（平11）年	4月25日	フラワーコミュニティ放送（鴻巣市／愛称：フラワーラジオ、76.7MHz、電力5W）開局。
	9月20日	市川エフエム放送（市川市／愛称：いちかわエフエム、83.0MHz、電力10W）開局。
	10月10日	おおたコミュニティ放送（太田市／愛称：エフエム太郎、76.7MHz、電力10W）開局。
	1月13日	FMチャッピー、入間市と「災害情報の緊急放送に関する覚書」を締結。
	3月16日	群馬県コミュニティ放送協議会発足。
	3月18日	エフエム甲府、地震災害訓練実験放送の実施。
	6月4日	FMうらら、浦安市と「災害時における災害広報活動の協力に関する協定」締結。
	7月14日	いちかわエフエム、市川市と「災害時における緊急放送に関する協定」締結。
	8月1日	フラワーラジオ、映像制作事業の開始。
	8月29日	いちかわエフエム、市川市総合防災訓練の特番の放送開始。
	9月1日	FMべる、7都県市合同防災訓練に参加し、その模様を中継。
11月21日	いちかわエフエム、市川三番瀬クリーンアップ大作戦1999の特番放送。以後、毎年定期特番として放送。	
2000（平12）年	1月8日	FM OZE・フラワーラジオ、FMゆきぐにプロジェクト番組『こちら雪国ふれあい放送局』参加。
	4月2日	ラジオ高崎・FM OZE・エフエム太郎の群馬3局合同番組『トリプルエフェクト』放送開始。
2001（平13）年	7月1日	FM OZE、アミューズメント事業部発足。
	7月4日	フラワーラジオ、放送電力を5Wから10Wに増力。
	7月21日	FMべる・FM OZE、放送電力を10Wから20Wに増力。
	7月24日	フラワーラジオ、放送電力を5Wから10Wに増力。
	8月7日	エフエムかしま市民放送（鹿嶋市／愛称：エフエムかしま、76.7MHz、電力20W）開局。
	8月31日	フラワーラジオ、鴻巣市防災訓練特番放送開始。
	10月7日	エフエム太郎、愛称にちなんでエフエムもりぐち（FM HANAKO）と姉妹局締結調印式を行う。
	10月15日	FM OZE、ドイツ・オストアルゴイ放送局と姉妹放送局となる。
2002（平14）年	11月16日	フラワーラジオ、国土交通省・防衛庁・埼玉県・鴻巣市を結んだ非常通信訓練を実施。
	3月	エフエムかしま、定例会議の実況放送開始。
	4月20日	FM OZE、群馬テレビ『あさいち・朝生・情報通』の電話中継開始。
2003（平15）年	9月14日	いちかわエフエム、放送電力を10Wから20Wに増力。
	11月1日	フラワーラジオ、スコッチプリント事業を開始。
	3月1日	FM OZE、メールマガジン発行開始。
	5月2日	FM OZE、ロマンチック街道沿いのコミュニティ放送局の交流として、「FM軽井沢」と電話中継開始。
	7月11日	FM OZE、山と海のコミュニティ放送局の交流として、「FMなぎさステーション（静岡県伊東市）」と電話中継開始。
2003（平15）年	10月9日	FM OZE、緊急割り込み放送設備設置。
	6月	フラワーラジオ、『情報宅急便』と「地域と福祉」の放送開始。ヤマト福祉財団や鴻巣市社会協議会と協力して障害者福祉の理解を深めようという試み。
	8月1日	ラジオ高崎、JR高崎駅西口「COCOA（ココア）」にサテライト・スタジオオープン。
9月1日	FM OZE、県域放送と連携して防災訓練の模様を放送。	

■送信電力1Wの足かせ

コミュニティ放送事業は、制度化される以前から地域活性化への大きな活力になりうるものとして、全国各地で注目されていました。

信越管内でも、1991（平3）年7月に郵政省信越電気通信監理局（当時）によって説明会が開催された際には、長野県・新潟県から対応を検討する地域の代表がこぞって参加し、それぞれの地域の状況を踏まえた開局構想と事業化推進の秘策を練っていました。

しかしながら、送信電力1Wという制限は経営基盤の不安をあり、地域に密着した情報メディアの必要性とは裏腹に、いずれも開局へ踏みきることに躊躇せざるを得ませんでした。

それでも信越管内の各地域では開局のための地道な努力が続けられ、1992（平4）年の全国第1号局開設の2年後、1994（平6）年7月に管内初のコミュニティ放送局「RADIO-CHAT（新津市）」が誕生したのです。全国で9番目の開局となりました。

■各局の特徴

「RADIO-CHAT」は自治体主導の第三セクターでスタート。管内唯一の送信電力1W時代の体験局でもあります。自然災害等への迅速な対応を図るため、移動無停電装置の確保をはじめ、早くから緊急割込みシステムの導入に踏みきるなど、自ら掲げた「防災情報放送局」の名のとおり、今日までその役割を担い続けています。

防災情報の提供はコミュニティ放送局の重要な役割の一つですが、1995（平7）年1月の阪神・淡路大震災は、それを再認識させると同時に、全国規模でコミュニティ放送局の開局を促進させることにもなりました。

管内では、3月の送信電力の規制緩和による10Wへの増力を待って、6月に「FMピッカラ（柏崎市）」が「日本一小さなコミュニティ放送局」を旗印にスタートしました。柏崎商工会議所有志による民間主導での立ち上がりは当時としては珍しく、また、「小さく生んで大きく育てる」の理念のもとに、番組制作・構成などにボランティア組織を活用するなど、その運営スタイルは後続の各局に少なからず影響を与えたものと思われます。加えて、「コミュニティ放送は音楽放送にあらず」と訴え、地域情報の基地たらんと、議会中継に早くから取り組んだ局でもありました。

この年の7月には「FMぜんこうじ（長野市）」が全国19番目として名乗りを挙げました。県庁所在地での旗揚げは、大いに関係者の注目を集めました。地元のケーブルテレビ局や新聞社との連携を図り、善光寺御開帳や長野五輪といったビッグイベントの関連番組などで実績を重ねながら、地域の情報発信基地としての基盤をしっかりと築いています。



「FMピッカラ」スタジオ風景



「FMぜんこうじ」スタジオ外観



井戸ばたらジオ。

エフエム新津
7月15日(金)いよいよ開局。
ダイヤルは76.1MHz

「RADIO-CHAT」
開局時の広告より



「RADIO-CHAT」
市街地に設置されたPR看板

翌1996（平8）年は全国で開局ラッシュを迎えた年ですが、管内では「FM KENTO（新潟市）」がクリスマスに開局しました。「FMぜんこうじ」と同じく県庁所在地でスタートした「FM KENTO」にとって、県域局の膝元に伍しながら地域局としての存在をアピールするのは決して容易なことではありません。市民の身近な情報発信基地として、新潟県庁前のビルに局舎を構え、番組内で映画のチケットプレゼントを実施したり、黒崎町と新潟市の合併事業に関わったり、インターネットのプロバイダー業務も手がけるなど、多角的に認知度の向上を図ってきています。

1997（平9）年10月には「ラジオアガット（新発田市）」が開局。新発田市を中心に広域6市町村の緊急情報（火災・地震・気象などの防災情報）を24時間リアルタイムで伝えると同時に、子供たちのかっこいい夢を紹介したり、スーパーのお買い得商品情報などを伝えるなど、地域の身近な放送局ならではの番組がそろっています。

1998（平10）年2月に開局した「FMゆきぐに（新潟県六日町）」は、新潟県の南魚地区4町をエリアとする全国でも珍しい立地局です。関東圏と隣接しているという地域性を活かして、県内のみならず首都圏とも積極的にネット放送を実施・拡大してきました。そのさきがけとなった『雪の達人養成ラジオ（1999年）』（3回シリーズ、首都圏・県内26局に配信）は、ギャラクシー奨励賞、JCBAベストステーション賞を受賞。その後も首都圏10局ネットの『こちら、雪国ふれあい放送局』をはじめとして、ネット放送の実績を着々と重ねています。また、2002（平14）年には『平和へのモーニングコール』でギャラクシー賞・選奨を受賞。無名の一市民に電波を開放し、テロと戦争というテーマで徹底的に本音を語らせた番組づくりは、まさにコミュニティ局ならではのと言えるでしょう。



「FMゆきぐに」首都圏・新潟県内10局ネット『こちら湯沢、雲の上の放送局』を放送（2000年夏 新潟県湯沢町湯沢高原アルプの里より）



「ラジオアガット」『週末ロックソルジャー』の公開録音風景 1998（平10）年10月9日

1997（平9）年の長野新幹線開業は、長野県の山腹の地方都市にコミュニティ放送局を誕生させる大きなきっかけとなりました。1998（平10）年6月に開局した「エフエム佐久平（佐久市）」は、スタジオが新幹線の駅の中に設置されている珍しい局です。高速道路や鉄道が整備された佐久地域には、それまで放送局もタウン誌も存在していなかったため、コミュニティFMの誕生は、この新生都市の発展に極めて大きな役割を果たすと期待されています。

この年（1998年）、7月に「FM ながおか（長岡市）」、9月に「ラジオは〜と（燕市・三条市）」と、新潟県の県央地域で開局が続きます。

三条市と燕市という二つの市を抱える「ラジオは〜と」は、「都市構造の広域化」という難しい局面にあって、「街角の放送局」をモットーに地域密着の放送にこだわる姿勢は、地元2市の「コミュニティの機能」に対して、重要な役割を果たしていると言えるでしょう。

コミュニティ放送もバリアフリー

FMながおか

新潟市長岡市両市を放送...
FMながおかのパー...

「FMながおか」が視覚障害者のために点字やカセットテープなどによる番組表を寄付したことを紹介
1998（平10）年10月20日 新潟日報

点字番組表など作製

視覚障害者のために、番組表を点字で作製...
FMながおかのパー...

長岡市は1953（昭28）年に全国初のFM放送局が開設された地です。新しいメディアを使って地域密着の放送を実現させた当時の積極進取の気風は、現在の「FMながおか」にしっかりと受け継がれています。ラジオでの舞台中継や番組表の点字化など、バリアフリーにも対応した独自の取り組みは、2000（平12）年10月の『山古志村・中山隧道を行く』によるギャラクシー賞の受賞につながっていきます。

1999（平11）年4月の「FM-J（上越市）」の開局に続き、2001（平13）年6月には新潟県巻町で「ぼかぼかラジオ」、8月には長野県の「FM 軽井沢（北佐久郡軽井沢町）」、10月には「iステーション（飯田市）」で新設局が誕生しました。信越管内は現在、新潟県9局、長野県4局の計13局が存在するコミュニティ放送立県地区となっています。

■独自の方向性をもつ長野県と新潟県

各局の取り組みを簡単に紹介しましたが、こうしてみると、この両県は同地区ではあるものの、それぞれが志向している方向性に顕著な相違があることがわかります。

日本の屋根と称される山岳県の長野県では、起伏の多い立地条件のもと、早くから無線より有線の、そしてネット放送の整備が進められていました。

一方、日本の穀倉地帯を代表する越後平野を有す新潟県では、広大な越後平野をカバーするメディアとして無線に依存するウエイトが高まっていました。両県のコミュニティ放送の運営には、こうした条件が大き



「FM ながおか」（長岡駅前DNビル1F）

く影響しています。

長野県では、地域の情報メディアとしてコミュニティ放送局とケーブルテレビ局の連携が強化されつつあります。メディアの複合化は、コミュニティ放送全体にとって今後の大きな課題ですが、長野県はすでに一歩前進しようとしています。

新潟県では、県域のエリアを隈なくコミュニティ放送で埋めたことから、県域局との業務提携が進行し、すでに同時放送へと滑り出しています。加えて、コミュニティ放送局間の連携の強化にも早くから取り組んできました。2002（平14）年10月にスタートした信越管内10局ネットの『信越各局停車の旅』は、コミュニティ放送を生で結ぶ全国初の番組となりました。県域ネットから隣接経済圏域へと意欲的にネット化の推進・拡大を図っています。

■今後の課題

管内でコミュニティ放送局が立ち上がった当初2～3年は、いずれの地域も相次ぐ集中豪雨の洗礼を受け、「緊急災害放送」への対応が最重要課題となっていました。しかしながら、こうした災害報道の経験と実績を重ねることで、自治体との「災害協定」の締結が実現し、地域における「安心情報の提供基地」としての地盤を固めるところとなりました。

今後、信越管内で取り組むべき重要課題としては、世界最大の原子力発電基地を有する地域の責任からも、自然災害のみならず、放射能災害・放射性廃棄物に関連する諸問題への対応が挙げられます。加えて、地域情報の核心でもある議会中継は、自治体の情報公開の一端を担うものとして、コミュニティ放送が貢献できることは少なくないでしょう。

また、上越・長野新幹線、磐越道・関越道・北陸道・信越道・中央道などの高速交通体系が整備された

地域FM生で結ぶ

四日から始まる番組は「各局停車の旅」。毎週金曜日の午前九時半から一時放送する。番組は局の食べ物、イベントなど週末情報を含めた各局の地域情報や、全局参加のおしゃべりコーナー、各局リステーションから局エリアにむかえるメッセージなどで構成する。四日の第一回放送では、各局が縦横を交差する三十秒のエリア自撮りが進む。

全国初の取り組み 災害時対応に期待

番組は各局を縦横交差する形で進んでいく。番組の生放送は、各局のFM放送局が縦横を交差する三十秒のエリア自撮りが進む。番組の生放送は、各局のFM放送局が縦横を交差する三十秒のエリア自撮りが進む。

県内9局 来月から共同番組

県内の地域FM局すべてと接続中の、即ち、十月四日から週一回、共同の生放送をスタートさせる。地域限定だった各局は県内に限られるのは、全国初の取り組み。地域FMの使命でもある災害時対応にも、各局ネットは大きな力を発揮していった。



「FMながおか」
ハーレーダビッドソンのサイドカーに乗車。長岡市内を一巡し実況中継
1998(平10)年8月 長岡まつりより



「FM-J」
高校生DJがパーソナリティを務める『若草子供連盟』 2001(平13)年2月21日

ことで、拍車がかかる情報メディアのネット化にどう対処していくか、さらに、高速交通網で結ばれた東北・関東・北陸などの隣接地区とどのように連携していくか、といった点も重要な課題になってきています。

このような新しい課題に取り組むことはもちろんのことですが、それぞれの地域の歴史と文化を中心に、住民総参加型の双方向性地域情報基地を目指す、というコミュニティ放送の基本理念もおろそかにすることなく、各局の努力が続けられています。

JCBA信越地区協議会の10年、及び加盟各局の歩み

1994(平6)年	7月15日	エフエム新津(新津市/愛称: RADIO-CHAT、76.1MHz、電力1W)開局。	
	9月29日	RADIO-CHAT、台風26号情報の放送を24時間に対応。	
	9月25日	FMピッカラ、柏崎市議会中継開始。	
1995(平7)年	4月1日	RADIO-CHAT、新潟県北部地震に関する緊急放送実施。	
	6月12日	RADIO-CHAT、新津市議会中継開始。	
	6月20日	柏崎コミュニティ放送(柏崎市/愛称: FMピッカラ、76.3MHz、電力10W)開局。	
	7月1日	ながのコミュニティ放送(長野市/愛称: FMぜんこうじ、76.5MHz、電力10W)開局。	
	7月11日	FMピッカラ、新潟大雨洪水災害緊急放送実施。	
	7月12日	FMぜんこうじ、大雨による非常災害の生中継放送実施。	
1996(平8)年	8月2日	RADIO-CHAT、放送電力を1Wから10Wに増力。集中豪雨発生に48時間放送体制に対応。	
	7月8日	RADIO-CHAT、災害緊急情報伝達装置稼働。	
	12月9日	FMピッカラ、柏崎市議会中継開始。	
	12月25日	けんと放送(新潟市/愛称: FM KENTO、76.5MHz、電力10W)開局。	
1997(平9)年	4月1日	FMぜんこうじ、善光寺御開帳記念特別番組開始。	
	10月1日	エフエムしばた(新発田市/愛称: ラジオアガット、76.9MHz、電力10W)開局。	
1998(平10)年	2月1日	エフエム雪国(新潟県六日町/愛称: FMゆきぐに、76.2MHz、電力10W)開局。	
	2月8日	FMぜんこうじ、カナダ・CBCラジオの長野五輪特別番組制作に協力。	
	3月9日	ラジオアガット、新発田市議会中継開始。	
	6月1日	エフエム佐久平(佐久市/愛称: エフエム佐久平、76.5MHz、電力10W)開局。	
	7月29日	長岡移動電話システム(長岡市/愛称: FMながおか、76.4MHz、電力10W)開局。	
	8月4日	RADIO-CHAT・FM KENTO・ラジオアガット・FMながおか、新潟下越地方の集中豪雨による緊急災害放送実施。	
	9月24日	燕三条エフエム放送(燕市・三条市/愛称: ラジオはもと、76.8MHz、電力10W)開局。	
	9月25日	FMピッカラ、緊急割り込み装置の設置完了。	
	1999(平11)年	1月	FMゆきぐに、「雪の達人養成ラジオ」シリーズ制作・配信。
		2月	FMながおか、視覚障害者向け「点字タイムテーブル」作成・贈呈。
4月3日		エフエム上越(上越市/愛称: FM-J、76.1MHz、電力10W)開局。	
8~11月		各局で放送電力の増力が相次ぐ。(FMながおか・ラジオはもと・FMピッカラ・RADIO-CHAT・エフエム佐久平・FM KENTO: 10W→20W)	
10月		FMながおか、長岡市立劇場にて演劇の模様をミニFMで視覚障害者向け場内放送を実施。	
2000(平12)年	12月	ラジオはもと、燕市議会中継開始。	
	12月19日	ラジオアガット、大雪情報特別番組を放送。	
	1月	FMゆきぐに、10局ネットで「こちら、雪国ふれあい放送局」制作。	
	3月	ラジオはもと、三条市議会中継開始。	
	5月29日	FMゆきぐに、塩沢町議会中継開始。	
2001(平13)年	7月	FMゆきぐに、地域イメージソング「あなたの街」「ゆきぐに物語」CD化。	
	10月1日	FMぜんこうじ、放送電力を10Wから20Wに増力。	
	10月2日	FMゆきぐに、六日町議会中継開始。	
	1月1日	ラジオアガット、放送電力を10Wから20Wに増力。	
	3月1日	ラジオはもと、「ラジオはもと」専用ラジオ発売。	
	6月14日	エフエム角田山コミュニティ放送(新潟県巻町/愛称: ぽかぽかラジオ、84.9MHz、電力20W)開局。	
2002(平14)年	8月1日	軽井沢エフエム放送(長野県軽井沢町/愛称: FM軽井沢、77.5MHz、電力10W)開局。	
	10月15日	飯田エフエム放送(飯田市/愛称: iステーション、76.3MHz、電力20W)開局。	
	FMゆきぐに、「平和へのモーニングコール」でギャラクシー賞受賞。		
2003(平15)年	4月7日	iステーション、情報誌「アイナビ」創刊、3万部発行。	

■東海地区のコミュニティ放送局

2004(平16)年5月現在、JCBA東海地区協議会には17社のコミュニティ放送局が加盟し、それぞれの地域に根ざした放送を行っています。

県別に置局数を見ると、静岡県に7局、愛知県に6局、岐阜県に3局、三重県に1局と、東海総合通信局管内のすべての県にコミュニティ放送局が開局していることとなります。

■コミュニティ放送局を待望した地方都市

東海地区での開局第1号は、1993(平5)年11月27日に全国で3番目の開局となった「FMやしの実く当時FM DiNO>(豊橋市)」です。

1992(平4)年1月に制度化されたコミュニティ放送事業は、放送局を持たない地方都市で生活する人々にとって待望の制度でしたが、豊橋市(東三河地方)にとってもそれは同様でした。

豊橋市は名古屋に次ぐ愛知県第2の都市と言われながら、こと地域情報に関しては大都市・名古屋を中心とする電波メディアの裾野に甘んじてきました。

「地方都市でもラジオ局が開局できる」。こんな情報を豊橋市でキャッチしたのは1991(平3)年の秋のこと。「地域のラジオ局が必要だ」「地域の情報は、地域から発信」という熱意を支えに、2年近い準備期間を経て開局にこぎつけました。スタート時は純民間資本でしたが、放送電力を1Wから10Wに増力したのを機に豊橋市からの資本参加を得て、開局から3年後に第三セクターに移行しています。

「FMやしの実」開局からほぼ半年後の1994(平6)年5月15日、浜松市に「FM Haro!」が開局。地元経済界を中心に設立された浜松コミュニティ放送研究会が、先発局の見学を重ね、コミュニティ放送局開局のための活動を続けてきた成果が実ったものと言えるでしょう。

当時はまだ放送電力が1Wの時代。55万浜松市民を対象とした放送も難聴地区が大半であったことは否めない事実でしたが、「聴いてもらえるコミュニティ放送とはどんなものなのか」「事業として成り立つのか」この2点の吟味を重ねたうえでの開局でした。

「FM Haro!」と「FMやしの実」の置かれた環境には類似点があります。浜松市は人口では静岡県トップでありながら、イメージ的には県庁所在地・静岡市に次ぐ県下第2の都市と思われがちなこと。また、豊橋市が愛知県の東の端に、浜松市が静岡県の西の端に立地し、互いに県庁所在地から遠く離れてそれぞれ独自の文化、人情、商圏を築いてきたこと。こうした点を考えると、この2都市がコミュニティ放送にいち早く取り組んだことは、単なる偶然とは言えないでしょう。

1W時代に厳しい運営を強いられたこの両局は、スケールメリットを活かすため、県境を飛び越した共同企画に早くからチャレンジし、現在ではレギュラー化に至るまでに発展しています。こうした取り組みは、県境でエリアを異にする県域放送では実現の難しいことです。

1994(平6)年7月、大阪・守口市で「第1回全国コミュニティ放送サミット」が開催された時点では、コミュニティ放送局は全国にわずか9局にとどまる中、東海地区からは2局が参加。コミュニティ放送事業の先進地域となり得るか注目を集めました。その後の東海地区での開局事例は、この後2年の歳月を要することになります。

■防災番組への取り組み、サミットの開催、そして相次ぐ新局

1995(平7)年は、1月の阪神・淡路大震災の発生はもちろんのこと、3月に放送出力の規制緩和で1Wから10Wへの増力が実施されたこともあり、全国的な開局ラッシュとなりました。放送電力の増力は、条件が整えば当該市



「FMやしの実」街頭からの中継の様相 (1996(平8)年秋)



「FM Haro!」ミレニアムイベント「ウェルカム21 やっばやらまいか!」特設ステージより放送中



「マリンボール」スタジオ風景

町村のかなり広いエリアをカバーできる可能性が生まれたことを意味しています「FMやしの実」と「FM Haro!」も、即座に10W増力に対応しました。

1996(平8)年6月2日、「マリナル(清水市)」が東海地区3番目、全国では33番目に開局しました。国際海洋文化都市の創造を目指す清水市において、「市民のライフサポーター」として地域に密着した放送を心がけ、楽しい音楽放送やJリーグの人気球団である清水エスパルスの対戦カードを積極的に実況中継し、地元サッカー熱を盛り上げるのに大きく貢献しています。

また、東海地区の共通の課題である東海地震に備えての防災番組への取り組みにも先鞭をつけ、この後開局する静岡県下のコミュニティ放送局にとって、絶好の参考事例となりました。

この年の11月には、愛知県豊橋市で「第2回全国コミュニティ放送サミットinとよはし」を開催(エフエム豊橋主管)。豊橋市制90周年事業の目玉として、豊橋市からの協力も得ることができました。当時、開局3年目を迎えながら今ひとつ市民への浸透が図れていなかった「FMやしの実」にとっては、認知度アップのチャンスでもありました。(※46~50ページを参照)

「マリナル」開局から1年後、1997(平9)年6月1日、静岡県東部地区初のコミュニティラジオ局として「ボイス・キュー(三島市・函南町)」が開局。三島市と隣接する函南町はもともと広域行政を通じ交流の盛んな地域ですが、二つの自治体が母体となり開局を迎えたのは東海地区では初のケースでした。

行政区分は別々でも生活圏を同じくする地区は、日本全国に数多く存在します。一つの市、一つの町みでの放送局運営は困難でも、「ボイス・キュー」のように複数での運営もあり得る——そんな新たな可能性を示唆する事例ともいえるでしょう。

ちなみに「ボイス・キュー」の局舎は、コミュニティ放送局ならではの立地にあります。三島市の防災センターの一角に置局されているのです。災害時の放送はこうした地の利が大きくものをいいます。例えば、開局の翌年8月30日に発生した静岡県東部・伊豆地方



「ボイス・キュー」Aスタジオより放送中

第2回全国コミュニティ放送の発展を促す
「FMやしの実」の活躍

未来の放送界
「FMやしの実」の活躍

発展願い全国サミット

第2回サミットについて伝えた記事
1996(平8)年11月15日
中日新聞

豪雨に伴う24時間放送では、地域のみならず、他の報道機関からも大きく評価されました。

この年の7月19日には、岐阜県高山市に「Hits FM」が開局。岐阜県初のFM局としてスタート(その当時はまだ岐阜県内には県域FM局は未開局)。

年間270万人が訪れる観光都市・高山。春、秋の観光シーズンには生活道路まで他県ナンバーの車があふれ、激しい交通渋滞が発生します。この渋滞解消に役立てようと1995、96(平7、8)年にイベントFMを期間限定で開局。交通情報、イベント案内等を放送した実績がありました。この放送終了後も多くの市民、観光客、行政関係者から通年放送を強く求める声が高まり、当時、テレピア構想の一環としてキャプテンサービスを行ってきた飛騨高山テレピア株式会社(現：飛騨高山テレ・エフエム)が、コミュニティ放送を行うことになったのです。「Hits FM」は100%自主制作の番組づくりにこだわり、飛騨地域にとってなくてはならない電波メディアとしての評価を受けています。

続いて、1997(平9)年9月1日には愛知県の中央部に位置する岡崎市に「FMおかざき」が開局。開局当初は、運営母体が学校法人ということで大学の構内に本社スタジオを設置し、歴史と伝統の街・岡崎にコミュニティ放送を提供するのを目的としていました。一方、岡崎市の情報ネットワークセンターの中にも市政広報番組専用のサテライトを併設し、2つのスタジオを上手に使い分けてきました。以来2年半を経た2001(平13)年4



「Hits FM」春の高山祭をサテライト放送 2003(平15)年4月14日



「FMおかざき」イオン岡崎から公開放送を定期的に開催 2001(平13)年4月8日

月1日、経営母体を一新し、本社スタジオを市内中心部に移転。「庶民感覚と共感の対話、地域に根づいた市民参加型ラジオ」を標榜し、広く岡崎市民の目にふれる環境の中で新たなスタートを切りました。

なお、サテライト・スタジオについては、この年の6月に「ボイス・キュー」が三島市中心部の商店街の一角に、「マリンパル」が臨海部に新設された複合商業施設エスパルスドリームプラザ内に、それぞれオープンさせています。いずれも自局のPR展開と商店街の活性化に貢献する役割を果たしています。

■開局ラッシュにわく1998年

1998(平10)年の東海地区は、わずか半年の間に6局の新局が誕生し、まさに開局ラッシュの年となりました。

東海地区の成長期と言えるこの年は、まず、4月1日に県庁所在地静岡市で「FM-Hi!」が開局。地域経済の活性化と地域住民の利便性を図り、災害時における緊急時対応局であることを標榜しています。

県域局のお膝元でのコミュニティ運営は、認知度、番組構成、スポンサー確保等、さまざまな点で厳しい状況に直面せざるを得ません。また、1,146平方キロメートルにおよぶ広大な市域のカバー率の低さや、隣接する先発局「マリンパル」との混信問題など、「FM-Hi!」にとって解決しなければならない難題が多くありました。混信については、3年の歳月を費やしましたが、2001(平13)年4月1日付をもって親しまれつつあった周波数



「SHANANA! FM」放送風景

を変更することで無事解決。同時に放送電力も20Wへの増力が実現し、放送エリアの拡大を図っています。

「FM-Hi!」に続いて同年4月23日には、人口200万を数える中京圏の拠点都市・名古屋市に「SHANANA! FM」が純民間資本で開局します。当時、名古屋にはすでに4局の県域ラジオ局が展開。大都市におけるコミュニティ放送の経営が注目される中、「SHANANA! FM」は独自の番組構成と経営グループ会社が発行するタウン情報誌、フリーペーパーなどのコンテンツメディアミックスの展開を図り、地域に特化した「名古屋文化」の育成と発展を目指してきました。2000(平成12)年9月には放送電力も20Wに増力。放送エリアの拡大を図るとともに、イベント、ライブ等の支援体制をも整えています。

そして、5月3日には静岡県5番目、東海地区9番目のコミュニティ放送局として、伊豆半島東海岸沿いの観光都市・伊東市に「FMなぎさステーション」が開局。伊東は年間720万人もの来遊客が訪れる湯の街ですから、中心部に立地するスタジオにはゆかた姿の観光客も見られ、のどかな雰囲気が感じられます。

「FMなぎさステーション」の放送は、地域住民だけでなく観光客もターゲット。市内の交通渋滞緩和を目的としたタイムリーな交通情報をはじめ、行楽客へのイベント・観光情報、ダイバーやサーファーのための海・波情報など、地域限定のコミュニティ放送ならではのきめ細かい情報提供で評判になっています。



「FM-Hi!」<大道芸ワールドカップin静岡>の模様をサテライトスタジオから中継 2000(平12)年11月2~5日



「FMなぎさステーション」海岸からのライブ放送風景



「FMダンボ」大須大道町会祭り“DANVOブース”にて 1999(平11)年10月

さらに、5月29日には東海地区10番目になる「FMダンボ(名古屋市)」が開局しました。名古屋市中区を拠点とする純民間資本での開局です。都心に近い「FMダンボ」は「ラッキー、チャーム、エロス」をコンセプトに、出演者(トークジョッキー)のトークを中心に番組を構成。これまでの「FM=音楽放送」のイメージから脱却し、地域FMとの差別化を図っています。

また、名古屋市で先発した「SHANANA! FM」同様、経営母体が主業務とする雑誌類、フリーペーパー(マガジダンボ)の発行など、コマースペーパーと放送番組をリンクさせ、その存在を強くアピール。開局時から募集してきた“ダンボメンバー”も4000人に達し、日常の放送番組を通してそのアイデアが具体的に反映されています。「FMダンボ」は、東海地区を代表する都市型コミュニティ放送局といえるでしょう。

8月23日には、静岡県東部の中核都市・沼津市に「コストFM」が開局。地元企業と自治体とが中心となり、1年の準備期間を経ての開局でした。開局の目的は、「地域住民への生活情報の発信を通じて地域を活性化」「緊急災害時における被災者への有効情報の提供」など。東京へ1時間圏ということもあり、土・日の午後は、最新音楽とともに発信する首都圏情報が世代を越えて人気になっています。

ちなみに、静岡県に立地するコミュニティ放送局全体の特徴として言えることに、地域局のしっかりしたバックアップがあります。資本参加はもとより技術系部門への人的応援(出向)は、専門スタッフを持たずに開局している局からすれば、どれほど心強いことかれません。

1998(平10)年開局のしんがりは、10月1日に岐阜県多治見市に誕生した「FM PiPi」。美濃地方で育まれてきた焼き物文化や、地元の歴史を大切にしながら、地域経

済の活性化を応援。「これからずっとこの町に住んでいたい、子供たちもずっとこの町で育ってほしい」こんな思いを込めての開局です。



「FM PiPi」多治見市産業文化センター内の局外観

「FM PiPi」の開局への取り組みは、1996(平8)年4月に多治見市役所内に設けられた「コミュニティFM研究会」から始まり、後に「多治見コミュニティ放送推進協議会」に活動が受け継がれ、2年半の歳月をかけて開局に至りました。この経緯からもわかるように、「FM PiPi」は多治見市の協力体制が大きなバックボーンになっています。広報番組『多治見シティーガイド』の放送は毎日5回、市の情報を確実に届けることに重点をおいています。開局翌年の5月には駅前商業施設の中にサテライト・スタジオを設置し、公開放送にも力を入れているところです。

■メディアミックスの実践

1999(平11)年は2局の開局をみました。4月14日、静岡県熱海市に「Ciao!」が開局。熱海市の地形は起伏がはげしく、山あいの難聴地区をカバーするため、市の北東部に0.1Wの中継局を設けています。これは東海地区では初の試みとなりました。

「Ciao!」は観光都市熱海のナビゲーターとして、地元の情報のみならず、伊豆半島の情報発信基地としての役割も担っています。午前10時、観光客のチェックアウトがピークに達する頃、熱海周辺はもちろんのこと、伊豆半島全域を対象とした観光情報をオン・エア。この地を訪れる人たちに好評を博しています。また、伊豆地方4局のコミュニティ放送で共同制作する「伊豆、新世紀創造祭」への参加など、地域振興に貢献していることも見逃せません。..



「Ciao!」スタジオ風景



「ポートウェイブ」『Saturday-P-wave』放送中

9月1日には三重県四日市市に県下初のコミュニティ放送局「ポートウェイブ」が開局。これで東海地区4県すべてにコミュニティラジオ局が誕生したことになります。

「ポートウェイブ」は、県内人口の半数が集中する三重県北勢地域を放送エリアに、ボランティアスタッフの手による市民参加型の放送局を目指すとともに、非常災害時には地域住民に必要な情報の「収集と発信」を開局目的としています。

開局翌年の4月には、インターネット放送もスタート。IT時代のインターネットブームに乗って、このWEB・RADIOは日本全国はもちろんのこと、アメリカ、イギリス、オーストラリア等、海外からのアクセスも多く、その反響の大きさに当事者たちも驚いています。

2001(平13)年1月1日、午前0時、まさにミレニアムカウントダウンの中から誕生した「ラジオ・ラビート(豊田市)」は、県下5番目、東海地区15番目、全国では138番目のコミュニティ放送局としてスタート。自動車の街・豊田市と隣接する三好町をメインエリアに、放送電力20Wで放送を開始しました。

もとよりこの地域は、情報基盤整備と情報サービス化の進展が早く、行政と民間との連携によるネットワーク事業の展開が盛んでしたが、さらなる地域密着型のリアルタイムな情報手段として、コミュニティFM放送局の設立に至りました。

「ラジオ・ラビート」は、行政やイベント情報など、実生活に役立つ情報を提供。系列のケーブルテレビ局との間で、CM枠のセット割引料金など、メディアミックスを戦



「ラジオラビート in 松坂屋」開局2周年を記念して放送中



「FM WATCH」スタジオ風景

略としたユニークな営業展開も始まっています。

2002(平14)年7月7日には、岐阜県の県庁所在地岐阜市に「FM WATCH」が開局。JR岐阜駅を核とする駅前再開発ビル<アクティブG>の3階にオープンしたスタジオは、開放的で親しみやすさがセールスポイントです。

ステーションネームの「WATCH(わっち)」の由来は、刻々と流れる時とともに進行するラジオ局の特性と、地元の人々に親しまれ、日常使われている岐阜弁の「私」をかけあわせたもの。

「FM WATCH」のコンセプトは、「挑戦しつづける放送局」。常識にとらわれず、型やぶりの発想の中から、市民参加を主体とした多種多様な番組を放送することを通じ、地域の活性と地元商店街、企業の繁栄を目指すものです。多数の市民による資本参加も「わっち」の特長。市民のための市民による放送局として、民間主導型の放送局として、岐阜市の活性化を担っています。

2003(平15)年に入ると、1月14日に愛知県刈谷市に「Pitch FM」が県下6番目のコミュニティFMとして開局。リスナーと一緒に、地域の「いま」を共有し、「これから」を共に創りあげていくことをコンセプトに、刈谷市・安城市・碧南市・知立市・高浜市など、近隣地区を放送エリアとしています。先行する系列のケーブルテレビ局「キャッチネットワーク」の知名度を最大限に活用し、共同番組制作などを積極的に取り入れ、ケーブルテレビの足らざる部分は放送で補完する、まさに、メディアミックスを実践しているモデルケースとして、注目を集める局といえるでしょう。



「Pitch FM」開局式の模様

互いにさまざまな繋がりを持ち
発展する東海地区

2003(平15)年9月5日、JCBA東海地区協議会の定例会議が、エフエムたじみ(岐阜県多治見市)で開かれました。25回目を数えるこの会議には、加盟17社中、15社27名が出席。総務省東海総合通信局からも、放送課総括チーフ、および放送課総括担当者の2名が同席されています。

3カ月ごとに開かれるこの定例会議は、JCBA理事会報告をはじめ、さまざまな問題を検討、地区の意志決定を計る場です。新局が誕生し、加盟局の数が増えるとともに、会議における意見交換も厳しさを増してきました。

振り返れば、1997(平9)年3月、JCBAの意向を受け、当時開局中の4社(エフエム豊橋、浜松エフエム放送、エフエムしみず、エフエムみしま・かなみ)で東海地区連絡会を立ち上げ、共通する課題・情報の交換に取り組み始めたのが、そのスタートでした。そして、1999(平11)年9月、第9回会合において、会の名称を協議会に変更。会則などの制定を図り、今日に至っています。

この間、東海郵政局長宛に、郵政業務の広報活動にコミュニティ放送の活用を勧める要望書を提出したのをはじめ、毎年の情報通信月間においては、加盟局すべてをあげて参加。「不法電波追放」を目指し、共通啓発コマーシャルの放送や、各放送局を開放して市民参加の呼びかけなどを積極的に行ってきました。また、営業実務、制作実務、それぞれの担当者間での意見、情報交換会を定期的に開くとともに、全局共通パンフレットの制作など、時の流れとともに活動が活発化してきています。

日本の中央部に位置し、太平洋に面した長い海岸線を持つ東海地区は、東海道メガロポリスの産業・文化の中核を担う地域として、古くから互いにさまざまな繋がりを持ちながら、栄えてきた歴史があります。JCBA東海地区協議会のこれまでの活動にも、そうした背景が色濃く反映されていると言えるかもしれません。

以上のように、4県下に17局が展開する東海地区のコミュニティ放送は、それぞれが地域情報の受・発信拠点として、地域の活性化、地域文化の向上に貢献することのできる放送メディアとして、一日も休むことなく情報を伝え続けています。また、災害発生時における放送局の使命として、緊急時の報道体制も積極的に整備するなど、東海4県、1,500万人を数える人々にとってコミュニティ放送局が“生活必需品の一つ”となるべく努力を続けていきます。

JCBA東海地区協議会の10年、及び加盟各局の歩み

1993(平5)年	11月27日	エフエム豊橋(豊橋市/愛称:FM DiNO、84.3MHz、電力1W)開局。全国で3番目の開局となる。
1994(平6)年	5月15日	浜松シティエフエム(浜松市/愛称:FM Haro!、76.1MHz、電力1W)開局。
	9月16日	FM DiNOが台風情報の特別番組を放送。
1995(平7)年	3月16日	FM Haro!が「浜松エフエム放送」に社名変更。
	4月24日	FM DiNO・FM Haro!、放送電力を1Wから10Wに増力。
1996(平8)年	6月2日	エフエムしみず(清水市/愛称:マリンバル、76.3MHz、電力10W)開局。
	6月	エフエム豊橋、愛称を「FM DiNO」から「FM やしの実」に改称。
	11月14日	「第2回全国コミュニティ放送サミットinとよはし」が豊橋市で開催される。この年までにコミュニティ放送局は県域の放送局数を上回る48局を数えた。
1997(平9)年	3月16日	FM やしの実、震度5強の地震発生に伴い緊急災害情報を放送。
	6月1日	エフエムみしま・かなみ(三島市・函南町/愛称:ボイス・キュー、77.7MHz、電力10W)開局。
	7月19日	飛騨高山テレ・エフエム(高山市/愛称:Hits FM、76.5MHz、電力10W)開局。
	9月1日	エフエム岡崎(岡崎市/愛称:FM おかざき、76.3MHz、電力10W)開局。
	9月12日	東海地区連絡会(現在のJCBA東海地区協議会)発足。
1998(平10)年	4月1日	シティエフエム静岡(静岡市/愛称:FM-Hi!、76.5MHz、電力10W)開局。
	4月23日	名古屋シティエフエム(名古屋市/愛称:SHANANA! FM、76.1MHz、電力10W)開局。
	5月3日	エフエム伊東(伊東市/愛称:FMなぎさステーション、76.3MHz、電力10W)開局。
	5月29日	名古屋中エフエムラジオ(名古屋市/愛称:FMダンボ、76.5MHz、電力10W)開局。
	8月23日	エフエムぬまづ(沼津市/愛称:コーストFM、76.7MHz、電力10W)開局。
	8月30日	ボイス・キュー、静岡県東部伊豆地方豪雨に伴い災害情報を放送。
	10月1日	エフエムたじみ(多治見市/愛称:FM PiPi、76.3MHz、電力10W)開局。
	10月3日	FM Haro!とFM やしの実、県境を越えた初の合同中継特番「DOKI・どき・ワクワク」を放送。その後の2局合同特番の体制を築く。
1999(平11)年	4月14日	エフエム熱海(熱海市/愛称:FMあたま、79.6MHz、電力10W)開局。山間部のため泉地区に0.1Wの子局を持つ。
	9月1日	エフエムよっかいち(四日市市/愛称:ポートウェイブ、76.9MHz、電力10W)開局。
	9月24日	FM やしの実、竜巻発生に伴い緊急災害情報を放送。
2000(平12)年	11月12日	FM やしの実、放送電力を10Wから20Wに増力。
	4月~9月	各局で放送電力の増力が相次ぐ。(FMダンボ・ポートウェイブ・City FM 761:10W→20W)
2001(平13)年	9月11~15日	FM PiPi・FMおかざき・FMダンボ、東海豪雨に伴い緊急災害情報関連番組を放送。
	1月1日	エフエムとよた(豊田市/愛称:ラジオ・ラビート、78.6MHz、電力20W)開局。
	4月1日	FM-Hi!、周波数を76.5MHzから76.9MHzに変更。同時に放送電力を10Wから20Wに増力。
	4月6日	FMあたま、神奈川県湯河原町舎にサテライトスタジオを開設。県境を越えた初めての例。
	6月	JCBA東海地区協議会加盟15社、共通パンフレット「東海コミュニティFMネットワーク」作成。
2002(平14)年	9月1日	マリンバル、『ザ・防災』と題する防災番組を開始。静岡県放送局SBSと県下5局のコミュニティFMが参加。放送日を関東大震災(9/1)、阪神大震災(1/17)の発生した日に近い日を選んで放送。
	11月27日	エフエム熱海、商号を「エフエム熱海」から「エフエム熱海湯河原」に変更。愛称はCiao!(チャオ)。
2003(平15)年	1月17日	ポートウェイブ、「ポートウェイブとしよう!防災とボランティアの日」をスタート。毎月17日を局の防災啓発の日としてPRを開始。
	7月7日	シティエフエムぎふ(岐阜市/愛称:FM WATCH、78.5MHz、電力20W)開局。
2003(平15)年	1月14日	エフエムキャッチ(刈谷市/愛称:Pitch FM、83.8MHz、電力20W)開局。
	8月	ポートウェイブ、国土交通省・日本道路交通情報センターの協力を得て、三重県北勢地域の交通情報をラジオでのオンデマンドサービスを開始。
	10月26日	FM やしの実・FM Haro!・iステーション(信越管内局)、『もっと三遠南情報局スペシャル』を3局ネットで生放送。コミュニティ放送が、愛知県・静岡県・長野県のトライアングル地域を放送で結ぶ。

■全国初のキャンパスFM局の誕生

北陸地区では、1995（平7）年末から翌96（平8）年11月までに石川県に4局、1996（平8）年12月から2001（平13）年4月までに富山県で4局、2001（平13）年末に福井県で1局と、石川・富山・福井の順に広がりを見せ、全体では現在までに9局が開局しています。

1995（平7）年12月27日に北陸地区初の開局となった「FM-N1（石川県野々市町）」は、主要株主である金沢工業大学の構内に送信施設を設置した全国初のキャンパスFM局として誕生しました。

同大学のライブラリーセンターに併設されているPMC（ポピュラー・ミュージック・コレクション）には約14万枚のLPレコードが所蔵されており、これらを音源の一部として利用することができます。選曲はオールディーズなど最近では聴取の機会の少なくなった曲に重点が置かれ、大学生以上のリスナーから多くの支持を得ているといます。ちなみに2003（平15）年4月1日から2004（平16）年1月15日までのオン・エア曲数は、44,306曲（洋楽 21,901曲、邦楽 22,405曲）にのびります。

また、金沢工大生による番組『キャンパス・ウェーブ』も毎週10時間オン・エアされるなど、キャンパスFM局としての特色を番組作りに反映させています。

さらに、地域に開かれたラジオ文化を実現させるために、番組作りに参加するボランティアのサポーターを募集。これまでに、高校生から社会人、主婦など733人の参加があり、番組制作の現場を体験していただきました。



「FM-N1」
金沢工業大学の学園祭の様を生中継するサテライト・スタジオを開設。その隣には非常食試食テントを設置して来場者の防災意識の喚起に務める



「ラジオかなざわ」
ゲストに五木ひろしさんを迎えて

自社制作の番組は現在169本。先の『キャンパス・ウェーブ』やPMC制作の番組などキャンパスからの放送が合わせて年間1,000時間以上、地元野々市町の全職員が出演する広報番組『マイタウンのいち』が年間500時間以上放送されており、番組の自社制作比率は常時70%以上をキープしています。今後もこの数字を達成し続けることが大きな目標の一つです。

■「日本の、心の歌」で中高年層をつかむ

石川県では1996（平8）年は開局ラッシュの年となりました。4月1日に「ラジオかなざわ（金沢市）」、11月1日に「ラジオこまつ（小松市）」、同月15日に「ラジオななお（七尾市）」が誕生しています。

この3局は現在姉妹局として各方面で連携を進めています。番組制作の面では、ゴールデンウィークや夏休み期間中に放送する観光情報特番を3局ネットでオン・エアしているほか、いずれの局も「日本の、心の歌」をキャッチフレーズに、音楽は歌謡曲、演歌、懐かしのポップスなどを中心に選曲。中高年層からのリクエストやメッセージが数多く寄せられているといます。

加賀百万石の中心地・香林坊に社を構える「ラジオかなざわ」は、自らを「電波の回覧板」と位置づけました。平日の朝・昼・夕の生ワイド番組内での『北國新聞ニュース』で、地域の新しい出来事・話題を提供するのはもちろんのこと、火災や事故の速報、行方不明者の捜索情報なども随時放送。車で聴いていたリスナーが、捜索中の徘徊者と特徴が似ている歩行者を発見し、通報したことから保護に至ったこともありました。

また、『電話なんでも相談室』は、各ジャンルの専門家が日替わりで親切・的確にアドバイスしてくれると支持も多いため、翌朝に再放送をしています。

そして、金沢市が行う市民震災訓練の特番は毎年実施。訓練の様や各地域の取り組み、専門家による解説なども交えながら、スタッフは常に「防災ラジオ」のあり方を模索し、地元で役立つ放送局でありたいと願っています。

「ラジオこまつ」は開局イベントとして、有名歌手の歌謡ショーを開催。これを皮切りに、歌謡キャンペーンを年間平均10本程度これまでに実施してきました。“歌”を通じてコミュニティFMの存在を身近に感じてもらおうと考えたからです。開局当初から歌謡ベストテン番組や懐かしのヒットチャート特集などを組むことで、中高年を中心に着実にリスナーを獲得してきました。



「ラジオこまつ」
JR小松駅に設置されているPR用の広告ディスプレイ



「ラジオななお」スタジオ放送風景

現在は中高年層だけでなく若年層にももっと親んでもらえるようにと、小松市・加賀市の各小学校の6年生が出演する『子供討論会』を開始。新しい反響が届くようになり、スタッフも手応えを感じ始めているところです。

もちろん、コミュニティFMの大きな役割の一つである防災情報についても、小松市と防災協定を結び、いつでも対応できる体制を整えています。

また、県域AM・FM局が取り上げないような地域の事細かな話題も丹念に拾い、伝統の「子供歌舞伎」をはじめとした地域の大小イベントを幅広く紹介するなど、すべてのリスナーが新鮮で生きた情報を入手できるような番組制作を心がけています。

七尾市は和倉温泉や七尾城址、青柏祭など観光資源の豊かな地域で、「ラジオななお」もそのレポートに力を入れています。毎年1月の「和倉温泉北國冬花火」や、5月に行われる日本一の曳山「青柏祭」などのビッグイベントの生中継だけでなく、レポーターがエリア内のさまざまなイベントに駆けつけ、その模様や人々の声を伝えています。

また、住民参加型の番組編成を基本として、リスナーがスタジオを訪れたり、電話を通じて番組に出演する機会が少なくありません。

市内の総合商業施設が実施した聴取率調査では、カーラジオ聴取者の44.7%を獲得。これは県域のAM・FM局をもしのぐエリア内トップの成績でした。

■街の中心部でリスナーと触れ合う

富山県での開局第1号は1996（平8）年12月1日に誕生した「ラジオたかおか（高岡市）」。翌97（平9）年7月7日に「City-FM（富山市）」、12月24日に「ラジオ・ミュー（黒部市）」が開局。そして2001（平13）年4月25日に「FMとなみ（砺波市）」が開局しました。

「ラジオたかおか」は開局した当初から、“地域内の人々の番組への出演”に力を注ぎました。この7年余りの間に出演した人は2万人以上に達しています。

加えて、地域に密着したコミュニティFMだからこそ伝えられる「今日起こった地域での出来事」を、富山新聞と連携していち早く放送してきたこともあり、現在では「地元の身近な放送局」というイメージも定着しつつあります。

2001（平13）年12月には、高岡市が「高岡市災害情報緊急放送装置」を「ラジオたかおか」と高岡市消防本部に設置。これで災害時の迅速な緊急情報の提供が可能になりました。地域でいっそう信頼されるメディアとなるためにも、スタッフは毎年、市の防災訓練に参加し、本番さながらの「訓練放送」を繰り返し行って、万々に備えています。

番組の企画・制作で念頭に置いているのは、「ラジオたかおか」にしか出来ないことを実践すること。その一つが、2003（平15）年1月から地元大型ショッピングセンターと提携して始められた『ファーストサンデーコンサート』。毎月第1日曜日にアーティストを招いてコンサートの様子などを生放送するもので、これまでに尾崎亜美、池田聡、Le Coupleなど、有名アーティストが多数登場しており、リスナーも楽しみにしている番組となっています。

また、7月には、高岡市・高岡商工会議所と共同で『いらっしやいませ！高岡中心商店街』を立ち上げました。高岡市内の11商店街1300店舗をくまなく紹介していく企画で、地元にも素敵な店がたくさんあることをリスナーに伝えると同時に、地元商店街の振興にも



「ラジオたかおか」
イオン高岡SCで開催されている「ファーストサンデーコンサート」放送風景

一役買っています。

これからも「地域のためにできること」を一つひとつ実現させていきたいと、スタッフたちは番組制作に取り組んでいます。

「City-FM」は1997（平9）年7月7日午前7時、周波数77.7MHzと、「ラッキー7」づくしでスタートしました。開局以来、ニュース・情報番組に力を入れています。月曜から金曜、毎朝新聞記者が出演し、その日の朝刊記事を解説する『北日本新聞 朝刊拾い読み』は好評です。

また、「飛び出すラジオ」をキャッチフレーズに、数々の生中継でフットワークの軽さをアピールしています。富山市中心商店街や中央卸売市場のイベントや「富山市総合防災訓練」の生中継をはじめとして、1999（平11）年大晦日にはカウントダウンイベントを生中継。翌年は富山全日空ホテルに仮設スタジオを設置しての中継となり、以来カウントダウン特番は毎年恒例となりました。

2002（平14）年5月にラジオ中継車を導入。10月からはこれを駆使して、週3日街へ飛び出す『ちゅーしたい』が始まりました。

同年6月には、富山市中央通にサテライトスタジオ「C-station」を開設し、毎週土曜日午前11時から5時間の生放送を行っています。多くの街角パフォーマーをライブゲストに招き、リスナーとの一体感が放送を通じて伝えられるよう心がけています。

この年の10月から始まった『みんなの学び舎』は、富山市内の全小・中学校69校に出かけていき、その校歌と児童・生徒のインタビューで構成する番組。子供たちの素直な発言やユニークな話を楽しみにしているリスナーも少なくないとか。

より身近に地域の人々と触れ合えるコミュニティFMを目指して、これからもスタッフは軽快に街に飛び出していきます。

■北陸地区は魅力的な観光情報の宝庫

富山県東部の黒部市国際文化センターコラーレ内のスタジオを拠点としているのは「ラジオ・ミュー」。この“ミュー”とはマイクロの単位のこと、「地域のどんな小さな情報でも取り上げていこう！」という意味が込められています。

可聴エリアの新川地区は、翡翠の取れる宮崎海岸、ビーチボールの発祥の地・朝日町、最近話題となっている深層水とジャンボスイカの産地・入善町、黒部峡谷トロッコ電車、開湯80周年を迎えた宇奈月温泉のある宇奈月町、黒部川扇状地の豊かな湧水が自慢の黒部市、そして、蜃気楼の見える街・魚津市と、興味深い情報の宝庫とも言えるエリアです。「ラジオ・ミュー」は、「なろう一番（76.1MHz）ラジオ・ミュー」を合言葉に、まだまだ知られていない地域の魅力を伝えようと綿密な取材を続けています。

富山県西南部の最大イベントといえば30万人が訪れるという「チューリップフェア」。「エフエムとなみ」は2001（平13）年の第50回記念フェアの開幕とともに産声を上げました。以来、フェアの期間中は連日特番を組んで、多彩なイベント、裏方さんたちの活躍などを伝えるほか、会場近辺の交通情報を提供しています。

レギュラー番組は「住民参加型のラジオ」をモットーに制作。昼の生放送には、地域の話題紹介や気になる人をはじめ、育児、郷土史、童話朗読、学校紹介などで多数のゲストが出演しています。

また、地元企業の社長さんがDJを務める音楽番組や文化ホール職員のコンビが作る音楽番組、市民パーソナリティが地元で活躍するゲストを招く対談番組や、バーでのくだけた会話を収録する番組など、市民DJが活躍しています。

「エフエムとなみ」が拠点となり、こうした市民交流や地域文化の活性化の輪が広がりつつあります。



「City-FM」富山市の中心商店街に開設されたサテライト・スタジオ「C-station」では、毎週土曜日にライブゲストを招いて生演奏を放送



「ラジオ・ミュー」スタジオを覗けるメガネ窓前にスタッフが集合



「FMとなみ」チューリップフェアの会場から連日特番を放送



「Radioあいらんど」スタジオ放送風景

■出資者を一口5万円ずつで公募

北陸地区で最も新しいコミュニティFM局が「Radioあいらんど（福井市）」。2001（平13）年12月15日、全国で150局目の開局となりました。資本金の規模は1,500万円と小さく、その内の500万円はエリア内の企業等から一口5万円ずつ公募するというユニークな設立方法を採用しています。

第三セクターではありますが、エリアとなる福井市からの出資も一口のみと限りなく純民間に近く、特定の大口出資企業を持たないところが、リスナーからは親しみやすい身近な放送局として受け止められているようです。

局の愛称である「Radioあいらんど」は公募によるもので、2002（平14）年4月より使用されています。現在、平日の日中10時間程度、自社制作を含む24時間放送を実施し、地域イベント等の実況放送にも積極的に取り組んでいます。14～5人程度のスタッフ（パーソナリティを含む）が、福井駅近くの10坪あまりの会社を集結し、一つのスタジオから毎日元気にオン・エアを続けています。

■北陸地区の今後の展開

JCBA北陸地区協議会は、2003（平15）年11月25日、金沢市文化ホールで研修会を開きました。北陸総合通信局情報通信部放送課主任電波検査官、綿谷信義氏を講師に迎え、「デジタル化時代の中のコミュニティ放送」をテーマに情報交換、活発な質疑応答が行われました。

コミュニティ放送は今後も、市町村合併など、多くの課題と取り組んでいかなければなりません。時代の変化にどう対応していくのか。定期的に会合、研修会を開き、ともに協力していきます。

JCBA北陸地区協議会の10年、及び加盟各局の歩み

1995（平7）年	12月27日	えふえむ・エヌ・ワン（石川県野々市町／愛称：FM-N1、76.3MHz、電力10W）開局。
1996（平8）年	1月8日	FM-N1、野々市町行政広報番組「マイタウンのいち」放送開始。
	1月15日	FM-N1、「PMC（ポピュラー・ミュージック・コレクション）」放送開始。
	4月1日	ラジオかなざわ（金沢市／愛称：ラジオかなざわ、78.0MHz、電力10W）開局。 FM-N1、「キャンパス・ウェーブ」放送開始。また、東京スタジオを高円寺に開設。
	5月22日	FM-N1、野々市町が正式に参画し第三セクターに。
	8月18日	ラジオかなざわ、金沢市民震災訓練に参加し特番放送。以後毎年8月に震災訓練特番を放送。
	11月1日	ラジオこまつ（小松市／愛称：ラジオこまつ、76.6MHz、電力10W）開局。
1997（平9）年	11月15日	ラジオななお（七尾市／愛称：FMラジオななお、76.4MHz、電力10W）開局。
	12月1日	ラジオたかおか（高岡市／愛称：ラジオたかおか、76.2MHz、電力10W）開局。
	12月	ラジオたかおか、市政情報番組「わが町たかおか版」放送開始。
	1月1日	ラジオかなざわ、新年の特番をインターネットで同時放送。
1998（平10）年	7月7日	富山シティエフエム（富山市／愛称：City-FM、77.7MHz、電力10W）開局。
	7月	ラジオかなざわ、徘徊老人対策「おとしより おかえりねっと金沢」に参加。
	8月8日	ラジオこまつ、南加賀ラジオ民謡大賞開催。
	10月1日	FM-N1、情報誌「N1-WAVE」を発行。
	11月	ラジオかなざわ、レギュラースポーツ番組「週間相撲DT」放送開始。
	12月24日	新川コミュニティ放送（黒部市／愛称：ラジオ・ミュ、76.1MHz、電力10W）開局。
1999（平11）年	2月	ラジオ・ミュ、行政情報番組「マイシティにいかわ」放送開始。
	4月26日	FM-N1、野々市町の文化講演会「地域社会とコミュニティ放送（講師：木村太郎JCBA会長）」を企画。
	4～5月	ラジオかなざわ・ラジオこまつ・ラジオななお、観光情報番組「かがのともしもし探険隊」放送開始。
	9月	ラジオかなざわ・ラジオこまつ・ラジオななお、受験番組「北國ラジオ講座」放送開始。
2000（平12）年	7月	ラジオたかおか、City-FM、ラジオ・ミュの富山県3局合同番組「コミネットとやま」放送開始。
	9月2日	City-FM、富山市総合防災訓練の生中継特番を放送。
	10月	ラジオたかおか、新湊市行政情報番組「とれたて情報新湊」放送開始。
2001（平13）年	1～3月	各局で放送電力の増力が相次ぐ。（ラジオかなざわ、ラジオこまつ、FM-N1、City-FM、ラジオななお、ラジオたかおか、ラジオ・ミュ：10W→20W）
	4月30日	ラジオ・ミュ、宇奈月温泉にサテライト局「宇奈月温映BOX」開局。
	8月6日	City-FM、バスの車内から携帯電話中継器で生中継を実施。
2002（平14）年	4月25日	エフエムとなみ（砺波市／愛称：FMとなみ、76.9MHz、電力20W）開局。 5月6日まで「チューリップフェア」会場内サテライト・スタジオから特別番組を放送。
	8月25日	FMとなみ、「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド」（福野町）の前夜祭を中継。
	12月15日	福井街角放送（福井市／愛称：Radioあいらんど、77.3MHz、電力10W）開局。
2003（平15）年	12月	ラジオたかおか、高岡市より災害情報緊急放送装置を設置される。
	5月	City-FM、ラジオ中継車を導入。
	6月	City-FM、富山中央通にサテライトスタジオ「C-station」を開設。
	7月	ラジオたかおか、高岡商工会議所との共同番組「いらっしゃいませ！高岡中心商店街」放送開始。
	10月	City-FM、「みんなの学び舎」放送開始。
	12月	ラジオかなざわ、金沢市と協定を結び、災害緊急情報伝達システムの運用を開始。
2004（平16）年	1月	ラジオたかおか、生放送による「ファーストサンデーコンサート」放送開始。
	8月15日	FMとなみ、クーポン情報誌「ななろく」創刊。
	11月25日	JCBA北陸地区協議会、研修会「デジタル化時代の中のコミュニティ放送」を開催。
2004（平16）年	2月14日	City-FM、富山市災害ボランティアネットワークの会員に。

■近畿地区コミュニティ放送の開局分布

1993(平5)年に開局した「FM HANAKO(守口市)」に始まり、JCBA近畿地区会には2004(平16)年3月末現在、23局が加盟しています。

県別に見ると、兵庫県が11局と最も多く、特に1995(平7)年の阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた地区での早期の立ち上がりが目立っています。これは、コミュニティ放送が「防災に役立つ」電波として地域の人々に必要とされていることの象徴的な表れといえるでしょう。

また、地方自治体(市町村)の第三セクターとして運営されているコミュニティ放送局が多いのも近畿地区の特徴です。

1998(平10)年に、当時の近畿電気通信監理局(現：近畿総合通信局)が大阪湾岸地域での割り当て周波数不足を発表した際には、開局熱の低下が心配されました。けれども、周波数不足圏以外では不況にもかかわらず開局の機運は力強く、県域放送局とは一味違った新しい「市民電波」に寄せる期待が大きいことが感じられます。

■さまざまな意見や情報を発信する「市民の広場」

企画や構成に工夫を凝らし、さまざまな年齢層が放送現場に参加しているコミュニティ放送。高齢者をひ

きつける局、多言語での放送に取り組んでいる局、オフィス街にやさしい音楽を提供する局など、近畿地区各局の特徴は実にバラエティに富んでいます。

放送事業である限り「聴取者」との結びつき、その広がりがないと事業の存続はおぼつきません。それだけに、各局は「電波銀座の関西」を生きぬくためにいろいろな知恵を発揮し、今ある各局の個性を創造してきました。一方で、全局が結集して「近畿ジョイントセーリング」(■JCBA近畿10年の概略、そして今後の展望へ、の項に詳述)というユニークな共同営業商品も誕生させています。

各局の個性は多彩ですが、放送局のあり方は2つのタイプに大別されるでしょう。

ひとつは、放送局を市民の広場として開放(解放)し、その電波を市民相互のコミュニケーション・ツールと考えて事業運営するタイプ。いわば、放送局は個人の意見や情報(個人、団体を問わず)を縦横無尽に発信させるための「触媒」というわけです。

「FM HANAKO」の放送コンセプトである『市民情報局』という言葉は、まさにそれを表現するものであり、「FM JUNGLE(豊岡市)」の『ジャングルパーティタイム』や「FMうじ(宇治市)」の『みつばちクラブ』といったヤング・メッセージ交換番組は、その運営姿勢が番組として具現化されたものと言えます。ここに、「電波の市民解放」という今までにない新しいスタイルの放送文化が出現したといっても過言ではないでしょう。



被災者ら支えた「防災放送」

FMビーチステーション

白浜の観光ホテル火災で活躍

11時間「生」で情報提供

「FMビーチステーション」が白浜町の観光ホテルの火災に関する防災情報を約11時間にわたり放送したことを紹介 1998(平10)年11月22日 産経新聞



合併、FMで生激論

北但東部 3市町長・高校生ら

「FM JUNGLE」が北但東部の市・町合併を巡る公開討論会を開催。自治体の長と住民の代表が激論を交わす模様を中継し、人々の意見を縦横無尽に発信させるための「触媒」の役割を果たす 2003(平15)年6月2日 朝日新聞



「さくらFM」
放送中のスタジオ風景



「FMいかる」
綾部市地域情報センター1Fのスタジオ



「TACKEY 816」
特番『みのお祭り』生放送風景

を主目的に開局し、多くのボランティアの皆さんの協力を得て多言語放送を行ってきました。その活動はローマ法王から開局を祝うメッセージを受けるなど、いまや世界と直結した局になっています。

同じ阪神・淡路大震災の被災地・尼崎市に開局した「FM aiai」は、多様な市民参加番組と選曲の妙で特色を作り出していますが、加えて、尼崎市の積極的な情報化事業の一環として、FM文字多重放送を軌道に乗せています。

開局が新しいところでは「ハミングFM宝塚（宝塚市）」の取り組みも見逃せません。宝塚市は歌劇の街。同時に手塚治虫館がある街としても有名です。鉄腕アトムの誕生日である2003（平15）年4月7日には、市民と一緒に地元ならではの特番を組みました。

古都・奈良の江戸時代の風情を残す奈良市に開設された「ならどっとFM」は、市民と一体となって番組作りを進めるとともに、観光客への観光情報をもきめ細かく提供。また、スタジオ横で生演奏カフェを運営するなど多角的な事業化を実現させています。

21世紀の初年に開局したことから、ステーションネームに「21」と数字を入れた「姫路シティエフエム21」。世界遺産・姫路城にも負けじと、愛称は「FM GENKI」と名づけ、活きのいい放送を城下町に送っています。

近畿地区には、町おこし・街づくりをテーマに誕生するコミュニティ放送局も少なくありません。

和歌山県の温泉地・湯浅町に2001（平13）年に開局した「マザーシップ」、そして2002（平14）年に滋賀県彦根市で青年会議所の若いエネルギーを結集して誕



「FMハイホー」
リスナーとスタッフのクリスマスパーティー

生した「FMひこね」、2003（平15）年に開局した兵庫県三田市の「ハニーFM」、いずれも若者の心を結集し、ふるさとの町おこしの中心的存在を目指して放送活動を展開しています。

このようにたくさんの市民参加番組・地域密着番組が各局で多彩に展開され、広く支持を得られる番組へと成長を続けています。

■個性を競う都市型コミュニティ放送局

「市民開放」型の局がローカリティを基盤にしているのに対し、ローカリティが希薄な地域、つまり大都市部に誕生した局は、地域放送と競い合いながら生きぬくために「個性をより純化」した放送に活路を見出しています。いわゆる都市型の放送事業を志向するタイプです。

大阪の街は「キタ」と「ミナミ」の2大繁華街を擁しますが、そのうちの「キタ」である梅田の再開発地域に「Be Happy! 789」があります。ここは、阪神電鉄グループと再開発地域企業が運営する局で、再開発で誕生した新しい都市から「働く大人」への情報発信



「ハッピーエフエムいたみ」局舎



「FMちゃお」元気いっばいのスタッフ



「FMわいわい」開局1周年セレモニーのもよう



「FM aiai」 局舎外観



「ハミングFM宝塚」
2003年4月7日 鉄腕アトムの誕生日に特番を放送



「なら ひとつ FM」 局舎

基地として、オフィス街に心地良い音楽を届けることを主眼にしています。

また、「キタ」と相対する「ミナミ」には「YES・fm」があります。吉本興業を母体とすることもあり、多くの吉本タレントが出演。選曲にも独自のポリシーを持ち、有線放送でも広く再送信され、吉本ファンをがっちりつかんでいます。

このように近畿のコミュニティ放送には大きく2つのタイプがありますが、当然ながら各局はそれぞれ、編成にバラエティを持たせるなど、独自の運営努力を重ねています。そして23局がお互いに切磋琢磨しレベルの高い個性的な放送を目指しています。

■JCBA近畿10年の概略、そして今後の展望へ

近畿地区のコミュニティ放送が現在までに成長してきた背景には、地区連絡会の活発な展開が大いに寄与しています。

1996（平8）年6月の全国コミュニティ放送協議会総会での地区協議会創設決議を受け、同年11月29日に近畿コミュニティ放送協議会（通称：近畿地区連絡会）が発足。その主目的は「理事会決議事項の会員周知」



「FMひこね」彦根市のイベントに参加して生放送



「ハニーFM」 開局間もないスタジオ放送風景



「Be Happy! 789」 Hard Rock CAFE神戸のイベントを中継



「YES・fm」 スタジオ



「FM GENKI」 スタジオ放送風景

「理事の推薦」。加えて、共通課題の解決や放送事業の向上のための諸活動と確認、ということでした。発足時には6局でしかなかった加盟社も現在は23局に増え、この7年間の会議回数も30数回を数えています。

ちなみに年度別の主要テーマは次のとおりです。

- 平成9年度 「イントラ・ネット導入に関する事項」
- 平成10年度 「COMU-NET導入検討」「関西コミュニティ放送賞の創設」「近畿全局共同制作・営業に関する事項」「増力に関する事項」
- 平成11年度 「JCBA基本方向検討委員会への提言」「共通営業に向けた事業検討」
- 平成12年度 「近畿全局ジョイントセール料金及び分配の具体的合意及びセールシートの作成」「JCBA10年史の近畿版作成に向けて」
- 平成13年度 「音楽著作権使用料第2次交渉」「JCBAのあり方への提言」
- 平成14年度 「JCBA法人化に向けて」

廃線の有田鉄道で特別番組



湯浅のFM局
湯浅FM局の特別番組「湯浅FM」が、有田鉄道の廃線跡を舞台に放送された。湯浅FM局の社員が、湯浅FM局の特別番組「湯浅FM」の収録に協力した。湯浅FM局の社員は、湯浅FM局の特別番組「湯浅FM」の収録に協力した。

関西コミュニティ放送賞 最優秀賞に輝く

三十三回（平成十五年）度関西コミュニティ放送賞最優秀賞に輝いた「エフエムマザーシップ」の紹介。この賞は、関西地区のコミュニティ放送局が主催する「関西コミュニティ放送賞」で、最優秀賞に輝いた。この賞は、関西地区のコミュニティ放送局が主催する「関西コミュニティ放送賞」で、最優秀賞に輝いた。

地元密着の 番組目指す

第5回関西コミュニティ放送賞を受賞した「エフエムマザーシップ」の紹介
2003（平15）年3月30日 読売新聞和歌山版

近畿地区連絡会では、これら年度別また年度を越えた諸課題を共有するために、会議と同時にアンケートを実施。その集計・総意を、理事を通じてJCBAに反映させることを大切にしてきました。また、近畿地区の理事選出でも、加盟社の率直な意思を反映させるために「選挙」という形を堅持しています。

JCBA近畿は、各局の意思を可能な限りすくい取ること大切に組織運営を基本に、全局が積極的に共同で活動参画できる環境づくりに努めています。

その第一の成果は「関西コミュニティ放送賞」の創設でした。1998（平10）年に始まった「関西コミュニティ放送賞」は、各局の放送番組やコマーシャル、また、地域での放送活動などを積極的に出品しあい、審査には全局が参加する事業です。そうすることで互いに他社の長所を吸収し、自社の成長に結び付けようという試みです。

もともと、より良い番組を送出するためのノウハウの交換や、地区会でとどまっていた番組制作のための有益情報の入手を望む声が強かったこともあり、各局の第一線の番組制作スタッフが審査に参加する関西コミュニティ放送賞という場が創設されたのです。

この賞は2003（平15）年度までに6回を数え、受賞局も多岐にわたっています。それは、各局の制作能力が向上し、かつ、近畿23局が高いレベルで平準化して

いる証だといえるでしょう。

JCBA近畿には番組制作を切磋琢磨するこうした土壤に加え、制作・営業両面での23局の連動も活発化しています。その代表的なものが「近畿ジョイントセーリング（2000年創設）」という全局共同の営業商品です。近畿の広域および地域のAM・FM局と競争できる番組商品の企画とその販売価格の設定には、2年間にわたる協議が積み重ねられました。その結果、ブロック全局を単純に同一価格で処理する分配方法を排し、各局の媒体力に従って分配するという当然の帰結を全局一致で確認。また、全局がキー局たり得、汗をかいた（営業をした）局がより多くの利益を得るというシステムを確立したのです。

「関西コミュニティ放送賞」も「近畿ジョイントセーリング」も、JCBA近畿全局が本音で討議しあう中から誕生したJCBA近畿の活動の成果といえます。

また、JCBA近畿では2000（平12）年夏にシンポジウム「21世紀のコミュニティ放送を考える」を開催。講師は、21世紀のメディアのあり方についての講演を展開し、コミュニティ放送が21世紀も多くの生活者に必要とされ続けるメディアであるためのヒントについても語られました。明日を生きる知識を共有する努力。これもまたJCBA近畿の重要な活動の一つです。

21世紀を迎えて、放送界はデジタル化への移行が促進されています。この流れにコミュニティ放送がどう対応していくかは、近畿地区に限らずJCBA全体にとっても重要な課題となっています。まず、デジタル放送のチャンネルプランにコミュニティ放送枠を確保するために、JCBA近畿は、コミュニティ放送の活用アイデアについて積極的にJCBAに提案したいと考えています。



「FM HANAKO」
守口市市民まつり特別番組のステージ



「FM JUNGLE」
ショッピングセンター内にあるスタジオ放送風景



「FMピーチステーション」
地元小学生によるスタジオ放送風景



「エフエムみっきい」
番組出演中の中学生をスタジオの外で応援する友人たち



「マザーシップ」局舎外観

JCBA近畿地区協議会の10年、及び加盟各局の歩み

1993(平5)年	7月20日	エフエムもりぐち(守口市/愛称:FM HANAKO、82.4MHz、電力1W)開局。近畿のコミュニティ放送の歴史が始まる。	1999(平11)年	1月1日	エフエム伏見、商号を「京都シティエフエム」に変更。
				1月29日	FMわいわい、シンポジウム「多言語で災害情報を！」を開催し、同局が開発した「災害時多言語発信システム」を紹介。
1994(平6)年	7月20・21日	「第1回全国コミュニティ放送サミット」が守口市で開催。ハワイからの参加も含め約500名が出席。		2月23日	第1回関西コミュニティ放送賞の選定。きくFMの「清水哲“ずっと青春プレイボール〜障害を乗り越えて”」が受賞。
1995(平7)年	1月17日	FM HANAKO、阪神・淡路大震災発生に伴い、守口市内の被災状況を速報。その後も長期にわたり災害情報を放送。		6月5日	ハッピーエフエムいたみ、CViの協力で「BOROLコードデビュー20周年記念ライブ」を市民スタッフとともに開催。
	4月22日	FM HANAKO、放送電力を1Wから10Wへ増力。守口市を100%カバー。		7月24日	エフエム西大和(西大和市/愛称:FM ハイホー、81.4MHz、電力10W)開局。
	8月1日	FM HANAKO、「24時間緊急情報システム」完成。守口市・門真市消防本部司令室と専用回線で結ばれる。	2000(平12)年	3~5月	各局で放送電力の増力が相次ぐ(エフエムみつきい・FM いかる・FM aiai:10W→20W)。
	9月1日	エフエム宇治放送(宇治市/愛称:FMうじ、88.8MHz、電力10W)開局。		4月23日	Be Happy! 789とFM MOVE、「神戸ドリーム・オーディション」を開催。新しいミュージシャンの開拓に着手。
	10月1日	エフエム伏見く現:京都シティエフエム>(京都市/愛称:FM845、84.5MHz、電力10W)開局。		6月1日	奈良シティエフエムコミュニケーションズ(奈良市/愛称:ならどっとFM、78.4MHz、電力20W)開局。
	10月1日	みのおコミュニティ放送(箕面市/愛称:TACKEY816、81.6MHz、電力10W)開局。		6月16日	皇太后逝去を痛み、近畿全局が特別放送。
1996(平8)年	1月17日	エフエムわいわい(神戸市/愛称:FMわいわい、77.8MHz、電力10W)開局。阪神・淡路大震災で被災した外国人に向けてボランティアによる多言語放送を行う姿勢に対し、ローマ法王ヨハネ・パウロⅡ世からお祝いのメッセージが届く。		7月5日	近畿コミュニティ放送協議会主催で「2000年リーディング・セミナー〜21世紀のコミュニティ放送を考える」を開催。報告本「21世紀のコミュニティ放送を考える」は2000部出版される。
	8月23日	FM845、エリア内の聴取環境を整備拡充するために送信所を大岩山に移転。		7月6日	さくらFM、全盲の主婦をパーソナリティに起用。視覚障害者と健常者とのコミュニケーションを図る番組「夢へのとびら」放送開始。
	10月26日	エフエムあまがさき(尼崎市/愛称:FM aiai、82.0MHz、電力10W)開局。		9月25日	エフエム宝塚(宝塚市/愛称:ハミングFM宝塚、83.5MHz、電力20W)開局。
	11月3日	エフエムちゅうおう(大阪市中央区/愛称YES・fm、78.1MHz、電力10W)開局。		10月6日	Be Happy! 789、CATV局2社と共同制作・同時生放送を開始。
	11月29日	JCBA近畿地区連絡会立ち上げ。		12月15日	近畿コミュニティ放送協議会加盟20局「近畿ジョイントセール」開始。
	12月1日	エフエム三木(三木市/愛称:FM みつきい、76.1MHz、電力10W)開局。	2001(平13)年	3月6日	「第3回関西コミュニティ放送賞」を城之崎温泉で開催。
	12月21日	伊丹コミュニティ放送(伊丹市/愛称:ハッピーエフエムいたみ、79.4MHz、電力10W)開局。		8月1日	姫路シティエフエム21(姫路市/愛称:FM GENKI、79.3MHz、電力20W)開局。
1997(平9)年	1月15日	エフエムひらかた(枚方市/愛称:きくFM、77.9MHz、電力10W)開局。		12月7日	エフエムマザーシップ(和歌山県有田郡/愛称:マザーシップ、88.9MHz、電力10W)開局。
	3月3日	エフエム・キタ(大阪市北区/愛称:Be Happy! 789、78.9MHz、電力10W)開局。	2002(平14)年	1月21日	エフエム・キタ、10Wから20Wへ増力。
	6月17日	コミュニティ放送におけるFM文字多重放送試験研究会(主幹:FM HANAKO)が、研究の中間報告とシンポジウムを開催。		2月	さくらFM、心臓病の萌ちゃんを救おうとチャリティイベントを実施、放送に乗せる。
	6~7月	この年は近畿地方への台風上陸が多く、「ハッピーエフエムいたみ」をはじめとして管内各地のコミュニティ放送で台風・大雨洪水に関する緊急情報提供放送が頻発。		3月15日	「第4回関西コミュニティ放送賞」を大阪市内で開催。
1998(平10)年	3月26日	西宮コミュニティ放送(西宮市/愛称:さくらFM、78.7MHz、電力10W)開局。		4月2日	FM845、10Wから20Wへ増力。
	4月17日	エフエムあやべ(綾部市/愛称:FM いかる、76.3MHz、電力10W)開局。		7月	FMちゃお、大阪府警本部より感謝状を授与。
	4月29日	やおコミュニティ放送(八尾市/愛称:FMちゃお、79.2MHz、電力10W)開局。		9月29日	FMひこねコミュニティ放送(彦根市/愛称:FMひこね、78.2MHz、10W)開局。
	5月8日	FM HANAKO、守口市に加え門真市をエリアとする。また、超短波文字多重放送開始。	2003(平15)年	10月20日	ならどっとFM、「ならまちわらべうたフェスタ」を中継放送。
	5月15日	南紀白浜コミュニティ放送(和歌山県白浜町/愛称:FMビーチステーション、79.2MHz、電力10W)開局。		1月19日	エフエムさんだ(三田市/愛称:ハニーFM、82.2MHz、電力20W)開局。
	6月1日	エフエムたじま(豊岡市/愛称:FM JUNGLE、76.4MHz、電力10W)開局。		3月14日	「第5回関西コミュニティ放送賞」を西宮市内で開催。22社参加。
	7月28日	FM aiai、文字多重放送開始。		3月	マザーシップ、「ラジオ・文化仕掛け人スクール」を開校。地域の文化の担い手育成に着手。
	8月	FMちゃお、「八尾河内音頭祭り」のパレードを実況生中継。以降、定番となる。		4月1日	FMひこね、市と緊急放送実施協定に基づき、防災関連情報伝達事業を本格稼働。
	8月24日	きくFM、夏休み特別企画「デビューdeDJ・ひらかたキッズ」を放送。その後、定番なる。		4月7日	鉄腕アトムの誕生日に合わせ、手塚治虫記念館のある宝塚市のハミングFM宝塚が、市民からアトムへの誕生祝メッセージを放送。
	11月17日	FMビーチステーション、白浜温泉でのホテル火災に対応して中継放送を行う。		5月	マザーシップ、第1回「インディーズの祭典」を和歌山市内で開催。地元ミュージシャンを支援。
				7月19・20日	FM HANAKO、開局10周年記念特別番組を24時間生放送。市内のe-cafeからは、姉妹局「エフエム太郎(群馬県太田市)」とインターネットで結び、相互生放送を行なう。
			2004(平16)年	3月17日	「第6回関西コミュニティ放送賞」を伊丹市内で開催。

関西コミュニティ放送賞 受賞局一覧

JCBA近畿地区協議会が、よりよい番組づくりを目的に、そのノウハウを交換する場として創設した賞

年/回	部門	最優秀	2位	3位	年/回	部門	最優秀	2位	3位
平成11年 第1回	娯楽番組部門	FM HANAKO	FM aiai	FMうじ	平成14年 第4回	娯楽番組部門	FMみつきい	FM HANAKO	FM845/さくらFM
	生ワイド部門	FM845	YES・fm	FM JUNGLE		生ワイド部門	FMみつきい	FM aiai	FM いかる
	地域交流部門	きくFM	FMみつきい	FM HANAKO		地域交流部門	FM HANAKO	さくらFM	YES・fm/FMビーチステーション
	C M 部門	FM845	TACKEY816	FM いかる		C M 部門 個人賞	FMビーチステーション 笛吹恭子(FM HANAKO)	FM いかる	BeHappy! 789
平成12年 第2回	娯楽番組部門	BeHappy! 789	YES・fm	FM JUNGLE	平成15年 第5回	娯楽番組部門	FM いかる	FM JUNGLE	FMうじ
	生ワイド部門	FM JUNGLE	さくらFM	FMビーチステーション		生ワイド部門	FMみつきい	FM JUNGLE	FM845
	地域交流部門	きくFM	FM JUNGLE	FMうじ		地域交流部門	FMみつきい	ハミングFM宝塚	きくFM
	C M 部門	FMうじ	FMビーチステーション	FMちゃお		C M 部門 個人賞	FM JUNGLE 北山裕史(BeHappy! 789 前局長)	FMビーチステーション	マザーシップ/FMうじ
平成13年 第3回	娯楽番組部門	FM845	FMビーチステーション	FM JUNGLE/きくFM	平成16年 第6回	情報番組部門	FMみつきい	ハミングFM宝塚	FM845
	生ワイド部門	FM HANAKO	FM JUNGLE	FMビーチステーション		娯楽番組部門	FM HANAKO	FM JUNGLE	きくFM
	地域交流部門	さくらFM	FM845	FM JUNGLE		C M 部門	FMうじ	さくらFM	FM JUNGLE
	C M 部門	FMわいわい	BeHappy! 789	FMビーチステーション/FMみつきい		放送活動部門	FMみつきい	FMビーチステーション	FMわいわい/さくらFM

■瀬戸内海沿岸は電波過密地帯

中国地方は東西に中国山地が貫通しているため、生活圏は工業地帯が広がる山陽側と漁業の街が多い山陰側とに分けられています。コミュニティ放送局も今のところ、日本海および瀬戸内海沿岸の平坦な地域の都市に集中して開設されています。

中でも瀬戸内海沿岸地域は関西、四国、北九州の電波の入り乱れる電波過密地帯と言われています。東瀬戸内圏、特に岡山県南部では関西圏の放送及び香川県の県域FM・AM放送の聴取が可能であり、西瀬戸内圏の山口県西部は北九州の県域FM・AM放送が聴取可能となっています。

中国地区のコミュニティ放送は、1996（平8）年8月8日に福山市（広島県）と萩市（山口県）で2局が同日開局して以来、2004（平16）年4月までに11局が開局しています。現在は、中国5県で鳥取県だけがコミュニティ放送未開局局となっており、開局が待ち望まれているところではあります。

開局までの経緯は各局さまざまですが、県庁所在地に開設されたコミュニティ放送局は、運営や番組構成が都市型に特化する傾向があり、他の地方都市のコミュニティ放送局は、住民への幅広い地域情報提供を指向している点に特徴があります。

■コミュニティ放送開設までの経緯

中国地区でのコミュニティ放送局開設の準備は、1994（平6）年7月に開催された第1回コミュニティ放送サミットへ有志が参加することから始まりました。そして、1995（平7）年1月17日の阪神・淡路大震災と、同年3月の放送電力の規制緩和（上限1Wから10W以下に）を機に、開局の気運は一気に高まりました。

震災後は、安否情報や被害状況だけでなく被災住民の受け入れ情報など、防災に関するさまざまな情報の

迅速な伝達の必要性があること、コミュニティ放送はその手段として有効であることを住民も行政も痛感するところとなったのです。さらに、放送電力の増力による放送エリアの拡大は、コミュニティ放送の経営に有利な好材料となりました。加えて、この年の全国的な開局ラッシュも中国地区でのコミュニティ放送開設の動きを加速させました。

そして1996（平8）年8月8日、記念すべき中国地区初のコミュニティ放送局として、「レディオBINGO（福山市）」と「FM NANAKO（萩市）」の2局が開局しました。その年の12月24日には「FMくらしき（倉敷市）」、1997（平9）年1月1日には「レディオモモ（岡山市）」と、ほぼ半年の間に相次いで4局が開局しています。この4局はいずれも阪神・淡路大震災の教訓を得て、身近な防災情報の必要性と地域の活性化を主な目的としての開局となりました。

■各局の活動状況

「レディオBINGO」は、独自の商圈を形成している瀬戸内の中核都市・福山市の商工会議所が中心となって設立されました。「真に価値ある情報を発信し、備後地域の生活文化の発展に寄与する」ことを経営理念としています。また、制作スタッフが「地域ジャーナリスト」として地域のさまざまな問題取材し、ゲストを招いて討論番組を放送するなど、番組が地域の問題を考える契機となるよう努めています。

「FM NANAKO」は地元のケーブルテレビ局である萩ケーブルネットワークに併設されて開局。ケーブルテレビ局が番組の制作も委託されています。地域に密着した番組を提供することにより、豊かな街づくりに貢献、「小さな町の、小さいけれど大きな使命を持った放送局作り」がコンセプトです。議会生放送やイベント中継など、市民に関心のある内容を、地元ケーブルテレビ局と力を合わせて放送しています。



「レディオBINGO」
アウトドア情報番組のキャンプ大会



「FM NANAKO」
イベント会場からの中継風景



「FMくらしき」局舎外観



「レディオモモ」
岡山城から開局記念特別番組をライブ放送



「ひろしまPステーション」
JR広島駅構内のサテライトスタジオから



「レディオBINGO」
福山市宮蔵馬美況バラエティ番組のオンエア風景

岡山県初のコミュニティ放送局である「FMくらしき」は、地元商工業者、音楽関係者、市民が中心となって設立されました。「THINK GLOBALLY ACT LOCALLY」と「INTER VOICE（声をかけ合う）」がモットーです。市民参加を積極的に進め、市民の出演番組がすでに複数の出版物にもなっています。また、番組『拝、ポーズ!!』は2002（平14）年に第40回ギャラクシー賞優秀賞を受賞しました。

「レディオモモ」は、FMラジオ好きの市民と岡山市、地元経済界が中心となり、電波銀座といわれている県庁所在地に、旬の音楽とタイムリーな地域情報を提供するFMステーションとして誕生。同時に、国土交通省と岡山市による防災放送の協定を結び“災害時に対応できる放送局”を目標にしての開局でした。1997（平9）年1月の元旦、深夜0時から、岡山城築城400年を記念したイベント会場より、初ライブ、初放送を行っています。

1998（平10）年7月6日には「COME ON! FM（下関市）」が誕生。全市民参加、地域色の濃いオリジナリティあふれる番組作り、「オールリスナー・オールパーソナリティ」をキーワードに、地域密着型の市民ラジオ局を目指し開局しました。関門地域の情報発信ステーションとして、「COME ON! FM」の名の通り、番組作りにはいろいろな人たちが参加しています。



「COME ON! FM」
チビっ子たちに突撃インタビュー



「エフエムおのみち79.4」局舎外観

「エフエムおのみち79.4」は、尾道市で発生した土砂災害が契機となり1999（平11）年6月1日に開局しました。「人と人との交流広場、防災情報の提供」がコンセプトです。このコンセプト通り、開局してまもなく「エフエムおのみち79.4友の会」を発足させ、ラジオを通じて人と人との交流を進めています。

中国新聞社グループを中核とした「ひろしまPステーション（広島市）」は2000（平12）年5月1日の開局。市民の目線に立ち、広島都市圏での暮らしに主眼をおいたコミュニティ放送を目指しています。2003（平15）年4月には、JR広島駅南口構内に専用サテライトスタジオを設置。月曜から金曜まで、毎朝8時から1時間番組を放送しています。また、同年5月からは、このスタジオの窓を利用した文字情報によるニュースの提供も行っています。

2002（平14）年8月4日に開局した「FMきらら（宇部市）」の前身は、前年に山口県で開催された「JAPAN EXPO2001・未来博覧会（山口きらら博）」でのイベントFM放送局。博覧会終了後、200名を超える市民株主を集め、宇部市に装いも新たに、まさに市民のコミュニティFM放送局として誕生しました。

島根日日新聞社と地元企業によって設立された「愛ステーション（出雲市）」は、2003（平15）年4月16日に島根県内初のコミュニティ放送として開局しました。20名を超える市民スタッフとともに、地域住民参加型の放送局を目指しています。

同年10月7日には「しゅうなんFM（周南市）」が開局。地元タウン誌を出版している印刷会社が設立の中心です。「あなたがつくる超ローカル・ご近所ラジオ」をコンセプトに、地元住民の方々の“全員出演”を目指して、周南地区から元気に放送を続けています。

また、2004（平16）年4月18日には、広島市佐伯区に広島県内4局目となる「いつかいちエフエム」が開局しました。



「ひろしまPステーション」
世界遺産の島・宮島の魅力を探る「宮島ウォーク&クルーズ」を企画・放送

■中国地区の特色ある活動

□番組共同制作の動き

1999(平11)年11月に東瀬戸内圏のコミュニティ放送局7局(レディオBINGO・FMくらしき・レディオモモ・MAN de GAN815<高松市>・FMマリノ78.0<高松市>・FMサン<坂出市/宇多津町>・FMセト<丸亀市>)が、中・四国のブロックを越えた「瀬戸内コミュニティFMネットワーク」を立ち上げました。地域密着の「生活圏メディア」であるコミュニティ放送局の独自性を保持しながら、ゆるやかなネットワークを構築し、互いの情報を受・発信するとともに、各局単独で解決できない諸課題にネットワーク内の各局が協力して取り組むことを目的としています。

この年の12月24日には、7局ネット番組『瀬戸大橋サウンドクルージン in 与島』を、瀬戸内海の架橋の島である香川県与島の特設サテライトから公開生放送しました。

広島県では、「ひろしまPステーション」が2000(平12)年5月の開局と同時に「レディオBINGO」と番組の相互乗り入れを実施。県内複数局間の番組中継など活発な交流が続けられています。

岡山県の2局はエリアが隣接しているため、公開生放送の共同制作を開局3年目から継続的に行い、2000(平12)年7月編成から平日夕方の2時間生番組を共同制作しています。



「FMきらら」新年初中継中!



「愛ステーション」
『ばんじままで情報局』オンエア中



「しゅうなんFM」スタジオ放送風景

また山口県では2001(平13)年から「COME ON! FM」が高校入試の解答速報を「FM NANAKO」へも配信しています。

□東アジアとの交流

本州で朝鮮半島に一番近い地域である中国地区では、「ひろしまPステーション」や「COME ON! FM」が韓国との交流も含めた番組を制作したり、「FM NANAKO」が中国語講座を放送するなど、コミュニティ放送を通じて地元の人々に東アジアの一員としての意識が根つき始めています。

□身近におきた2つの地震とその対応

2000(平12)年10月の鳥取西部地震、2001(平13)年3月の芸予地震の際には、中国地区の各コミュニティ放送が緊急放送を実施。日頃の防災放送への取り組みが改めて見直されました。

□局制作番組を単行本化

「FMくらしき」では、制作した番組をもとにした本を誕生させました。「赤井克己のラジオトーク『聞いてちょっとためになる話』と、金光章『民藝とくらしき』の2冊です。ラジオは「音」を発信する一過性のメディア。それが、このように形として残ることは、リスナーにとっても番組制作者にとっても悦ばしい事実であると共に、コミュニティ放送の新しい可能性を感じさせるエピソードといえるでしょう。



「FMくらしき」青年僧による法話番組『拝、ポーズ!!』がギャラクシー賞を受賞
2003(平15)年6月14日 朝日新聞



「FMくらしき」
番組から生まれた単行本

□地区連絡会と研修

中国地区の第1回連絡会は、1997(平9)年6月にすでに開局していた4局が集まって開催されました。その後も年に3~4回のペースで開催、総務省中国総合通信局との情報交換、各局の近況報告、情報交換などを継続して行っています。

2000(平12)年3月、下関での連絡会では、RKB毎日ラジオ(福岡)の永瀬秀昭氏を招いて、ラジオ番組制作の現状についての講演研修会を開きました。また同年9月、広島、岡山で放送作家の石井彰氏を招いて「コミュニティ放送の可能性」と題した講演を行っています。

■これからの中国地区のコミュニティ放送

コミュニティ放送は、従来の県域を放送区域としたテレビ・ラジオとは異なり、一つの生活圏内の情報をきめ細かく伝えることができるメディアです。この特性を生かし、きめ細かな情報の発信を通じて従来の県域放送を補完し、地域情報の偏りを是正するなど、放送エリアが小さいことを逆に長所とする放送を目指すことが肝要です。

また、これから本格的なデジタル時代を迎え、放送と通信の融合が進むなか、コミュニティ放送をめぐる経営環境は非常に厳しいものがあります。生き残るためには「ラジオ局」から「ローカルコンテンツプロバイダー(地域情報供給会社)」への転換が急務と言えるでしょう。

JCBA中国地区協議会の10年、及び加盟各局の歩み

1996(平8)年	8月8日	エフエムふくやま(福山市/局名:レディオBINGO、77.7MHz、電力10W)、エフエム萩(萩市/局名:FM NANAKO、77.5MHz、電力10W)が中国地区初のコミュニティFMとして同日開局。	2001(平13)年	3月3日	レディオBINGO、教育討論番組シリーズ放送開始(1回目のテーマ:「不登校」)。
	10月12日	レディオBINGO、福山市営競馬実況バラエティ番組放送開始。		3月8日	COME ON! FM、高校入試解答速報を放送。FM NANAKOへも配信。
	12月9日	レディオBINGO、第1回映画試写会開催(『ファイナルプロジェクト』)。		3月24日	芸予地震発生に伴い中国地区の各局が緊急放送実施。
	12月24日	エフエムくらしき(倉敷市/局名:FMくらしき、82.8MHz、電力10W)開局。		4月	COME ON! FM、NHK山口放送局と業務提携。TVの地域番組にパーソナリティ4人をレポーターとして派遣。
	12月27日	岡山シティエフエム、開局を前に岡山市と災害情報放送に関する協定を締結。		4月1日	FM NANAKO、ファンカード事業開始。
1997(平9)年	1月1日	岡山シティエフエム(岡山市/局名:レディオ モモ、79.0MHz、電力10W)開局。		4月8日	COME ON! FM、西日本最大級のウォークイベント「維新海峡ウォーク」を9時間生放送。参加者に携帯ラジオ配布。
	2月14日	レディオBINGO、福山市と災害情報放送に関する協定を締結。		4月14日	ひろしまPステーション、在日コリアンの人々が出演する「ウリンアリラン」スタート。
	6月11日	第1回中国地区連絡協議会開催。		4月19日	FM NANAKO、緊急電話放送システム開始。
	10月20日	FMくらしき、倉敷市と災害緊急放送に関する協定書を締結。		6月	COME ON! FM、韓国語講座放送開始。
1998(平10)年	6月	コミュニティエフエム下関、開局を前に下関市と災害時における防災放送協定を締結。		6月14日	レディオ モモ・FMくらしき、国土交通省岡山河川工事事務所と緊急放送設備使用に関する協定を締結。
	7月2日	コミュニティエフエム下関(下関市/局名:COME ON! FM、76.4MHz、電力10W)開局。		7月5日	FMくらしき、市議会議員出演のコーナーをスタートさせる。
1999(平11)年	6月1日	尾道エフエム放送(尾道市/局名:エフエムおのみち79.4、79.4MHz、電力10W)開局。		7月7日	山口きらら博覧会会場内にイベントFM開設。後に宇部市に開局する「FMきらら」の母体となる。
	6月2日	(株)エフエム萩(FM NANAKO)代表取締役役に刀柄勇就任。		12月5日	FMくらしき、地元ケーブルテレビ2社と「くらしきコミュニティメディア」を締結。
	7月1日	エフエムおのみち79.4、尾道市と災害情報放送委託契約を締結。		12月13日	レディオ モモ、社屋を移転。
	7月31日、8月1日	レディオ モモ・FMくらしき共同制作番組「渋川サイドFM」を公開生放送。	2002(平14)年	1月21日	ひろしまPステーション、広島市で開催された全国都道府県対抗男子駅伝で47都道府県の県人会の応援メッセージ番組を放送。
	10~12月	各局で放送電力の増力が相次ぐ。(レディオモモ・FM NANAKO・レディオBINGO・FMくらしき:10W→20W)		4月	ひろしまPステーション、国土交通省太田川河川事務所と緊急放流情報の割り込み放送協定締結、放送開始。
	11月12日	第1回SCN(瀬戸内コミュニティFMネットワーク)会議開催。		6月1日	エフエムおのみち79.4、送信所を高見山に移転。放送電力を10Wから20Wに増力。
	12月1日	FM NANAKO、萩市議会(一般質問)生中継放送開始。		8月2日	FM NANAKO、中国語番組『留学歳月』放送開始。
	12月24日	瀬戸内コミュニティFMネットワーク7局ネット番組「瀬戸大橋サウンドクルージン」を香川県と島の特設サテライト・スタジオから公開生放送。		8月4日	エフエムきらら(宇部市/局名:FMきらら、80.4MHz、電力20W)開局。レディオモモ、夏祭りおやかまのイベントをNHKの協力で放送。
2000(平12)年	4月1日	エフエムおのみち79.4、24時間放送開始。FMくらしき、ファンカード事業開始。		9月	レディオBINGO、福山市議会ダイジェスト放送開始。
	5月1日	中国コミュニケーションネットワーク(広島市/局名:ひろしまPステーション、76.6MHz、電力20W)開局。レディオBINGO・ひろしまPステーション、番組の相互乗り入れ開始。		12月3日	エフエムおのみち79.4、市内鳴滝山火災による防災放送を深夜まで実施。
	5月15日	レディオBINGO、ラジオカー(中継車)導入。	2003(平15)年	1月1日	レディオBINGO、ファンカード事業開始。
	5月27日	ひろしまPステーション、反公害キャンペーン「よみがえれ瀬戸内海」で小学生記者に同行し6回放送。		2月2日	ひろしまPステーション、広島市長選挙開票速報を市内5局のCATVと共同制作・放送。
	7月3日	レディオ モモ・FMくらしき、2局共同制作番組『オールヒットレディオ』を夕方の帯番組として放送開始。		3月	COME ON! FM、制作協力した北九州のCATVの討論番組『シリーズ北九州の学校が変わる』が2002年CATV自主制作コンテストで最優秀賞受賞。
	8月1日	レディオBINGO、国土交通省福山河川国道事務所と緊急放送設備の使用に関する協定を締結。		4月16日	エフエムいずも(出雲市/局名:愛ステーション、80.1MHz、電力20W)開局。
	8月6日	ひろしまPステーション、8.6平和記念式典の中継開始。		5月30日	FMくらしき、「拝、ポーズ!!」で2002年ギャラクシー賞ラジオ部門優秀賞受賞。
	8月19・20日	COME ON! FM、「馬関まつり」でメインステージ企画担当、音をテーマにステージを構成。		6月4日	FMくらしき、JCBA2002ベストステーション賞受賞。
	9月12日	第12回中国地区連絡協議会にて、「コミュニティ放送の可能性」と題して放送作家・石井彰氏が講演。		6月21日	エフエムおのみち79.4、世界同時開催イベント「音楽の祭日」に参加。
	10月6日	鳥取西部地震発生に伴い岡山・広島各局が緊急放送実施。		8月1日	FM NANAKO、日本海秋夏祭り大花火大会実況生放送。
	11月30日	レディオBINGO、介護保険情報ガイド「びんごシルバページ」発行。		8月13日	愛ステーション、「オロチまつり」を8時間生放送。
				8月23・24日	ひろしまPステーション、世界遺産・宮島の秘密に迫る大型イベント、ラジオ&クルーズ実施。
				10月7日	エフエム周南(周南市/局名:しゅうなんFM、78.4MHz、電力20W)開局。
2004(平16)年	4月18日	いつかいちエフエム(広島市佐伯区/局名:いつかいちコミュニティ773、77.3MHz、電力20W)開局。			

■瀬戸内3架橋の完成で 新時代を迎えた四国地区

四国を構成する四つの県はいずれも古い歴史を持ち、それぞれが独特の文化や風土を築いてきました。本州との表玄関であり、屋島の古戦場やこんびら参りで名高い香川県、阿波踊り・鳴門秘帳で知られる徳島県、坂本竜馬・よさこい祭りでおなじみの高知県、四国一の人口を誇る松山市を擁し、道後温泉や「坊ちゃん」で有名な愛媛県。各県の名所・名物だけを見ても、その特色は実に多彩です。こうした文化や風土を基盤として、それぞれの県民性も培われてきました。

瀬戸内3架橋も完成し、四国全体が歩調を合わせて発展することが期待されていますが、なかなか一つにまとまりきれないと言われるのも、こうしたことが要因と思われま

す。現在の四国地区7局のあり様もそれぞれです。ボランティアスタッフを中心に市民放送局を目指す局、専門スタッフをそろえて地域局に並んでいこうとする局、地域密着はもちろんのこと、中央の情報を地方に伝えることも使命と考える局、ラジオ広告収入の他にも周辺事業の拡大でバランスを取る局、ケーブルテレビとの連動で活動する局など、各局が独自の運営スタイルで地域に密着したコミュニティ放送づくりに取り組んでいます。

また一方では、互いの違いを認め合いながら、緩やかな連携を結ぶことで活路を見い出そうという動きも目立ってきました。

3架橋で本州と陸続きとなった今、四国は経済、産業、文化をはじめとして、さまざまな分野で新しい時代を迎えたとと言えます。四国各局もそんな時代の流れに対応しながら、より良いコミュニティ放送のあり方を模索し続けています。

■第1号開局 合理化で苦難を乗り越える

コミュニティ放送制度の誕生以前、瀬戸大橋の開通にわく香川県では、四国電気通信監理局とのタイアップによる実験放送局が開設されました。これは、1990(平2)年2月から2年間、橋の中央に位置する与島より瀬戸大橋を訪れる観光客に対し四国の観光案内を放送したもので、地域の新しい試みとして注目を集めました。

1992(平4)年12月の放送終了後には、橋のふもとに位置する坂出市・宇多津町から「何とか継続してほしい」



「FMサン」
「さかいで塩まつり」イベント会場にて中継
2002(平14)年5月

との強い要望がありました。この年の1月に「コミュニティ放送制度」が施行されていたこともあり、地元の要請に応え、実験放送時のスタッフが中心となり開局準備に着手。この間にも、第28回東四国国体の案内等を行う「イベント放送局」を坂出市に開局し、1993(平5)年10月6日から23日間、坂出サティ屋上(坂出駅前)より出力30Wで放送するなど、活動を続けました。そして1994(平6)年3月30日、四国の第1号局として「エフエム・サン(愛称:FMサン)」が誕生しました。

気候が温暖で全国有数の日照時間を誇る香川県の諸施設には、太陽をイメージする「サン」を冠した名称が少なくありません。国の太陽光発電の実験場であった「サンシャインランド」、県のイベント施設「サンメッセ」、四国の表玄関として整備されつつある高松のウォーターフロント「サンポート」。「FMサン」にもこれらと同様に、光あふれる香川県のイメージが託されています。

明るさを感じさせる名称とは裏腹に、運営面においては前途多難なスタートでした。というのも、開局当初の放送電力は0.7W。坂出市に開局したイベント局(出力30W)が良好な受信状況だったことから、コミュニティ放送開局には大きな期待が寄せられていたのです。しかし、イベント局に比べ出力があまりに弱かった。そのため、「聞こえない」という苦情やスポンサー確保の難しさに直面せざるを得なかったのです。

しかし、経営難を局員3名体制という徹底した合理化でしのぎ、規制緩和に伴い放送電力が10W、そして20Wへと増力されるにつれ、エリア拡大を図りながら徐々に経営を好転させ今日に至っています。



「MAN de GAN 815」
2002年冬の祭りイベントを中継

■民間主体に相次ぐ開局

「FMサン」の誕生から2年後の1996（平8）年から翌年にかけては、香川県を中心とする開局ラッシュの年となりました。その背景には、それまで3Wだった放送電力の上限が10Wに増力されたことに伴う可聴エリアの拡大、阪神・淡路大震災を契機に災害時に役立つ“地域のラジオ局”が四国でも求められ始めたということがあります。

1996（平8）年4月、四国で2番目となる「まんてがんFM（MAN de GAN 815・高松市）」が開局。7月には「B-FM791（徳島市）」、さらに12月には「FMセト（丸亀市）」が開局。翌1997（平9）年1月には高松市で2局目となる「FMマリノ78.0」が、2月には「FMこんぴら（香川県琴平町）」が開局することとなりました。

四国のコミュニティ放送局の特徴の一つに、行政が関与しない民間主導型の運営という点が挙げられます。この運営スタイルは放送の自由度が高い反面、営業基盤のもろさも有しています。その象徴的な出来事が、1998（平10）年11月30日の「FMこんぴら」の閉局でした。同社社長の健康上の理由から「きれいに清算できるうちに」という決断ではありましたが、市場環境の厳しさの中での後継者育成の難しさを示した形となり、全国のコミュニティ放送局に大きな衝撃を与



「B-FM 791」
徳島市内中心部にある商店街での夏祭りイベントを生中継

える結果となりました。

その後しばらく、四国ではコミュニティ放送の開局が途切れていました。しかし、それでも高知県で2000（平12）年4月に「ホエールステーション762（高知市）」が開局。コミュニティ放送局の空白県として残っていた愛媛県でも「FMラヂオバリバリ（今治市）」が2002（平14）年2月に開局し、現在では四国全県でコミュニティFM局が7局存在するまでになりました。

■災害時の取り組み

気候が温暖で災害の少ない瀬戸内と、台風・豪雨に見まわれる高知県とは大きな違いがあります。災害時に役立つ放送局として注目されるコミュニティ局ですが、四国の各局のスタンスは、あくまで災害発生後からの市民生活に役立つ情報の提供に置かれています。というのも、NHKをはじめとする大放送局に災害発生時のニュースを譲る代わりに、大局では徹しきれない小さなエリア内での安否、ライフライン情報に特化しようという意図があるからです。

いざという時に頼りにしてもらうためには、日頃から聴取率を高めることが重要と考え、番組構成は娯楽・エンターテインメント性を重視しているといえます。

とはいえ、決して災害放送をないがしろにしているわけではなく、行政との防災協定に基づく緊急放送や日ごろの啓蒙放送は各局力を入れるところです。

2001（平13）年3月24日に今治市では「芸予地震」に見舞われ、大きな被害を出しました。「FMラヂオバリバリ」は誕生したばかりでしたが、以後この日を「今治防災の日」と命名し、毎年、長時間の特別番組を編成。市や電気・ガス・水道等のライフラインとの連携、地震時に活動した市民ボランティアとの連携、6カ国語からなる緊急呼びかけを実施しています。

また、毎年のように台風や洪水に見舞われる高知市の「ホエールステーション762」は、特に風水害の情報に主眼を置いた放送を行っています。



「FMセト」
「丸亀お城まつり」中継スタッフ 2002（平14）年5月

■地域独自の取り組み

イベント型の放送が多いのも四国地区の特徴の一つです。たとえば、大阪・兵庫・岡山のすべてのAM・FM局を受信できる香川県の場合、14～15局の聴取が可能な環境下において、コミュニティ放送局の認知度の向上や地域との密着を図るためには、おのずと「見える放送」が重視されることとなりました。

「まんでがんFM」では、開局以来毎年、夏・秋・冬に市が主催する祭りにサテライトスタジオを設けています。さらに、月2回のペースで商店街やショッピングセンターでのイベント放送を続けています。

また、「FMマリノ78.0」も冬の祭りに出展するとともに、商店街での活動に力を注ぎ、サテスタ放送が年間250日に及ぶ年もありました。

そして、「FMサン」と「FMセト」は地域が隣接していることから、合同で丸亀・坂出両市のイベント中継、サテスタ放送を行っており、ケーブルテレビ局との合同中継を加えると、その日数は年間40～50日に達しています。

また、このほか香川県の4局は、高松のウォーターフロント「サンポート」や展示会場「サンメッセ」などでも4局合同のイベント放送を実施してきました。

「B-FM791」は四国最大のイベント施設「アスティ徳島」内の工芸村に開設されていることから、大型イベントの中継放送や工芸村と合同の地域おこしイベントへの参加に積極的です。また、阿波踊りが行われる4日間は特番編成を組み、情報を流し続けています。

「ホエールステーション762」も全国ブランドとなった「よさこい祭り」を2日間16時間にわたって特集し、「競演場」で踊るチーム情報を20分おきに放送したり、人気チームを詳細に紹介したりしています。



「FMマリノ78.0」
「桃太郎電鉄」の作者を招いて高松冬のまつり中継



「FMラヂオバリバリ」
地元のチビっ子が
DJに挑戦!

商店街に開設された「FMラヂオバリバリ」は、その立地条件を活かし、商店街イベント時にはサテスタを局外に置き街の振興に貢献。また、毎月特番編成で、「救急医療を考える」「男女参画社会」「NPOって?」「合併について」などなど、身近な社会問題をテーマに据え、月2回の放送を行っています。

「まんでがんFM」「FMサン」「FMセト」の3局は、平日朝・夕の生ワイド番組を共同制作し、広域エリアの放送とすることで県域局に対抗しています。

加えて、不定期ではありますが、対岸の岡山・広島のコミュニティ局との連携も図り、香川県4局と岡山県2局、広島県1局からなる“瀬戸内7局ネット”の放送も3回の実績を重ねています。

■今後の展望

四国のコミュニティ放送の特徴が民間主導の運営スタイルにあり、そこに経営の脆弱性が内在することは既に述べたとおりです。ここには、行政による経営支援のみならず、行政機関を通じての局PR（広報誌への掲載、行政諸施設にPR物を設置するなど）、電気・ガス・情報インフラ企業などとの連携の難しさがあります。

各局の個別努力により、開局年数の長い局ほど地域密着のラジオ局としての存在価値を認められ、活動しやすくなってきてはいますが、まだまだ充分とは言えません。JCBAの力を借りながら、7局が連携し相互に情報交換を図り、番組制作だけでなくコミュニティ局のPR活動も進めていくことが重要です。

また、四国のコミュニティ放送局は香川県に偏っていることもあり、各県にバランスよく開設することも課題の一つと言えるでしょう。特に、現在今治市の「FMラヂオバリバリ」一局にとどまる愛媛県の場合、四国最大の人口を抱える松山市でのコミュニティ局の誕生が待望されるところです。



「ホエールステーション762」
番組収録風景



「B-FM791」
大塚サッカー部を応援するハーフタイムのメンバーとゲスト

JCBA四国地区協議会の10年、及び加盟各局の歩み

1994(平6)年	3月31日	エフエム・サン(坂出市/愛称:FMサン、76.1MHz、出力0.7W)開局。	2000(平12)年	3月1日	B-FM761、出力10W→20Wに増力。
	5月	FMサン、坂出塩まつり会場にてサテライト放送(以後、恒例行事に)。		3月	FMマリノ78.0、中坊公平氏講演会を収録放送。
1995(平7)年	6月1日	FMサン、電波利用の促進に対し四国電気通信管理局より感謝状を授与される。		3月27日	MAN de GAN 815・FMマリノ78.0、送信所を市内ビル屋上から峰山山頂に移転し、10W→20W増力で送信開始。
	6月29日	FMサン、出力0.7W→10Wに増力。		3月31日	FMサン、出力10W→20Wに増力。
	11月30日	FMサン、坂出商店街活性化の一環で商店街へサテライトスタジオ開設(平成12年3月末まで)。		4月2日	高知シティエフエムラジオ放送(高知市/愛称:ホエールステーション762、76.2MHz、出力20W)開局。ホエールステーション762、高知市との間に防災協定締結。
1996(平8)年	4月1日	エフエム高松コミュニティ放送(高松市/愛称:MAN de GAN 815、81.5MHz、出力10W)開局。		6月	ホエールステーション762、高知市の防災訓練に参加(以後、毎年)。
	7月1日	エフエムびざん(徳島市/愛称:B-FM761、76.1MHz、出力10W)開局。		8月	MAN de GAN 815、フリーマガジン「ポケット81.5」を創刊。
	10月1日	MAN de GAN 815、デザイン事業部を開設。		10月24日	FMセト、商店街にサテスタ設置。丸亀市の中心市街地活性化プログラムの一環として参加。
	12月15~25日	MAN de GAN 815、高松冬のまつりメイン会場にて特設サテスタより生放送(以後、恒例行事に)。		12月	MAN de GAN 815、インターネット歌手ナビ音楽祭に参加(県域6局とネット、以後恒例となる)。
	12月26日	エフエム・セト(丸亀市/愛称:FMセト(FM774)、77.4MHz、出力10W)開局。		12月31日	B-FM761、送信所を移転スタジオを市内中心部から徳島工芸村に移転し「レインボースタジオ」をオープン。世紀が変わると同時に新スタジオから放送。
	12月	FMマリノ78.0、開局前イベントを実施。	2001(平13)年	1月	FMマリノ78.0、桃太郎電鉄ジャパンカップ四国地区ゲーム大会を開催。
1997(平9)年	1月25日	高松シティエフエム(高松市/愛称:FMマリノ、78.0MHz、出力10W)開局。		5月	四国情報通信月間行事として「香川コミュニティ放送4局合同イベント」を実施。(MAN de GAN 815・FMマリノ78.0・FMサン・FMセト)(会場:5/12 サンポート高松、5/26 サンメッセ香川)
	2月3日	FMこんびら(香川県琴平町/愛称:FMこんびら、出力10W)開局。		6月	FMマリノ78.0、高松商店街にサテライトスタジオ開設。
	5月	FMセト、丸亀お城まつりに特設サテスタより生放送(以後、恒例行事に)。		9月1日	B-FM761、Fメディア事業部を設置(テレビ徳島の番組表・広告営業を開始)。
	7月16日	MAN de GAN 815・FMマリノ78.0が高松市との間に「災害時緊急放送の協力に関する協定」締結。	2002(平14)年	2月17日	今治コミュニティ放送(今治市/愛称:FMラヂオバリバリ、78.9MHz、出力3W)開局。
	8月12~14日	MAN de GAN 815、高松夏のまつりメイン会場にて特設サテスタより生放送(以後、恒例行事に)。		3月24日	FMラヂオバリバリ、深夜の地震に即応、新聞各紙等で好評価を得る。
	9月1日	B-FM761、徳島市防災訓練に参加。		3月30日	MAN de GAN 815、天満屋にサテライトスタジオ開設。
	10月	月~金、朝のワイド番組『モーニング ウェーブ』を香川の4局が共同制作4局ネットで放送開始(MAN de GAN 815・FMサン・FMセト・FMこんびら)。		10月1日	B-FM761、周波数を76.1MHz→79.1MHzへ変更。局名を「B-FM791」に変更。24時間特番を実施。
1998(平10)年	4月5日	B-FM761、明石海峡大橋架橋記念特別「とくしま夢発信」[RAN・ラン・run Heart to 翔]を、エフエムみっきい(兵庫県三木市)と共同で放送。	2003(平15)年	7月	B-FM791、阿波踊りのお土産用CDを制作。
	9月	京阪神のコミュニティ放送3局と意見交換会を開始。		9月	B-FM791、徳島市防災訓練防災特別番組を制作。
	11月30日	FMこんびら(香川県琴平町)鹿局。		11月	FMマリノ78.0・FMサン・FMセト、3局合同で世界エイズデーシンポジウムを公開録音。
	12月15~25日	FMマリノ78.0、高松冬のまつりメイン会場にて特設サテスタより生放送(以後恒例行事に)。	2004(平16)年	3月	高松市議会、MAN de GAN 815とFMマリノ78.0に緊急割り込み放送設備設置を決議。
1999(平11)年	11月	FMマリノ78.0、本社・スタジオ移転。			
	11月12日	第1回SCN(瀬戸内コミュニティFMネットワーク)会議開催。			
	12月24日	瀬戸内コミュニティFMネットワーク7局ネット番組(香川の4局参加)「瀬戸大橋サウンドクルージン」を放送。			

■コミュニティFMをより身近な存在に

九州地区には現在13のコミュニティFM局が開設されています。当地区第1号局は1996(平8)年4月開局の「FM791(熊本市)」ですから、九州地区はJCBAの中で比較的“若い”放送局が多い地区と言えるでしょう。

歴史が浅いこともあり、いずれの局も運営にあたっては各地域の事情に合わせて試行錯誤を続けていますが、「地域密着」「地域のための」というコンセプトにおいては共通するものがあります。

コミュニティFMの強みは「リスナーとの距離の近さ」と「ほっとラジオ(玉名市)」が標榜するように、地域との密接な関係をどのように築くか、また、それを番組としていかに具体的に反映させていくかに主眼をおいた取り組みが各局で行われています。

その中で多くの局が力を入れているのが、リスナー(地域住民)参加型の番組や、リスナーがゲスト出演する番組の企画制作です。どれだけ多くの人たちに、楽しく、かつ問題意識を持った発言をしてもらうか、この点を踏まえて各局は番組づくりに工夫を凝らしています。

■リスナーの意見や考えをとことん発信

「ドリームスエフエム(久留米市)」の『があばよかラジオ』(月～金曜日・午後の帯番組)の中の「トークファイル」というトークコーナーは、すでに放送700回を超える長寿番組。毎回、地域で生きがいを持ってはつらつと暮らしている人々を招き、その人の生きがいに関する活動や考え方、生き方について30分間にわたりじっくりと聞いていきます。できるだけ魅力的な話題を引き出そうと、制作スタッフは毎回、資料調査や取材など念入りの準備を欠かさず続けています。こうした細部もおろそかにしない番組づくりの姿勢が番組を長続きさせている秘訣と言えそうです。

また、同じくドリームスエフエムの『土曜の夜やけん…』も注目の番組です。久留米市で市民主体の“草

の根文化”の推進を目的に活動する「カルキヤッチくるめ」プロデュースによるこの番組は、DJが全員、主婦や会社員などの“素人”ばかり。「大人のラ

ジオ番組」をテーマに掲げて、アマチュアならではのざっくばらんなトークで人気を博しています。

「ほっとラジオ」の『談ギルラジオ』(日曜日・10～11時)は、玉名市内にある市民ふれあい館「談議処」にちなんで名づけられた公開討論番組。この番組の目的は、地域住民が自由に意見を交換し、徹底的に討論してもらうことにあり、無理に結論を出さない点に大きな特色があります。むしろ、討論の過程を重視して、さまざまな意見の中で有効と思われるものについては、番組から地域に対して提言するケースもあります。地域の人々の暮らしがより良くなるきっかけとなれば、と制作スタッフは考えます。

■リスナーの登場で楽しく

「City FM 77(宮崎市)」の『お茶の間ラジオ』(月～木曜日・12～14時)、「かっぱFM(八代市)」の『ちょっと早い お酒タイム』(月～金曜日・17～19時)などは、くつろぎタイムの趣向があれこれ盛り込まれたリスナーが楽しく参加できる番組です。

「スターコーンFM(福岡県椎田町)」の『スターコーンランチBox』(月～金曜日・11時30分～14時)では、地域の人気者を登場させてリスナーの関心を集め、『スターコーンイブニングファン』(月～金曜日・17～19時)では、地域のアイドル発掘も手がけてしまおうと意気込んでいます。

「週末の素人DJ」1周年



「ドリームスエフエム」人気番組「土曜の夜やけん…」を紹介する新聞記事
2003(平15)年3月28日 西日本新聞



「ほっとラジオ」局舎は純和風の佇まい



「City FM 77」外国人スタッフも活躍



「かっぱFM」妙見祭の模様を生中継するブース



「スターコーンFM」局舎外観



「FREE WAVE」ロゴマーク



「グリーンポケット」万成小学校「緑の少年団」が行ったぜんまい募金を取材

■地元の魅力を再認識

「レインボーエフエム（諫早市）」の『おはよう771』（月～金曜日・7～9時）は朝の定番情報番組ですが、リスナーに地元の魅力を再発見してもらおうと、地域の歴史を掘り起こすコーナーも設けられています。

「かっぱFM」は、地元のビッグイベントである「やつしる全国花火大会」（10月）や「妙見宮大祭」（11月）の中継生放送で、郷土史家や花火師などイベント関係者をゲストに招き、その歴史的な背景や専門的な技（わざ）について語ってもらうなどして、多彩な角度からイベントを盛り上げています。

■きめ細かい情報提供

「グリーンポケット（熊本県小国町）」は、小国町によって立ち上げられ、エフエム小国に運営が委託されている放送局です。町にとってコミュニティFMの最大の役割は防災情報の伝達ですが、同時に、町の基幹産業の一つである観光の振興に貢献することも期待さ

れています。『サンデーゆうステーション』（日曜日・10～14時）では、町内の道の駅「おぐに ゆうステーション」内のサテライトスタジオから、観光客ら来館者に町の魅力を語ってもらったり、リポーターが町内のお勧めスポットを紹介するなど、日曜日の小国町のナビゲーターとしての役割も果たしています。

「FM MiMi（福岡市）」の『ミミコミ』（月～木曜日・12～16時）は、お昼のリスナー参加型情報番組。4人のパーソナリティが市内7つの区を分担して受け持ち、曜日ごとにそれぞれが担当区の情報をきめ細かく伝えています。リスナーからの情報提供も積極的に行われており、「特ダネ満載」とスタッフは自負しています。

「フレンズFM762（鹿児島市）」の『発掘！ いいよね本舗』（月～木曜日・17～18時45分）では、番組中に県内96の市町村役場に電話を入れて、担当職員から詳細な情報をじかに提供してもらっています。また、地域内の小・中学校の校歌を紹介する「いいよね！学園だより」というコーナーでは、「懐かしい」と感慨に浸るリスナーも多いようです。

■地域振興の役割

コミュニティFM局が地域とイベントを共催したり、従来の地域のイベントを生中継したりと、放送を通じて地域振興に取り組む例も少なくありません。

申請中 八代・玉名 準備中 小国入吉

災害連絡用に期待

「FM791（熊本シティエフエム）」開局を伝える新聞記事 1997（平9）年7月10日 熊本日日新聞



「FM791」公開生放送に地元の子どもたちが参加



「ほっとラジオ (FMたまな)」
あらおシティモールから公開放送を実施

「ほっとラジオ」は、1月と8月に『エフエムたまな杯 夏(冬)の歌王グランプリ』、12月には『ほっとツリーコンテスト』を、地元の2つの商店街で実施。イベントを盛り上げるのはもちろんのこと、商店街への集客にも一役買っています。

「フレンズFM762」の『High School カラオケチャンピオンシップ』(12月)や『かごしまウォーターフロント フェスティバル』(7月)も、地域のイベントにコミュニティFMが放送で参加して成功した例と言えるでしょう。特に後者は、20万人もの参加者を集め、鹿児島を代表するビッグイベントの一つとなりました。

■学校教育への協力

九州地区では、ほとんどの局が地元教育委員会の取り組みに協力して、子どもたちを放送の現場で積極的に受け入れています。体験型の学習や活動を目的とする「総合的な学習の時間」が導入された2002(平14)年度以降、児童・生徒の企業研修や見学が促進されていますが、各地でコミュニティFM局に白羽の矢が立てられたのも、日頃の地域との関わりが認められたからこそと思われます。

「FM791(熊本市)」の『FM791子どもラジオ局』(土曜日・15時～)では、小学生たちが本格的なパーソナリティとして活躍しています。出演する子どもたちは、発声練習、ニュース・コマーシャル読みの訓練を徹底的に行っているとのこと。大きな声が出るようになったと、児童自身が驚くことも珍しくないそうです。

また、中学2年生を対象とした熊本市教育委員会の体験学習事業「ナイストライ事業」に積極的に協力。2003(平15)年度は10校余り・約50人の生徒を受け入れ、独自の日程を組んで、仕事の補助、番組への参加・制作などを体験してもらっています。

さらに、体験型学習の一環として、児童たちがさまざまな施設や事業所などを訪問する「FM791子ども探

検隊」を企画。これまで数回実施され、その様子は番組内で報告されます。また、地元紙と連携して1学期に2回発行する「FM791子ども新聞」でも紹介され、子どもたちや保護者、学校関係者から喜ばれています。

■社会問題がテーマの番組づくり

全国で凶悪犯罪、少年犯罪、また最近では“オレオレ詐欺事件”が多発しています。また、複雑な契約を逆手にとった新手の犯罪に巻き込まれる人たちも少なくありません。“市民の放送局”を標榜する「サンシャインFM(宮崎市)」では、地域の住民がこうしたトラブルに巻き込まれないよう、警察・市役所から各々の担当者を招き対応策や防止策を語っていただく『サンシャインひむかっ子』『はい!消費生活相談室です』などの番組を放送しています。

また、現代は誰もが被害者になる時代。こうした中、宮崎でも犯罪被害者支援センターが設立されましたが、“被害者支援”と“地域安全”は同じという意識で、しかも民間の力でその意識の輪を広げる必要がある——。同局では、このような考えから、こうした被害者支援の動きについても、番組やレギュラースポットで応援。積極的に社会問題と向き合っています。



「フレンズFM762」ステーションネームの名付け親である藤井フミヤさんが番組出演

「フレンズFM762(鹿児島シティエフエム)」
開局の様子を伝える新聞記事
1997(平9)年10月2日 南日本新聞

■ 地区内での連携策

番組制作や広告営業、イベントの実施などさまざまな活動において、単独局での取り組みには限界があるのは九州地区に限ったことではありません。その対策として、域内での連携策を図る地区も少なくないでしょう。九州地区協議会でも、全局が結束して営業・放送両部門において研修活動を行っています。

放送部門では、パーソナリティーの技術（話術）の向上や番組へのリスナー参加の方策、放送と報道のあり方などについて、関係者から話を聞いたり、演習を行うなどしています。

また営業部門では、連携によるエリア拡大とスポンサーの発掘（誘致）、営業関係のイベントの成功例の検証など、きめ細かく論議・検討を続けています。

こうした中、現在は「FREE WAVE（福岡市）」がリーダー的な役割を果たし、共同番組の配信、営業活動の連携などを率先し、実績を挙げてきています。こうした取り組みは、今後のコミュニティ放送発展のための一つの方向性を示すものとして、各局の関心を集めています。



「サンシャインFM」
「ミッキーのフォークビレッジ」にアマチュアシンガーが参加



「エフエムやつしろ（かっぱFM）」が
地域から授与された表彰状・感謝状

JCBA九州地区協議会の10年、及び加盟各局の歩み

1996(平8)年	4月1日	熊本シティエフエム（熊本市／愛称：FM791、79.1MHz、電力10W）開局。
	10月1日	天神エフエム（福岡市／愛称：FREE WAVE、77.7MHz、電力10W）開局。福岡市中心部の天神にサテライトスタジオ設置。 後に本社・本社スタジオも同サテスタに移転。
1997(平9)年	6月	FM791、熊本市議会的一般質問議員にインタビューする「市議登壇」放送開始。（以後、各定例会ごとに放送）
	9月1日	FM791、NHKなど県内3ラジオ局と共同制作の「防災いのちのラジオ」を生放送。（以後、毎年同番組を放送）
	10月1日	エフエムやつしろ（八代市／愛称：かっぱFM、76.5MHz、電力10W）開局。
	10～11月	鹿児島シティエフエム（鹿児島市／愛称：フレンズFM762、76.2MHz、電力10W）開局。 愛称の名付け親は歌手の藤井フミヤさん。 かっぱFM、地元のビッグイベント「やつしろ全国花火大会」「妙見宮大祭」の中継生放送の開始。
	12月21日	フレンズFM762、特番「ハイスクールカラオケチャンピオンシップ」の放送開始。
1998(平10)年	2月22日	エフエムたまな（玉名市／愛称：ほっとラジオ、76.4MHz、電力10W）開局。
	7月6日	エフエム小国（熊本県小国町／愛称：グリーンポケット、76.5MHz、電力10W）開局。
	9月21日	グリーンポケット、文字多重放送開始。
	10月17日	FM791、台風情報特別番組を放送。
	12月23日	くるめシティエフエム（久留米市／愛称：ドリームスエフエム、76.5MHz、電力10W）開局。
1999(平11)年	2月14日	宮崎サンシャインエフエム（宮崎市／愛称：サンシャインFM、76.1MHz、電力10W）開局。
	3月	ほっとラジオ、タウン情報誌「Poke玉」発刊。
	3月14日	宮崎シティエフエム（宮崎市／愛称：City FM 77、77.0MHz、電力10W）開局。
	7月18日	フレンズFM762、特番「シーサイドステーション イン ウォーターフロント フェスティバル」など5番組を同フェスティバル会場から生放送。（以後、毎年同番組を制作）
	8～12月	各局で放送電力の増力が相次ぐ。（FM791・FREE WAVE・City FM 77・フレンズFM762：10W→20W）
	8月6日	サンシャインFM、台風情報に関する特別番組を放送。
	9月	ドリームスエフエム、久留米市中心街にサテライトスタジオを設置。
	9月23日	サンシャインFM・FM791・グリーンポケット、台風情報に関する特別番組を放送。
	10月2日	FM791、「総合的な学習」に対応した番組「シティで学ぼう」放送開始。
	11月3日	ほっとラジオ、オササテライトスタジオ開設。
2000(平12)年	1月1日	エフエム諫早（諫早市／愛称：レインボーエフエム、77.1MHz、電力20W）開局。
	1月8日	東九州コミュニティ放送（福岡県稚田町／愛称：スターコーンFM、76.7MHz、電力20W）開局。
	3月3日	福岡コミュニティ放送（福岡市／愛称：FM MiMi、76.8MHz、電力20W）開局。
	7月7日	FREE WAVE、九州沖縄サミット公式歓迎事業「Fukuoka Live SUMMIT 2000」を開催。サミット参加8カ国の若手ミュージシャンによるジョイントイベントを行う。
	7月20日	City FM 77、サテライトスタジオを宮崎駅前のファッションビルに移転。
	9月	ドリームスエフエム、サテライトスタジオを焼失。
	12月8日	ほっとラジオ、放送電力を10Wから20Wに増力。
	12月23日	かっぱFM・ほっとラジオ、特番「クリスマスソングDJバトル」を同時放送。
	12月27日	サンシャインFM、放送電力を10Wから20Wに増力。
2001(平13)年	4月1日	レインボーエフエム、メール配信サービスを開始。（行政情報から地域情報まで幅広く配信中）
	4月17日	グリーンポケット、放送電力を10Wから20Wに増力。
	4月17日	シティエフエム都城（都城市／愛称：City fm 764、76.4MHz、電力20W）開局。
	6月19日	レインボーエフエム、大雨洪水警報発令に伴い緊急放送を行う。
	7月7日	レインボーエフエム、防災情報・福祉情報に特化した携帯用メール配信サービスを実施。
	8月	フレンズFM762、FM鹿児島とのサイマル放送で花火大会の「Wでドカーンとサマーナイト」を放送。
	10月1日	かっぱFM・ドリームスエフエム、放送電力を10Wから20Wに増力。
2002(平14)年	3月	レインボーエフエム、携帯緊急メール配信システム開発。
	7月	ドリームスエフエム、社名を「くるめシティエフエム」から「ドリームスエフエム」に変更。
	12月15日	ほっとラジオ、「第1回ほっとツリーコンテンツ」開催。
2003(平15)年	4月	フレンズFM762、スタジオ・事務所を移転。
	5月17日	かっぱFM、八代市主催の防災訓練に参加。
	6月	ドリームスエフエム、久留米中心街にサテライトスタジオを設置し、正午から8時間の生放送を開始。
	7月	ドリームスエフエム、社名を「ドリームスエフエム」から「ドリームスエフエム放送」に変更。
	8月	フレンズFM762、ラジオ3局との同時放送で防災特番「豪雨災害から10年 防災ラジオ鹿児島」を放送。

■「沖縄」におけるコミュニティ放送とは？

日本最南端にあり、多くの島々からなる沖縄。かつては「琉球王国」として栄えたこの地は、その後第二次大戦の戦闘の舞台となり、終戦後はアメリカに統治され、返還後も基地問題に揺れ動くなど、さまざまな歴史を経てきました。その歴史の中で育まれてきた沖縄の文化はバラエティ豊かで、しかも地域ごとにそれぞれ異なる特色を有しています。また、自らを「ウチナンチュ（沖縄人）」と言い表すように、沖縄県民は自分たちのアイデンティティを誇りとし、人と人との結びつきが密な土地でもあります。

このような特性を持つ沖縄では、地域ごとのお祭りやイベントが盛んで、人々の“地域”への帰属意識は非常に高いといえるでしょう。

そんな中で開局したコミュニティ放送は、おのずと住民との密着度が高く、ほとんどの番組が自局のオリジナルで、それも住民参加による番組が多数を占めています。また、地域ごとに非常に特色のある番組が放送され、住民に好評を得ています。

■各局の特色ある取り組み

沖縄地区での開局第1号は1997（平9）年4月1日に誕生した「FMたまん（糸満市）」。

愛称の「たまん」とは、糸満市の“市の魚”である「ハマフエフキ」の沖縄方言。市民に親しまれるコミュニティ局になれるようにと命名されました。誰もが参加できる地域に根ざした情報発信メディアとして、キー局が手がけないことにチャレンジするのがモットー。

旧暦、気象、漁協情報といった生活情報をはじめ、迷子や訃報、自治会や商店街のお知らせなど市民からの情報提供にも即座に対応するフットワークの良さが好評です。時には携帯電話を活用して機動力のある生中継も行います。

そして、「言葉は文化の基盤」という理念から、パーソナリティは地元の言葉で自分を表現することが求

められています。また、地域文化の伝承・発展のために、「ハーレー」や「十五夜」などの伝統行事の特別番組にも積極的に取り組んできました。宮古・石垣・本島・奄美のそれぞれの島唄は毎日放送されています。

防災に関する取り組みでは、防災のためのワンポイントアドバイスとして、開局以来、糸満市消防情報を毎日発信中。大雨や台風時には行政と連携して災害情報を迅速に伝えてきましたが、今後は糸満市役所ならびに周辺地域の関係部署と連携を深め、非常時の放送体制をいっそう整備したいと考えています。

「FM21」は2002（平14）年1月21日に浦添市で開局しました。ステーションネームには21世紀の夢を実現したいという思いを込めました。採算にとらわれずに、沖縄の「結（ゆい）まるる」の気持ち（互いに助け合う気持ち）を大切にした番組作りを心がけ、リスナーに勇気や希望、楽しみを与えられるコミュニティ局に育っていくことが目標です。

また開局以来、ハワイとの同時放送を継続中。中高年のリスナーをターゲットとし、音楽は全国的に流行った懐メロ中心に、そして「沖縄の掟」など地元の暮らしに密着した情報が送られています。

防災関連では、連日、応急処置方などいざというときにすぐに役立つ情報を消防や警察から伝えています。「FM21」の将来の夢は放送劇をオン・エアすること。その実現に向けて努力が続けられています。

沖縄県の情報・人・モノが集まる那覇市。ここに2002（平14）年7月8日に開局したのが「亜熱帯FM」です。那覇市・国際通り商店街の「地域活性化のために」という強い要望に応える形で誕生。国際通り郵便局の1、2階にスタジオを構え、商店街のお買い得情報のような生活関連情報から、観光情報、行政情報、緊急災害情報などをリアルタイムで発信しています。

人気番組のひとつ『Music Combo』は、音楽に詳しいレコード店やライブハウス、服飾ショップなどの店員が日替わりで出演。ロック、カントリー、インディ



「FMたまん」局舎外観



「FM21」送信所



「亜熱帯FM」スタジオ

ーズ、レゲエ、ポップスなど、多種多彩のジャンルが楽しめる好評です。

有線放送を利用すれば沖縄全県で聴取が可能となり、また、インターネット・ラジオにアクセスすれば、県外・国外でも24時間番組を楽しむことができます。

そして、2003（平15）年11月には、国際通り商店街活性化に向けて行なわれた「那覇市国際通りトランジットマイル社会実験」（国際通り周辺への一般の車両を規制して歩行者に考慮し、公共交通機関の通行のみを許可）を生放送で中継しました。そのように、那覇で快適に過ごすための質の高い情報の提供と、中心市街地の活性化につながる事業を、いっそう拡大していくことが今後の目標です。

2002（平成14）年7月20日、宮古島のほぼ中心に位置する「トロピカルフルーツパーク」内に開設されたのが「サザンウェーブ・エフエムみやこ」。ステーションネームは、「南からの風と波は人々に幸せを運んでくる」という宮古の昔からの言い伝えに由来します。島に一つしかないラジオ局として、住民生活に必要な新鮮情報と気持ちの良い音楽を届けることで、リスナーを幸せにすることができれば、という願いが込められています。

宮古島ではビーチバレーやマラソン、天女の水まつり、産業まつりなど、さまざまなイベントが開催されますが、「宮古のイベントにエフエムみやこあり」と称されるほど、イベント中継には力を注いでいます。

中でも4月に行われる全日本トライアスロン大会は、大会スタート前の午前6時から午後10時まで16時間完全生放送で大会を盛り上げています。

沖縄は台風銀座とも言われる地域です。2003（平15）年9月11日の台風14号の襲来で、午前3時頃に自社送信アンテナのポールが破損し放送が中断。職員の懸命な



「サザンウェーブ・エフエムみやこ」スタジオから「宮古の元気」を発信！

JCBA沖縄地区協議会の10年、及び加盟各局の歩み

1997（平9）年	4月1日	いとまんコミュニティエフエム放送（糸満市／愛称：FMたまん、76.3MHz、電力10W）開局。
	6月	FMたまん、糸満市内の7局の郵便局と「独居老人にラジオを贈ろう」キャンペーン実施。
1998（平10）年	10月	FMたまん、具志頭村情報 南部を中心とした商工会番組開始。
1999（平11）年	5月	FMたまん、市役所課長対談開始。
	10月	FMたまん、防災番組、社協だより、漁協のセリ情報、消防署・警察署など各種団体番組開始。
	12月	FMたまん、糸満市のイベント「平和のひかり事業」でのカウントダウンコンサートを主催。
2001（平13）年	7月	FMたまん、ビデオ（映像）部開設。
	12月	FMたまん、月刊ニコニコ紙「うるとらマン通信」発行。
2002（平14）年	1月21日	エフエム二十一（浦添市／愛称：FM21、76.8MHz、電力10W）開局。
	3月	FMたまん、ケーブルテレビの1時間番組制作開始。
	7月8日	エフエムなは（那覇市／愛称：亜熱帯FM、78.0MHz、電力20W）開局。
	7月20日	エフエムみやこ（宮古郡上野村／愛称：サザンウェーブ・エフエムみやこ、76.5MHz、電力20W）開局。
	12月31日	亜熱帯FM、国際中央通り商店街振興組合主催のカウントダウンイベントを中継。
2003（平15）年	6月	FMたまん、防災特別番組放送。
	8月	FM21、可聴エリアを宜野湾市まで拡大。
	9月12日	FMみやこ、特別番組「台風14号の被害状況」を放送。
	11月21～23日	亜熱帯FM、那覇市国際通りトランジットマイル社会実験を生放送。
	12月31日	亜熱帯FM、特別番組『大典寺カウントダウンライブ 往く寿還る寿』放送。

復旧作業によりその日の午後5時から仮設アンテナで放送を再開し、台風関連の情報を送信し続けました。

「新鮮情報を届ける島ラジオ」をキャッチフレーズに、機動力を活かした中継や出前放送がセールスポイントですが、今後は宮古和牛競り市場や魚市場、農作業中の畑などでの出前放送にも積極的に取り組み、地域の産業を応援していきたいと考えます。

また、宮古ならではの地域文化や民謡の番組を制作し、次世代に宮古独自の伝統・文化の継承を図ることを目指しています。

■沖縄地区の今後の展望

沖縄県のコミュニティ放送5局（*内1局は非加盟）は、亜熱帯地方ならではの南国ムードあふれる放送をお届けしています。各局、地域の特色を活かした番組作りで地域情報密着のプログラムを放送。リスナーからも好評を得ています。そして、番組制作・放送のみならず、イベント企画を組み、積極的に地域との関わりを持つことで、地元へ密着した放送局として位置付けられています。また、行政や各公共機関と密接に連絡し、緊急時や災害時の臨時放送の充実に努めています。

今後はさらなる地域活性化を図り、放送を通じた活力ある街づくりを目指しながら、より地域との関わりを探究し続けていきたいと考えています。